鹿児島県

（公財）埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(53)　川久保遺跡5　A地点　二〇二三年三月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（53）

東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 川久保（かわくぼ）遺跡5
# A地点

（鹿屋市串良町）
縄文時代後期・晩期・弥生編
第1分冊

2023年3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

川久保遺跡A地点遠景

# 序　文

この報告書は，東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）建設に伴って，平成 26 年度から平成 29 年度にかけて実施した川久保遺跡A地点の縄文時代後期・晩期・弥生時代・古墳時代・近世の発掘調査の記録です。

川久保遺跡は鹿屋市串良町に所在し，旧石器時代，縄文時代草創期・早期・前期・後期・晩期，弥生時代，古墳時代から近世までの遺構や遺物が発見されました。古墳時代は竪穴建物跡 56 基や竪穴状遺構7基など多数の遺構が検出され，竪穴建物跡のなかには鍛冶を行っていたと考えられる建物跡が5基検出されています。出土した土器は古墳時代の東原式土器から笹貫式土器の範疇に含まれるため，それらの土器を使用した期間に鍛冶が営まれたと考えられます。また，川久保遺跡 A 地点の西側にある谷部では，7世紀後半～8世紀代と考えられる製鉄遺構が検出され，製鉄炉が復元できました。これは製鉄炉の構造を知るうえで大変貴重な資料の一つです。近世に関しては，2基の炭焼窯跡とそれに伴う2基の土坑が検出されました。窯口から煙道部までが完全に残存しており，江戸時代の炭焼窯の構造が復元できる貴重な資料であり，これらは地域の歴史を考えるうえで貴重な発見となりました。

本報告書が，県民の皆様をはじめ，多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心と御理解をいただくとともに，文化財保護の普及・啓発の一助になれば幸いです。

最後に，発掘調査から報告書刊行まで御協力いただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所，鹿屋市教育委員会等の関係各機関並びに発掘調査や報告書作成において御指導・御協力いただきました方々に対し厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター長　中村　和美

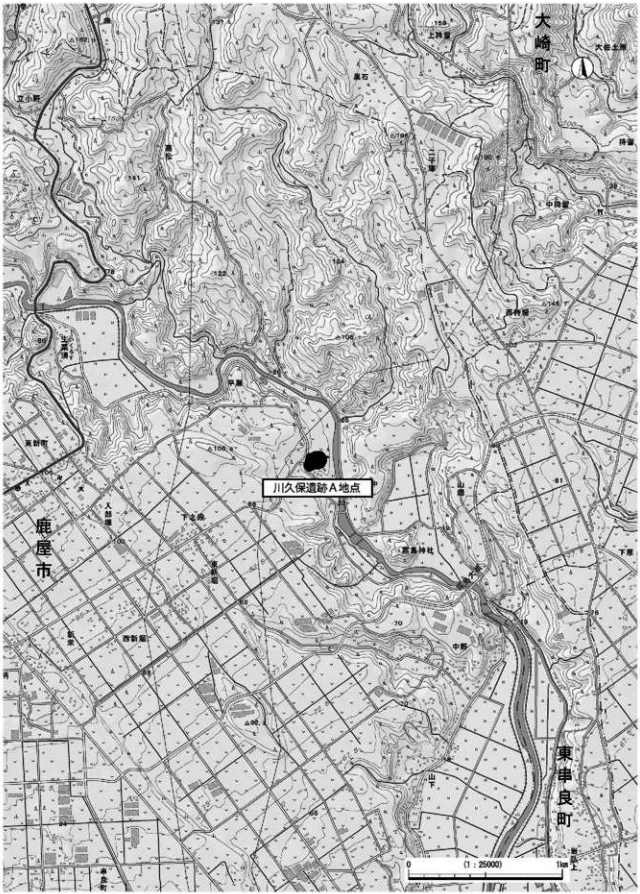
# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | かわくぼいせきご |
| 書名 | 川久保遺跡５　Ａ地点　縄文時代後期・晩期・古墳・近世編 |
| 副書名 | 東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第53集 |
| 編著者名 | 岩永勇亮（埋蔵文化財調査センター）　賦句博隆・白井菜実（新和技術コンサルタント） |
| 編集機関 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター |
| 発行年月 | 西暦2023年３月 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 川久保遺跡 | 鹿児島県鹿屋市串良町細山田 | 46203 | 203-349 | 31°26′40″ | 130°56′26″ | 試掘調査<br>2015.11.４～2016.１.28<br>本調査<br>①2014.５.12～2015.１.28<br>②2015.５.９～2016.１.27<br>③2016.５.11～2017.１.27<br>④2017.５.８～2018.３.９ | 27,327（表面積）<br>96,403（延面積） | 東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時期 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 川久保遺跡Ａ地点 | 散布地 | 旧石器時代 | 礫群　28基 | ナイフ形石器，台形石器，剥片尖頭器，細石刃核，細石刃，石核，磨石，敲石，叩石 | 畦原型細石刃核が多く出土する傾向がある。 |
| | | 縄文時代草創期 | 礫群　４基 | 隆線文土器，細石刃核，細石刃，石鏃，石核，磨石，敲石叩石 | |
| | | 縄文時代早期 | 集石　276基<br>連穴土坑　12基<br>土坑<br>磨石集積遺構　１基 | 岩本式土器，前平式土器，志風頭式土器，加栗山式土器，吉田式土器，石坂式土器，下剥峯式土器，押型文土器，塞ノ神式土器，苦浜式土器，石京西式土器，轟Ａ式土器他，耳栓，石鏃，石核，磨石，敲石，叩石 | 南九州の縄文時代早期のほとんどの型式が出土している。 |
| | | 縄文時代前期 | 集石　23基 | 西之薗式土器，轟Ｂ式土器，曽畑式土器，磨製石斧，石鏃，磨石 | － |
| | | 縄文時代後期・晩期 | 土坑 | 黒川式土器，刻目突帯文土器，動物形土製垂飾品，石鏃・石匙・打製石斧 | － |
| | | 弥生時代 | 竪穴建物跡　１基 | 土器 | － |
| | | 古墳時代 | 竪穴建物跡　56基<br>竪穴状遺構　７基<br>鍛冶関連遺構 | 東原式土器，往棠原式土器，笹貫式土器，輪羽口，高坏脚転用輪羽口，鉄滓，勾玉，管玉 | 古墳時代末～古代の製鉄炉跡が検出されている |
| | | 古代・中世 | 掘立柱建物跡　34基<br>竪穴建物跡　３基<br>古道跡，溝跡<br>土坑墓　３基 | 須恵器，土師器，黒色土器，墨書土器，瓦器，青磁，白磁，滑石製石鍋，土錘 | 溝と古道で区画されたなかに，建物跡が並ぶ |
| | | 近世 | 炭焼窯跡　２基 | | － |

| | |
|---|---|
| 要約 | 川久保遺跡Ａ地点は，旧石器時代から縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と連綿と生活の痕跡が見られる複合遺跡である。縄文時代晩期の遺物としては，部分的に赤色に塗られた動物形土製品が出土している。古墳時代の遺構としては，竪穴建物跡が56基検出されており，そのなかには少なくとも５基の鍛冶関連建物跡が含まれる。鍛冶関連建物跡からは鍛冶炉と考えられる炉跡が検出され，専用品・転用品の輪の羽口が出土している。また，遺跡の西側に位置する谷部からは，７世紀後半～８世紀後半の製鉄炉跡と考えられる遺構が１基検出されている。 |




川久保遺跡A地点位置図（1/25000）

# 例　　言

1　本編は，東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）に伴う川久保遺跡発掘調査報告書「川久保遺跡５　Ａ地点　縄文時代後期・晩期・弥生時代・古墳時代・近世編」である。

2　本遺跡は，鹿児島県鹿屋市串良町細山田に所在する。

3　発掘調査は，国土交通省九州地方整備局から鹿児島県教育委員会（以下「県教委」）が受託し，公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下「埋文調査センター」）へ調査委託し，埋文調査センターが実施した。本遺跡は，Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地点に区分して調査を行った。

4　川久保遺跡４地点の調査は，平成26年度～平成29年度まで実施し，全てを完了した。なお平成26年度は，大福コンサルタント株式会社，平成27年度・平成28年度は，株式会社埋蔵文化財サポートシステム，平成29年度は，株式会社島田組に発掘調査支援業務を委託した。詳細については，第Ⅰ章に記した。

5　整理・報告書作成事業については，平成29年度は，埋文調査センターの第一整理作業所，平成30年度・平成31年度・令和４年度は，第二整理作業所において実施した。なお平成30年度は大福コンサルタント株式会社，平成31年度・令和２年度は株式会社埋蔵文化財サポートシステム，令和３年度は株式会社九州文化財研究所，令和４年度は新和技術コンサルタント株式会社に支援業務を委託した。

6　掲載した遺構番号は，それぞれの時代ごとの通し番号で本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。

7　遺物注記等で用いた遺跡略号は，「ＫＫＢ」である。

8　挿図の縮尺は，挿図ごとに示した。

9　本編で使用したレベル数値は，海抜絶対高である。

10　本編で使用した方位は，全て磁北であり，測量座標は国土座標系第Ⅱ系を基準としている。

11　遺構の埋土や土器の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局)を参考にした。

12　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，主として調査担当者及び受託業者が行った。また，空中写真の撮影は，株式会社ふじたに委託した。

13　本編に係る遺構及び遺物の実測・トレース図の作成は，岩永と受託業者が整理作業員とともに行った。また，遺物実測（石器）の一部を大福コンサルタント株式会社，株式会社埋蔵文化財サポートシステム，株式会社島田組，株式会社九州文化財総合研究所に委託し，岩永・受託業者が監修を行った。

14　自然科学分析は年代測定等を，株式会社加速器分析研究所，パリノ・サーヴェイ株式会社，株式会社パレオ・ラボ，金属分析を日鉄テクノロジー株式会社に委託した。また，装飾品の石材分析は熊本大学大坪志子准教授のご協力を頂いている。

15　出土遺物の写真撮影は，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」）の写場で，辻・宮崎・岩永が行った。

16　本編の執筆は，次のように分担した。


第Ⅰ章……岩永・白井
第Ⅱ章……岩永・白井
第Ⅲ章……岩永・白井
第Ⅳ章
　第１節　縄文時代後期・晩期・弥生時代の成果
　遺構……岩永
　土器……宮崎・兒島
　石器……岩永・賦句・上川路・新福
　第２節　古墳時代の成果
　遺構……岩永
　土器……岩永・鎌田・上川路
　石器……岩永
　鉄・鍛冶関連……中村・村上・岩永・川口
　第３節　近世の成果
　遺構……岩永
　遺物……鎌田・上川路
第Ⅴ章　自然科学分析岩永・白井（編集）
第Ⅵ章　総括
　古墳時代遺構……岩永
　古墳時代土器……鎌田
　製鉄関連……村上
図版……岩永


17　本編に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は，埋文センターで保管し，展示・活用を図ることにしている。

# 凡　　例

1　本編に掲載してある遺構図・遺物出土状況等の１グリッド（１マス）は，10ｍ四方である。

2　遺構の平面図の縮尺は挿図ごとに示した。

3　遺構の断面図については，基本的には平面図と同縮尺とした。

4　遺構の実測で用いた表現方法については，実測表現の凡例のとおりである。

5　遺構配置図は，縮尺をそれぞれ別途に掲載した。

6　遺構番号に関しては，調査時に付したものから，報告書掲載順に振り直した。

# 総目次

【第１分冊】
序文
報告書抄録
川久保遺跡Ａ地点位置図
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯
　第２節　事前調査
　第３節　本調査
　第４節　整理・報告書作成
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
　第３節　東九州自動車道関連の遺跡
第Ⅲ章　調査の方法と層序
　第１節　調査の方法
　第２節　層序
第Ⅳ章　調査の成果
　第１節　縄文時代後期・晩期・弥生時代の成果
　　１　縄文時代後期・晩期の土器
　　２　縄文時代後期・晩期の石器
　　３　弥生時代遺構
　　４　弥生時代遺物
【第２分冊】
　第２節　古墳時代の成果
　　１　遺構
　　２　遺物
　第３節　近世の成果
　　１　遺構
　　２　遺物
【第３分冊】
第Ⅴ章　自然科学分析
　第１節　自然科学分析概要
　第２節　分析結果の報告
　　１　放射性炭素年代測定（AMS法）
　　２　樹種同定
　　３　種実同定
　　４　金属分析
　　５　蛍光X線分析
第Ⅵ章　総括
写真図版

# 本文目次

序文
報告書抄録
川久保遺跡Ａ地点位置図
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　発掘調査の経過……1
　第１節　調査に至るまでの経緯……1
　第２節　事前調査……1
　第３節　本調査……2
　第４節　整理・報告書作成……6
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……11
　第１節　地理的環境……11
　第２節　歴史的環境……11
　第３節　東九州自動車道関連の遺跡……15
第Ⅲ章　調査の方法と層序……20
　第１節　調査の方法……20
　第２節　層序……26
第Ⅳ章　調査の成果……32
　第１節　縄文時代後期・晩期・弥生時代の成果……32
　　１　縄文時代後期・晩期の土器……32
　　２　縄文時代後期・晩期の石器……44
　　３　弥生時代遺構……64
　　４　弥生時代遺物……64

# 挿図目次


第１－１図　周辺遺跡位置図……14
第１－２図　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡位置図　……20
第１－３図　周辺地形及びグリッド配置図……21
第１－４図　標準土層図……26
第１－５図　土層断面図位置図……26
第１－６図　土層断面図①……27
第１－７図　土層断面図②……28
第１－８図　土層断面図③……29
第１－９図　土層断面図④……30
第１－10図　土層断面図⑤……31
第１－11図　縄文時代晩期　土製品……33
第１－12図　縄文時代後期・晩期出土遺物分布図（土器）　……34
第１－13図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器①）‥35
第１－14図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器②）‥36
第１－15図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器③）‥37
第１－16図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器④）‥38
第１－17図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑤）‥39
第１－18図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑥）‥40
第１－19図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑦）‥41
第１－20図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑧）‥42
第１－21図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑨）‥43
第１－22図　縄文時代後期・晩期　出土遺物分布図（石器）　……46
第１－23図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器①）‥47
第１－24図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器②）‥48
第１－25図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器③）‥49
第１－26図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器④）‥50
第１－27図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑤）‥51
第１－28図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑥）‥52
第１－29図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑦）‥53
第１－30図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑧）‥54
第１－31図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑨）‥55
第１－32図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑩）‥56
第１－33図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑪）‥57
第１－34図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑫）‥58
第１－35図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑬）‥59
第１－36図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑭）‥60
第１－37図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑮）‥61
第１－38図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑯）‥62
第１－39図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑰）‥63
第１－40図　弥生時代　竪穴建物跡……64
第１－41図　弥生時代竪穴建物跡１号……65
第１－42図　弥生時代竪穴建物跡１号　出土遺物……66


# 表目次


表１－１　周辺遺跡一覧表……13
表１－２　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表①　……15
表１－３　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表②　……16
表１－４　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表③　……17
表１－５　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表④　……18
表１－６　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表⑤　……19
表１－７　石器分類表……24
表１－８　石材分類表……25
表１－９　縄文時代後期・晩期の石器　観察表……67

# 第Ⅰ章　発掘調査の経過

## 第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会（以下「県教委」という。）は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所（現西日本高速道路株式会社）は，東九州自動車道（志布志IC～末吉IC）建設を計画し，当該事業区間における埋蔵文化財の有無について，県教委に照会を行った。これを受けて，鹿児島県教育庁文化財課（以下「文化財課」という。）は，平成12年２月に，志布志IC～鹿屋串良JCT間の埋蔵文化財の分布調査を実施し50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。この分布調査結果をもとに事業区内の埋蔵文化財の取扱いについて，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所，鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室，文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」という。）の４者で協議を重ね対応を検討してきた。その後，日本道路公団民営化の政府方針が提起され，事業計画の見直しと建設コストの削減を検討することとなった。このような社会情勢の変化や道路建設工事計画の変更に伴い，遺跡についてもより綿密な把握が求められることとなり，埋蔵文化財の詳細分布調査と試掘調査及び確認調査が実施されることとなった。なお，志布志IC～鹿屋串良JCT間については，平成14年４月に再度分布調査を実施した。その後，日本道路公団民営化の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定，平成16年３月には，国土交通省九州地方整備局長，日本道路公団九州支社長，鹿児島県知事の間で新直轄方式施工に伴う確認書が締結された。工事は，日本道路公団が国土交通省から受託し，発掘調査は，日本道路公団が鹿児島県へ再委託することになり，これまでの確認書や協定書は，そのまま継承されることになった。また，日本道路公団からの再委託による発掘調査は，曽於弥五郎ICまでで終了し，曽於弥五郎ICからの先線部は，国土交通省からの受託事業として委託することになった。なお，平成21年度までの当該区間の確認調査は，事業の円滑な推進を図る観点から本発掘調査の手順の中で国土交通省の事業費により行ってきたが，平成23年度からは，文化庁の国庫補助事業を導入し，県内遺跡事前調査事業として鹿児島県教育委員会が実施することになった。これをふまえ平成23年度は，荒園遺跡・永吉天神段遺跡・堂園平遺跡，平成24年度は，町田堀遺跡・牧山遺跡・京の塚遺跡（現細山田段遺跡）・宮脇遺跡，平成25年度は，小牧遺跡・安良遺跡・木森遺跡，平成26年度は，川久保遺跡・春日堀遺跡・小牧古墳群（現安楽小牧B遺跡）の確認調査を実施した。近年は，東九州自動車道建設事業等の増加に伴い，埋蔵文化財調査の事業量も増大することが見込まれ，その対応が困難な状況となりつつあった。そこで，公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下「埋文調査センター」という。）を平成25年度に設立し，国関係の事業に係る発掘調査をより円滑かつ効率的に実施することとなった。川久保遺跡については，平成26年度に埋文センターによる確認調査で旧石器時代，縄文時代早期及び晩期，古墳時代，古代の遺物包含層が確認された。なお本調査は，民間調査組織と支援業務委託を契約して実施することとした。また，遺跡が広範囲に及ぶため，地形等を勘案して調査区をA～D地点に区分することとした。

## 第２節　事前調査

### １　分布調査・詳細分布調査

川久保遺跡に関する分布調査は，詳細分布調査を含めて２回実施した。１回目の分布調査は，文化財課が平成12年２月に志布志IC～鹿屋串良JCT間について実施した。この結果，川久保遺跡を含む50か所の遺跡で，面積にして854,100㎡を確認した。その後，より詳細な情報を得ることを目的として平成14年４月に県文化課が詳細分布調査を実施した。この結果，川久保遺跡を含む遺跡面積の合計は，384,400㎡を確認した。

### ２　試掘調査

川久保遺跡における試掘調査は，遺跡の東側を中心に平成25年度に県教委が実施した。試掘調査の結果，古墳時代の遺構や遺物包含層を確認した。また，平成27年度の本調査時には，A地点・B地点について薩摩火山灰層以下の状況確認のため試掘トレンチを設けた。その結果，B地点では遺構や遺物は確認されなかったが，A地点の約1,000㎡で縄文時代草創期から旧石器時代の包含層を確認した。

### ３　確認調査

川久保遺跡の確認調査は，平成26年11月４日～平成27年１月28日に実施した。調査対象は，遺跡の西側の約4,700㎡であった。調査は，６m×２mのトレンチを11か所設定し，掘削を行った。調査の結果，遺跡の全面で中世から縄文時代早期の包含層を２面確認し，遺跡の一部の約900㎡からは，旧石器時代の包含層を確認した。本時の確認調査範囲は，後日C地点として本調査が行われた。

### 4　調査体制

事業主体　鹿児島県教育委員会
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　県立埋蔵文化財センター

| | | | |
|---|---|---|---|
| 〃 | 所長 | 井ノ上 | 秀　文 |
| 調査企画　〃 | 次長兼総務課長 | 中　島 | 　治 |
| 〃 | 調査課長兼縄文調査室長 | 前　迫 | 　亮一 |
| 〃 | 調査課第二係長 | 今　村 | 敏　照 |
| 調査担当　〃 | 文化財主事 | 光　永 | 　誠 |
| 〃 | 文化財主事 | 本　髙 | 謙　治 |
| 事務担当　〃 | 総務課主事 | 池之上 | 勝　太 |

## 第３節　本調査

試掘調査・確認調査の結果をふまえ，本調査は，平成26年度～平成30年度までの５か年で実施している。第１回は，平成26年４月11日～平成27年３月12日まで，第２回は，平成27年５月９日～平成28年１月27日まで，第３回は，平成28年４月11日～平成29年３月10日まで，第４回は，民間が平成29年５月９日～平成30年１月26日まで実施し，埋文調査センターが平成29年４月11日～平成30年３月９日までの期間で調査を実施した。また，第５回は，平成30年12月10日～平成31年２月22日までの期間で調査を実施した。なお，平成30年度が川久保遺跡の本調査最終年度であるが，Ａ地点の本調査は，平成29年度が最終年度である。

以下では概要と体制を記し，経過は日誌抄で記述する

### 1　概要

**平成26年度**

大福コンサルタント株式会社に委託し，遺跡の東側を中心に5,830㎡の調査を実施した。その結果，縄文時代前期と晩期の遺物，弥生時代の竪穴住居跡，古墳時代の竪穴住居跡及び鍛冶関連建物跡，古代・中世の掘立柱建物跡，溝状遺構や道跡等を発見した。

**平成27年度**

株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し，川久保遺跡全体で18,534㎡を対象に調査を実施した。その結果，縄文時代前期・晩期の遺構・遺物，弥生時代及び古墳時代の竪穴住居跡，古代の土坑，中世の掘立柱建物跡及び溝状遺構を発見した。また，トレンチ調査により，旧石器時代，縄文時代早期の遺構・遺物を確認した。

**平成28年度**

株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し，遺跡全体で34,230㎡を対象に調査を実施した。その結果，旧石器時代細石器文化期の遺物，縄文時代早期の集石遺構と遺物，縄文時代前期・晩期，弥生時代の遺物，古墳時代の竪穴住居跡・製鉄関連の遺構と遺物，中世の土坑・道跡と遺物を発見した。

**平成29年度**

埋文調査センター（直営）と調査を委託した株式会社島田組（民活）の２班体制で本調査を実施した。調査対象面積は，37,809㎡である。Ａ地点の調査の最終年度である。その結果，旧石器時代は，ナイフ形石器文化期から細石器文化期の遺構と遺物，縄文時代草創期の礫群・連穴土坑等の遺構と遺物を発見した。また，縄文時代早期の連穴土坑・土坑・集石遺構等の遺構と遺物，縄文時代後期の石器集積遺構と遺物を確認した。さらに，縄文時代晩期の集石遺構と遺物，弥生時代終末期から古墳時代にかけての竪穴住居跡・土坑等の遺構と遺物を発見した。また，本調査と並行して遺物洗浄・注記の基礎整理作業を実施した。

**平成30年度**

埋文調査センター（直営）で本調査を実施した。調査対象面積は，2,283㎡である。調査の結果，縄文時代晩期の集石遺構と遺物が出土した。古墳時代では，土坑１基と焼土を検出した。遺物は，古墳時代は，成川式土器が出土し，古代は，土師甕・内黒土師器・須恵器等が出土した。中世の遺物は，青磁が出土している。また，本調査と並行してＣ地点の報告書の刊行とＡ地点の遺物洗浄や注記等の基礎整理作業を実施した

### 2　調査体制

**平成26年度**

事業主体国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所
調査主体鹿児島県教育委員会
調査統括（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

| | | | |
|---|---|---|---|
| 〃 | センター長 | 堂　込 | 秀　人 |
| 調査企画　〃 | 総務課長兼係長 | 山　方 | 直　幸 |
| 〃 | 調査課長 | 八木澤 | 一　郎 |
| 〃 | 調査第二係長 | 寺　原 | 　徹 |
| 調査担当　〃 | 統括調査員 | 岩　永 | 勇　亮 |
| 事務担当　〃 | 主事 | 岡　村 | 信　吾 |
| 現地指導 | 東アジア古代鉄文化研究センター（愛媛大学） | | |
| | センター長（教授） | 村　上 | 恭　通 |
| | 鹿児島大学法文学部人文学科 | | |
| | 教授 | 本　田 | 道　輝 |
| | 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター | | |
| | 准教授 | 中　村 | 直　子 |
| | 佐賀大学文化教育学部 | | |
| | 教授 | 重　藤 | 輝　行 |
| | 広島大学文学研究科 | | |
| | 准教授 | 野　島 | 　永 |

調査の委託
委託先　大福コンサルタント株式会社

主任技術者　原　口　道　朗
主任調査支援員　重　留　康　宏
調査支援員　岩　下　直　樹
調査支援員　花　田　寛　典

委託内容　発掘調査支援業務
測量業務
土木業務

検査　中間検査：平成26年10月28日
完成検査：平成27年2月20日(実地検査)
平成27年3月4日(成果物検査)

**平成27年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所

調査主体　鹿児島県教育委員会

調査統括　(公財)鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　堂　込　秀　人

調査企画　〃　総務課長兼係長　有　村　　貢
〃　調査第二係長　寺　原　　徹

調査担当　〃　統括調査員　岩　永　勇　亮
〃　副統括調査員　倉　元　良　文
〃　副統括調査員　松　下　建　生

事務担当　〃　主事　荒　瀬　勝　巳

現地指導　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
センター長　中　村　直　子

調査の委託

委託先　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
主任技術者　權現頭　美千代
主任調査支援員　島　内　浩　輔
調査支援員　松　崎　卓　郎
調査支援員　立　神　勇　志
調査支援員　坂　井　靖　奈
調査支援員　沖　野　沙和美
調査支援員　磯　村　康　行
研修生　冨　永　朋　実

委託内容　発掘調査支援業務
測量業務
土木業務

検査　中間検査：平成27年10月27日
完成検査：平成28年3月1日(実地検査)
平成28年3月11日(成果物検査)

**平成28年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所

調査主体　鹿児島県教育委員会

調査統括　(公財)鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　堂　込　秀　人

調査企画　〃　総務課長兼係長　有　村　　貢
〃　調査課長　八木澤　一　郎
〃　調査第二係長　宗　岡　克　英

調査担当　〃　統括調査員　岩　永　勇　亮
〃　副統括調査員　湯場﨑　辰　巳
〃　副統括調査員　山　形　敏　行

事務担当　〃　主事　荒　瀬　勝　巳

現地指導　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
センター長　中　村　直　子

調査の委託

委託先　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
主任技術者　牧　美　千　代
主任調査支援員　島　内　浩　輔
調査支援員　松　崎　卓　郎
調査支援員　中　田　裕　樹
調査支援員　内　田　賢　一
調査支援員　立　神　勇　志
調査支援員　中　村　耕　治
調査支援員　沖　野　沙和美
調査支援員　磯　村　康　行
調査支援員　冨　永　朋　実

委託内容　発掘調査支援業務
測量業務
土木業務

検査　中間検査：平成28年10月7日
完成検査：平成29年2月22日(実地検査)
平成29年2月24日(成果物検査)

**平成29年度(直営)**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所

調査主体　鹿児島県教育委員会

調査統括　(公財)鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　前　迫　亮　一

調査企画　〃　総務課長兼係長　中　村　伸一郎
〃　調査課長　中　原　一　成
〃　調査第一係長　今　村　敏　照

調査担当　〃　文化財専門員　山　形　敏　行
〃　文化財専門員　石　畑　浩　一
〃　文化財専門員　三　垣　恵　一
〃　文化財専門員　徳　永　愛　雄
〃　文化財専門員　楸　田　岳　志
(平成29年5月～11月)
〃　文化財専門員　本　髙　謙　治
〃　文化財専門員　相　良　典　隆

〃　文化財調査員　木　場　浅　葱
〃　文化財調査員　新屋敷　久美子
〃　文化財調査員　福　地　祥　平
（平成29年5月～8月，12月～平成30年3月）
事務担当　〃　主事　荒　瀬　勝　巳
〃　事業推進員　川　崎　麻　衣
現地指導　鹿児島県考古学会
会長　本　田　道　輝
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
センター長　中　村　直　子
調査の委託
委託先　株式会社島田組
主任調査支援員　宮　下　貴　浩
調査支援員　大　橋　裕　子
委託内容　測量業務
検査　中間検査：平成29年11月22日
完成検査：平成30年3月6日（成果物検査）

民間組織による業務委託は，平成30年1月26日をもって終了した。

その後，直営による調査を当初の計画どおり，2月まで継続するにあたって，調査を円滑かつ効率的に実施するため，発掘業務の一部を民間調査組織に別途委託して実施した。

委託先　株式会社島田組
委託期間　平成30年2月1日～平成30年2月23日
委託内容　測量業務
土工業務
検査　完成検査：平成30年3月13日（成果物検査）

この他，Ⅵ・Ⅶ層及びⅨ層（縄文時代早期から旧石器時代）の調査において，測量業務の迅速化を図るために「遺構実測図作成業務委託」を実施した。

委託先　株式会社ジパングサーベイ
委託期間　平成29年10月12日～平成30年2月23日
委託内容　測量業務
検査　完成検査：平成30年3月13日（成果物検査）

平成29年度（民活）
事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　前　迫　亮　一
調査企画　〃　総務課長兼係長　中　村　伸一郎
〃　調査課長　中　原　一　成
〃　調査第一係長　今　村　敏　照
調査担当　〃　文化財専門員　馬　籠　亮　道
事務担当　〃　主査　荒　瀬　勝　己
〃　事業推進員　川　崎　麻　衣
調査の委託
委託先　株式会社島田組
主任技術者　山　本　隆　広
主任調査支援員　宮　下　貴　浩
調査支援員　大　橋　裕　子
調査支援員　清　岡　廣　子
（～8月）
調査支援員　丹　生　泰　雪
（9月～）
委託内容発掘調査支援業務
測量業務
土工業務
検査　中間検査：平成29年11月22日
完成検査：平成30年2月23日（実地検査）
完成検査：平成30年3月6日（成果物検査）

**平成30年度（直営）**
事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　前　迫　亮　一
調査企画　〃　総務課長兼係長　中　村　伸一郎
〃　調査課長　中　原　一　成
〃　調査第三係長　三　垣　恵　一
調査担当　〃　文化財専門員　楸　田　岳　志
〃　文化財専門員　本　髙　謙　治
〃　文化財調査員　大　坪　啓　子
事務担当　〃　主査　小　牧　智　子
〃　事業推進員　塩　屋　奈緒美

### 3　調査の経過（日誌抄より）

本調査について，日誌抄を月ごとに集約して記した。なお，ここでは，A地点についてのみ記している。

**平成26年度**

5月　F～J35～38区　表土掘削。C～E32～34区表土掘削，Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴa層遺構検出。B～E35～38区，H～K34・35区表土掘削，Ⅳ層遺構検出及び掘削。

6月　C～E32～34区　Ⅴa層遺構検出及び掘削。B～E35～38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴa層遺構検出及び掘削。H～K34・35区，F～J35～38区Ⅳ層遺構検出及び掘削。G32～34区　表土掘削，Ⅳ層遺構検出及び掘削。

7月　H～K33・34区，F～J35～38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削。D～G35・36区　表土掘削，Ⅳ層遺構検出及び掘削。

8月　B～E35～38区　Ⅴ層遺構検出。F～H35～

38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削。G32～34区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴ層遺構検出。F・G38・39区　Ⅴ層遺構検出及び掘削。G～I35～38区　Ⅴ層遺構検出及び掘削。

9月　G～I35～38区　Ⅴ層遺構掘削。D～G35～37区　Ⅳ層遺構掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。

10月　I～K33・34区　Ⅳ層包含層掘削。C～K35～38区　Ⅴ遺構検出及び掘削。G32～34区　Ⅳ層遺構検出及び掘削。D～G35～37区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。

11月　D～K35～38区　Ⅳ層包含層掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。F・G39・40区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。

12月　D36・37区，I～K35～38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴ層遺構検出。E～I35～38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削。

1月　E～H36～38区　Ⅳ層遺構検出及び掘削，Ⅴ層遺構検出。D～G32～34区　Ⅴ層遺構検出。

**平成27年度**

5月　G～K34・35区　Ⅴ層遺構検出及び掘削。B～D32～35区　表土掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。B～G31区　表土掘削，Ⅴ層遺構検出。

6月　G～K34・35区　Ⅴ層包含層掘削。B～G31区　Ⅴ層遺構検出及び掘削。

7月　G32・33区　Ⅳ層包含層掘削，Ⅴ遺構検出及び掘削，Ⅴ層包含層掘削。E～K32～35区　Ⅴ層遺構掘削，Ⅴ層包含層掘削，集石検出。B～D32～35区　Ⅴ層遺構掘削（古墳時代）。

8月　F・G32・33区　Ⅴ層包含層掘削。I・J35区　Ⅴ層包含層掘削，集石検出。B～G31区　Ⅴ層遺構掘削。

9月　B～D32～35区　Ⅴ層遺構掘削（古墳時代）。

10月　6日空撮。

11月　B～G31～35区　Ⅴ層遺構掘削（古墳時代）。
12月A～F31～35区無遺物層掘削。

1月　A～F31～35区　無遺物層掘削。

2月　B～E32・33区　Ⅴc層無遺物層掘削。

**平成28年度**

5月　B31～35区，C・D31～35区，E～G31～35区，G・H34・35区，I～K33～35区　無遺物層掘削，Ⅵ層包含層掘削。B26区，C～E25・26区　表土掘削，Ⅳ・Ⅴ層遺構検出及び掘削，Ⅳ層包含層掘削。F24・25区，G24～26区，H～K23～26区　表土掘削。

6月　B～D31～35区　Ⅶ層包含層掘削，Ⅶ層遺構検出及び掘削，Ⅸ層（旧石器）包含層掘削。E～G31～35区，G・H34・35区，I～K33～35区　Ⅶ層包含層掘削。F24・25区，G24～26区，H～K23～26区，H～K23～26区　Ⅳ層包含層掘削。

7月　E～G31～35区，G・H34・35区，I～K33～35区先行トレンチ掘削。K・L32～36区，M32～35区表土掘削。B26区，C～E25・26区　Ⅵ～Ⅶ層包含層掘削，先行トレンチ掘削。

8月　B～D31～35区　Ⅸ・Ⅹ層包含層掘削。E～G31～35区，G・H34・35区，I～K33～35区　Ⅶ～Ⅹ層包含層掘削。K・L32～36区，M32～35区Ⅳ・Ⅴ層包含層掘削。B26区，C～E25・26区　表土掘削，Ⅳ層包含層掘削。F24・25区，G24～26区，H～K23～26区　Ⅴ～Ⅶ層包含層掘削。J～L23～26区，M24～27区　表土掘削，Ⅲ・Ⅳ層包含層掘削。

9月　B31～35区，C・D31～35区，E～G31～35区，G・H34・35，I～K33～35区　Ⅸ・Ⅹ層包含層掘削。G・H32～34区，I・J33・34区　表土掘削，Ⅴ層遺構検出。B26区，C～E25・26区　Ⅴ～Ⅶ層包含層掘削。

10月　G・H32～34区，I・J33・34区Ⅴ層遺構掘削。B26区，C～E25・26区　Ⅵ～Ⅶ層包含層掘削。J～L23～26区，M24～27区　Ⅳ層包含層掘削。

11月　K・L32～36区，M32～35区　Ⅵ層包含層掘削。G・H32～34区，I・J33・34区　Ⅳ・Ⅴ層遺構掘削。B～F27区　表土掘削，Ⅳ層包含層掘削。J～L23～26区，M24～27区　Ⅴ層包含層掘削。F～L27区Ⅳ・Ⅴ層包含層掘削。B～F28～31区，G28～31区　表土掘削，Ⅳ層包含層掘削。

12月　K・L32～36区，M32～35区　Ⅵ層包含層掘削。G・H32～34区，I・J33・34区　Ⅴ層包含層掘削。B～F27区　Ⅳ層包含層掘削・遺構掘削。J～L23～26区，M24～27区　Ⅴ層包含層掘削。F～L27区　Ⅳ～Ⅶ層包含層掘削，Ⅶ層遺構検出及び掘削。B～F28～31区，G28～31区　Ⅳ層包含層掘削・遺構掘削。

1月　K・L32～36区，M32～35区　Ⅶ層包含層掘削。G・H32～34区，I・J33・34区　Ⅴa層遺構掘削。B～G30・31区　Ⅳ層包含層掘削・遺構掘削。

**平成29年度（直営）**

5月　B～G26～31区　Ⅴa層遺構検出及び掘削。F27区，G28～30区　表土掘削。B・C27～29区，F・G26・27区，G～I29～31区，I27区，J～L27～31区　Ⅴ層遺構検出及び掘削。

6月　8日　空撮。
F・G26・27区　Ⅴc～Ⅵ層遺構検出及び掘削。F～K27・28区　Ⅵ層包含層掘削。H29区，H～J30区表土掘削，Ⅴ層遺構検出及び掘削。G～I32～34区　Ⅵ層包含層掘削。G～I32・33区　Ⅶa層包含層掘削。

7月　G～K32・33区　Ⅶa層包含層掘削。G～K32・33区　Ⅶb層包含層掘削。L・M32区　Ⅸ層包含層掘削。

8月　B～E27・28区　Ⅵ層包含層掘削。G～I31区　表土掘削。G33区，K32・33区　Ⅶb層包含層掘削。H～M32・33区　Ⅸ層包含層掘削。G～I32区，K32区先行トレンチ掘削（Ⅸ層以下）。

9月　F27区，J30区　Ⅵ層包含層掘削。B～E27・28区，J～L28～32区　Ⅵ～Ⅶ包含層掘削。E・F29～31区　Ⅴa層包含層掘削。

10月　B～L27区，B27・28区，B～D28区，Ⅰ28区先行トレンチ（旧石器）。C・D28区　Ⅷ層遺構検出。H27区　Ⅸ層包含層掘削。H28区　Ⅵ～Ⅸ層包含層掘削。H30区　Ⅵ層包含層掘削。I29・30区　Ⅵ～Ⅸ層包含層掘削。I29・30区　Ⅴ層包含層掘削。I31区　Ⅸ層包含層掘削。J27区　Ⅵ～Ⅸ層包含層掘削。J28区　Ⅵ・Ⅶ層包含層掘削。J29区　Ⅴ～Ⅶ層包含層掘削。

11月　E・F28区　Ⅴ層包含層掘削。H～J29・30区，H・I30区　Ⅴ～Ⅶb層包含層掘削，遺構検出及び掘削。I～K27区，J～L28～30区，J・K31区　Ⅸ層包含層掘削。

12月　E・F28区　Ⅴ層包含層掘削。H29・30区　Ⅵ・Ⅶ層包含層掘削。I27区，I～L28～30区，K27区，K31区　Ⅸ層包含層掘削。

1月　B・C30区，D29・30区，E・F28～30区　Ⅵ・Ⅶ層包含層掘削。K30区，L31区　Ⅸ層包含層掘削。F28・29区，G29区　確認トレンチ掘削（旧石器）。B29～31区，E～H29～31区　Ⅶ層包含層掘削。

2月　D30区，B～E31区，F31区，H31区　Ⅸ層掘削。I30・31区　Ⅵ層包含層掘削。B～D28区　確認トレンチ掘削（旧石器）。

3月　遺物水洗い・整理。9日作業終了。

**平成29年度（民活）**

5月　G・H31～34区，I・J31～33区　Ⅴb層無遺物層掘削，Ⅵ・Ⅶ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。K・L33区　Ⅶ・Ⅷ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。K・L32・34～36区，M32・34・35区　先行トレンチ掘削（Ⅸ層）。遺物仕分け。

6月　G・H31～34区，I31～33区　Ⅵ層包含層掘削。J31～33区　Ⅵ・Ⅶ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。K・L33区　Ⅷ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。K・L32・34～36区，M32・34・35区　Ⅷ・Ⅸ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。J35区，K34～36区，L34・35区　Ⅷ～Ⅹ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。遺物仕分け，遺物洗浄，遺物収納箱作成。

7月　J35区，K～M32・33区　Ⅷ・Ⅸ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。J33・34区，L～M32～34区　Ⅸ層包含層掘削・遺構検出及び掘削。K～M33区　Ⅸ～ⅩⅡ層先行トレンチ掘削・遺構検出及び掘削。遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

8月　K34～36区，L34・35区　Ⅷ～Ⅹ層包含層掘削，遺構検出及び掘削。L・M33区　Ⅸ～ⅩⅡ層トレンチ掘削，遺構検出及び掘削。遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

9月　遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

10月　遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

11月　F28・29区，G27・28区　古墳時代遺構検出及び掘削，遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

12月　F28・29区，G27・28区　古墳時代遺構検出及び掘削。遺物収納箱作成，遺物仕分け，遺物洗浄。

1月　26日A地点調査終了。遺物仕分け。

### 第4節　整理・報告書作成

A地点における整理・報告書作成の基礎整理作業は，平成27年度，平成29年度～令和元年度に実施した。令和元年度～令和2年度には，旧石器時代縄文時代草創期編の報告書作成作業を実施し，令和2年度には，縄文時代早期・前期・古代・中世編の報告書作成作業を実施した。平成27年度は，平成27年5月11日～平成27年1月22日まで，平成29年度は，平成29年4月19日～平成30年3月9日まで，平成30年度は，平成30年5月7日～平成31年2月15日まで，令和元年度は，平成31年5月7日～令和2年2月14日まで作業を実施した。令和2年度は，令和2年5月7日～令和3年2月12日まで作業を実施した。

#### 1　概要

基礎整理作業は，文化財課から委託を受けた埋文調査センターが実施することとなり，大福コンサルタント株式会社へ他遺跡分と合わせて，基礎整理作業の遺物洗浄・注記を部分業務として委託した。

**平成29年度**

埋文調査センターが基礎整理作業を実施した。遺物洗浄・注記・分類・実測等の業務を実施した。

**平成30年度**

基礎整理作業を福山中学校跡に新設した埋文調査センター第2整理作業所で行った。また，大福コンサルタント株式会社に集石トレース，石器実測を委託した。

**令和元年度**

株式会社埋蔵文化財サポートシステムにA地点の旧石器時代～縄文時代草創期の報告書作成業務を委託した。

**令和2年度**

株式会社埋蔵文化財サポートシステムにA地点の旧石器時代～縄文時代草創期編の編集作業等の報告書作成業務を委託した。

## 2　調査体制

**平成 27 年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　(公財) 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　〃　センター長　堂込秀人
調査企画　〃　総務課長兼係長　有村　貢
　　〃　調査課長　八木澤一郎
　　〃　調査第二係長　寺原　徹
作成担当　〃　文化財専門員　岩永勇亮
事務担当　〃　主査　荒瀬勝己
調査の委託
委託先　大福コンサルタント株式会社
　　調査支援員　岩下直樹
　　調査支援員　長濱武史
　　調査支援員　川俣幸次
　　調査支援員　倉本るみ子
委託内容基礎整理作業(遺物洗浄・注記)

**平成 29 年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　(公財) 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　〃　センター長　前迫亮一
調査企画　〃　総務課長兼係長　中村伸一郎
　　〃　調査課長　中原一成
　　〃　調査第三係長　福永修一
作成担当　〃　文化財専門員　岩永勇亮
　　〃　文化財調査員　中村有希
　　〃　文化財調査員　北園和代
　　(平成 29 年 12 月～平成 30 年 11 月)
事務担当　〃　主査　荒瀬勝己
　　〃　事業推進員　川崎麻衣

**平成 30 年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　(公財) 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　〃　センター長　前迫亮一
調査企画　〃　総務課長兼係長　中村伸一郎
　　〃　調査課長　中原一成
　　〃　調査第三係長　三垣恵一
作成担当　〃　文化財専門員　山形敏行
　　〃　文化財調査員　中村有希
事務担当　〃　主査　小牧智子
　　〃　事業推進員　塩屋奈緒美

**令和元年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　(公財) 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　〃　センター長　中原一成
調査企画　〃　総務課長兼係長　中島　治
　　〃　調査課長　寺原　徹
　　〃　調査第三係長　横手浩二郎
作成担当　〃　文化財専門員　岩永勇亮
　　〃　文化財専門員　山形敏行
事務担当　〃　主査　有川剛弘
　　〃　主事　上園慶子
遺物指導　南山大学人文学部
　　教授　大塚達朗
調査担当
委託先　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
　　主任調査支援員　島内浩輔
　　調査支援員　松崎卓郎
　　調査支援員　坂井靖奈
　　調査支援員　中村耕治
　　調査支援員　礒村康行
　　調査支援員　冨永朋実
委託内容　整理作業及び報告書作成業務
検査　中間検査：令和元年 10 月 18 日
　　完成検査：令和２年３月４日(成果物検査)

**令和２年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　(公財) 鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター
　　〃　センター長　中原一成
調査企画　〃　総務課長兼係長　中島　治
　　〃　調査課長　寺原　徹
　　〃　調査第三係長　黒川忠広
作成担当　〃　文化財専門員　岩永勇亮
　　〃　文化財専門員　肥後弘章
事務担当　〃　主査　有川剛弘
　　〃　主事　上園慶子
調査担当
委託先　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
　　主任調査支援員　松崎卓郎
　　調査支援員　中田裕樹
　　調査支援員　坂井靖奈

調査支援員　本　村　実季子
調査支援員　井　手　基　子
調査支援員　冨　永　朋　実
委託内容　整理作業及び報告書作成業務
検査　中間検査：令和２年10月26日
完成検査：令和３年３月４日（成果物検査）

**令和３年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　中　原　一　成
調査企画　〃　総務課長兼係長　中　島　　治
〃　調査課長　寺　原　　徹
〃　調査第三係長　黒　川　忠　広
作成担当　〃　文化財専門員　岩　永　勇　亮
事務担当　〃　主査　有　川　剛　弘
〃　主事　上　園　慶　子
調査担当
委託先　株式会社九州文化財研究所
主任調査支援員　鮫　島　伸　吾
調査支援員　長　野　真　一
調査支援員　佐　藤　武　大
調査支援員　西　谷　　彰
調査支援員　田　上　智　也
調査支援員　金　子　史　雄
委託内容　整理作業及び報告書作成業務
検査　中間検査：令和３年10月27日
完成検査：令和４年３月１日（成果物検査）

**令和４年度**

事業主体　国土交通省九州地方整備局
大隅河川国道事務所
調査主体　鹿児島県教育委員会
調査統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〃　センター長　中　村　和　美
調査企画　〃　総務課長兼係長　中　島　　治
〃　調査課長　三　垣　恵　一
〃　調査第一係長　平　　美　典
作成担当　〃　文化財専門員　岩　永　勇　亮
事務担当　〃　主査　坂　元　宏　光
〃　主事　上　園　慶　子
調査担当
委託先　新和技術コンサルタント株式会社
主任調査支援員　鎌　田　浩　平
調査支援員　新　福　　深
調査支援員　上川路　直　光
調査支援員　白　井　栞　実
調査支援員　賦　句　博　隆
委託内容　整理作業及び報告書作成業務
検査　中間検査：令和４年10月26日
完成検査：令和５年３月８日（成果物検査）

## ３　調査の経過（日誌抄より）

基礎整理作業については，日誌抄を月ごとに集約して記した。

**平成27年度**

５月　オリエンテーション。遺物洗浄。遺物注記機（ジェットマーカー）による注記作業。土器・石器・礫の一次分類。実測石器の選別。
６月　剥片石器の超音波洗浄機による洗浄。遺物洗浄，ジェットマーカーによる注記作業。遺物分類。
７月　遺物洗浄・ジェットマーカーによる注記作業。石器の分類。
８月　遺物洗浄・ジェットマーカーによる注記作業。石器の分類。礫の計測。遺物洗浄完了。
９月　ジェットマーカーによる注記作業。土器・石器・鉄滓の分類。重要遺物選別。礫の計測・仕分作業。図面修正。
10月　注記修正。土器・石器・鉄滓の分類。分類石器の整理・収納。礫の計測。青銅製品・鉄製品処理。
11月　注記修正。土器・石器・鉄滓分類。包含層遺物分類。竪穴住居跡内出土遺物分類。石器分類・整理・収納。遺物台帳・礫台帳作成。図面修正。コンテナのチェックリスト作成。
12月　遺物分類。鉄滓・焜化物・顔料梱包材作成及び梱包。礫梱包。遺物台帳作成。写真撮影。収納作業。
１月　遺物台帳作成。台帳パソコン入力。データ確認作業。遺物洗浄，注記，分類作業終了。

**平成29年度**

４月　遺物洗浄，遺物分類，図面整理。
５月　遺物洗浄，遺物分類，図面整理，集石観察表作成。
６月　遺物洗浄，遺物分類，注記準備，図面整理，集石観察表作成。
７月　遺物洗浄，遺物分類，注記，図面整理，集石観察表作成。
８月　遺物洗浄，遺物分類，注記，図面整理，集石観察表作成，自然科学分析委託準備（年代測定）。
９月　遺物洗浄，遺物分類，注記，図面整理，集石観察表作成，自然科学分析委託準備（年代測定）。
10月　遺物洗浄，遺物分類，注記，図面整理，集石観察表作成，自然科学分析委託準備（年代測定）。
11月　遺物洗浄，遺物分類，注記，図面整理，集石観察表作成，自然科学分析委託準備（年代測定）。
12月　遺物分類，注記，図面整理，石器実測，自然科学分析委託準備（年代測定）。

1月　遺物分類，注記，図面整理，石器実測，自然科学分析委託準備（年代測定）。
2月　遺物分類，注記，土器接合，鍛造剥片抽出，自然科学分析委託準備（年代測定）。
3月　遺物整理，図面整理。

**平成30年度**

4月　遺物水洗い，遺物分類。
5月　遺物水洗い，遺物整理，注記，図面チェック。
6月　遺物水洗い，遺物整理，注記。
7月　遺物水洗い，遺物整理，注記，写真整理，石器実測委託準備。
8月　遺物整理，図面整理，石材分類。
9月　遺物整理，接合，注記，台帳チェック。
10月　遺物整理，接合，注記。
11月　遺物整理，接合，注記，遺物搬入。
12月　遺物整理，接合，注記。
1月　遺物整理，接合，注記，図面チェック。
2月　遺物整理，注記，図面チェック。
3月　遺物整理，台帳整理。

**令和元年度**

5月　準備工，土器分類，土器接合，石器分類，石器接合，旧石器遺構検討，台帳入力。
6月　土器接合，土器拓本・実測，石器接合，旧石器実測遺物検討・実測。旧石器遺構検討。
7月　土器実測，土器拓本，土器分類，土器接合・復元，土器トレース，土器接合，旧石器実測遺物検討・旧石器遺構検討・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト。
8月　土器実測・拓本，土器トレース，土器復元，旧石器実測遺物検討・準備・実測・実測図確認・トレース・旧石器遺構検討・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト
9月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元，旧石器実測・実測図確認・トレース，旧石器遺構検討・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト。
10月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元，旧石器実測・実測図確認・トレース，旧石器遺構検討・図版作成・遺構図トレース修正，原稿執筆・レイアウト，フローテーション。
11月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元，旧石器実測・実測図確認・トレース，分布図作成・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト，フローテーション。
12月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元，旧石器実測・実測図確認・トレース，分布図作成・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト，フローテーション。
1月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元，旧石器実測・実測図確認・トレース，分布図作成・図版作成・遺構図トレース・修正，原稿執筆・レイアウト，収納作業。
2月　土器実測，土器拓本，土器トレース，土器接合，土器復元・図版作成・原稿執筆・レイアウト，収納作業。

**令和2年度**

5月　準備工，土器選別・分類，土器注記・接合，土器実測，石器選別・分類，石器実測，フローテーション。
6月　土器選別・分類，土器実測・製図，土器拓本，土器復元，石器選別・分類，石器実測，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト作業，観察表作成，写真整理作業，原稿執筆，フローテーション。
7月　土器選別・分類，土器実測・製図，土器拓本，土器復元，石器選別・分類，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト作業，観察表作成，写真整理作業，原稿執筆，フローテーション。
8月　土器選別・分類，土器実測・製図，土器拓本，土器復元，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト作業，観察表作成，写真整理作業，原稿執筆。
9月　土器選別・分類，土器実測・製図，土器拓本，土器接合・復元，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト・図版作成作業，観察表作成，写真整理作業，原稿執筆。
10月　土器実測・製図，土器拓本，土器接合・復元，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト・図版作成作業，観察表作成，写真整理作業，原稿執筆，フローテーション。
11月　土器実測・製図，土器拓本，土器接合・復元・色塗り，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト・図版作成作業，観察表作成，遺物写真撮影，原稿執筆，編集。
12月　土器実測・製図，土器拓本，土器接合・復元・色塗り，石器実測・製図，遺構製図，遺物分布図作成，レイアウト・図版作成作業，観察表作成，遺物写真撮影，原稿執筆，編集，入稿・校正。
1月　土器実測，土器拓本，土器接合・復元，石器実測，校正，収納作業。
2月　土器実測，土器拓本，土器接合・復元，石器実測，校正，収納作業。

**令和3年度**

5月　近世陶磁器実測，磨石・敲石等叩打具実測，デジタルトレース（遺構），実測・トレース図面の確認・校正，報告書作成のための資料作成。

6月　埋土フローテーション作業準備，近世陶磁器実測，磨石・敲石等叩打具実測，実測図面の確認・校正，報告書作成のための資料収集，。

7月　土器実測（古墳・近世陶磁器），磨石・敲石等叩打具実測，デジタルトレース（遺構），実測・トレース図面の確認・校正，埋土フローテーション作業。

8月　埋土フルイ作業，土器実測（古墳・近世陶磁器），磨石・敲石等叩打具実測，デジタルトレース（遺構），実測・トレース図面の確認・校正。

9月　埋土フルイ作業，土器実測（古墳・近世陶磁器），磨石・敲石等叩打具実測，デジタルトレース（石器・遺構），実測・トレース図面の確認・校正。

10月　埋土フルイ作業，土器実測（古墳・近世陶磁器），デジタルトレース（近世陶磁器・石器・遺構），実測・トレース図面の確認・校正。

11月　土器接合，土器復元，土器実測（古墳），大型石器実測，実測図確認・校正，デジタルトレース（近世陶磁器・石器・遺構）。

12月　土器復元，土器実測及び手トレース（古墳），大型石器実測，実測図確認・校正，デジタルトレース（石器・遺構），遺物運搬，原稿執筆準備作業準備。

1月　遺物運搬，土器実測及び手トレース（古墳），大型石器実測，実測図確認・校正，デジタルトレース（遺構），原稿執筆準備。

2月　遺物運搬，土器実測及び手トレース（古墳），実測図確認・校正，デジタルトレース（遺構），原稿執筆。

**令和４年度**

5月　【整理作業】土壌サンプルふるい作業，遺物計量・収納作業。

【報告書作成作業】過年度成果品より必要データ抽出，遺物計量・収納作業，拓貼り作業（縄文時代後期・晩期），土器実測（弥生），土器手トレース（古墳），デジタルトレース（古墳遺構），近世陶磁器観察表作成，原稿執筆（古墳・近世）。

6月　【整理作業】土壌サンプルふるい作業・選別作業，遺物計量・収納作業。

【報告書作成業務】過年度成果品より必要データ抽出，拓本（弥生・近世），土器実測（弥生），デジタルトレース（古墳遺構・近世陶磁器修正），掲載写真選別，縄文後期・晩期石器・古墳時代石製品レイアウト準備，近世陶磁器及び弥生土器観察表作成，原稿執筆（古墳・近世）。

7月　【整理作業】土壌サンプルふるい作業・選別作業。

【報告書作成業務】過年度成果品より必要データ抽出，拓本（弥生），土器実測及び手トレース（弥生・古墳），デジタルトレース（古墳遺構・近世陶磁器修正），掲載写真選別，弥生土器観察表作成，原稿執筆（古墳・近世），図面レイアウト作業。

8月　【整理作業】土器復元・着色。

【報告書作成業務】・遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（弥生・古墳），デジタルトレース（古墳遺構），掲載写真選別，原稿執筆（古墳・近世），図面レイアウト作業。

9月　【整理作業】土器復元・着色。

【報告書作成業務】遺構配置図作成，遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（古墳），デジタルトレース（古墳遺構），掲載写真選別，原稿執筆（古墳），図面レイアウト作業。

10月　【整理作業】土器復元・着色。

【報告書作成業務】遺構配置図作成，遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（古墳），デジタルトレース（古墳遺構），掲載写真選別，原稿執筆（古墳），図面レイアウト作業。

11月　【整理作業】土器復元・着色。

【報告書作成業務】遺構配置図作成，遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（弥生・古墳），デジタルトレース（古墳遺構），掲載写真選別，原稿執筆（古墳），原稿較正，目次作成，図面レイアウト作業。

12月　【整理作業】土器復元・着色。

【報告書作成業務】遺構配置図・遺物分布図作成，遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（弥生・古墳），デジタルトレース（古墳遺構），掲載写真選別，原稿執筆（縄文後期・縄文晩期・古墳），原稿校正，図面レイアウト作業，入稿。

1月　【整理作業】遺物収納作業

【報告書作成業務】遺構配置図・遺物分布図作成，遺構内遺物出土状況図作成，土器実測及び手トレース（弥生・古墳），掲載写真選別，図面レイアウト作業，原稿執筆（縄文後期・縄文晩期・古墳），入稿・校正。

2月　【整理作業】遺物収納作業

【報告書作成業務】校正

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

川久保遺跡は，鹿児島県鹿屋市串良町細山田に所在する。遺跡の所在する鹿屋市串良町は，大隅半島南部のほぼ中央に位置し，東側では，東串良町，南側に肝属川を挟んで肝付町，西側は，鹿屋市東原町・旭原町・笠之原町，北東は，立小野台地を隔てて曽於郡大崎町と接している。串良町が位置する大隅半島は，九州山地の延長をなす東西の山地と，その間の丘陵，台地及び低地等の地形から形成されている。東側の山地は，志布志湾北部から宮崎県に突出した形で北から南へ延びている鰐塚山地（1,119 m）で，中生層の地層からなっている。西側の山地は，北部の霧島火山の山脈から湾奥に形成された姶良カルデラのカルデラ壁を含み，南部の高隈連山へと連なっている。高隈山地は，北部の白尾岳・荒磯岳等 500 ～ 600 m級の山々と，南部の大箆柄岳（1,236.8 m）を主峰に横岳・御岳等 1,000 m級の山々から成る山地で，山容は，急峻で深い森林に覆われている。地質は，高隈山周辺に分布する新生代古第３紀の日南層群が基盤をなしている。山地間を埋めるように，洪積世の火山活動による火砕流が堆積し，丘陵や台地が広く分布した典型的なシラス地形となっている。この火砕流は，南西部の鹿児島湾口に形成された阿多カルデラの火砕流や，湾奥に形成された姶良カルデラの入戸火砕流である。火砕流堆積物は堆積した後，現在に至るまで大小多くの河川で開折されている。大隅半島中央部の地形は，断片的な台地を残すだけの丘陵状地形や原面は，ほとんど浸食されずに残った広大な台地で形成されている。一方，低地は，高隈山地や鰐塚山地等に水源をもつ大小の河川が走り，志布志湾，鹿児島湾等に注いでいる。この河川は上・中流域で狭い谷底平野を形成し，また何段かの河岸段丘も認められる。

## 第２節　歴史的環境

遺跡周辺の主な遺跡について，時代別に紹介する。

### 旧石器時代

大隅半島の主に曽於地域においては，これまで旧石器時代の遺跡はあまり知られていなかった。しかし近年東九州自動車道建設に伴う発掘調査が行われるようになり，大隅半島の旧石器時代の様相が明らかになりつつある。特に畦原型細石刃核が出土する遺跡が多く見られ，宮崎県から大隅半島にかけての畦原型細石器文化の広がりが確認されるようになってきた。二子塚Ａ遺跡では，Ⅵ層（薩摩火山灰）の下層から黒曜石・チャート・鉄石英等の剥片 10 点が出土している。天神段遺跡では，ナイフ形石器文化期（２期）と細石器文化期の３文化層が確認されている。礫群及び遺物集中域も数多く検出され，石器製作跡も確認されている。遺物は，ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・及び細石刃核・細石刃等多くの資料が得られている。細石刃核の中には，畦原型細石刃核も見られる。荒園遺跡・次五遺跡・春日堀遺跡では，細石器文化期の遺物が出土しており，畦原型細石刃核を含んでいる。小牧遺跡・見帰遺跡・安楽小牧Ｂ遺跡・宮脇遺跡では，ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・細石刃核・スクレイパー・剥片等が出土している。その他に榎崎Ａ遺跡・榎崎Ｂ遺跡・西丸尾遺跡・白水Ｂ遺跡等からは，ナイフ形石器文化期・細石器文化期の遺構や遺物が出土している。

### 縄文時代

大隅半島においては，縄文時代の遺跡が数多く知られている。特に早期については，その傾向が顕著である。しかし，草創期の遺跡は少なく，最近まで鹿屋市伊敷遺跡・上楠原遺跡・志布志市東黒土田遺跡・鎌石橋遺跡が知られていたのみであったが，近年見帰遺跡・安楽小牧Ｂ遺跡・大崎町宮脇遺跡等で，草創期の遺物が出土している。早期では，鹿屋市益畑遺跡の竪穴住居跡が知られていたが，志布志市春日堀遺跡・大崎町天神段遺跡・平良上Ｃ遺跡・永吉天神段遺跡・鹿屋市小牧遺跡・牧山遺跡・田原迫ノ上遺跡等で発見が相次いでいる。前期では，牧山遺跡で轟式の埋設土器が特筆される。天神段遺跡では，曽畑式土器に伴う磨製石剣が出土し，西日本最古の石剣であることが判明した。中期の遺跡は少ないが，細山田段遺跡では，200 基を超える土坑と深溝式に伴って近畿系の大歳山式・鷹島式，瀬戸内系の船元式等が出土し，広範な交流が窺える。後期では，小牧遺跡において竪穴住居跡と埋設土器・石皿立石等多彩な遺構が検出されている。町田堀遺跡では，中岳Ⅱ式が伴う竪穴住居跡・埋設土器・石斧集積遺構等が出土している。また，２号住居跡からは，樋原文様を施し，朱や漆が塗られた天附型の石刀が出土している。牧山遺跡では，中岳Ⅱ式の埋設土器が出土し，さらに南九州では珍しい石冠も出土している。晩期では，遺構の検出は少ないが，永吉天神段遺跡で竪穴住居跡や落とし穴が検出され，柿木遺遺跡で落とし穴・土坑・石斧埋納遺構等が検出されている。

### 弥生時代

弥生時代においては，中期の遺跡が圧倒的に多く，前期・後期の遺跡は少ない。前期の土器は出土数も少なく天神段遺跡・町田堀遺跡で高橋式の小破片が出土しているのみである。中期前半では，鹿屋市吉ケ崎遺跡で焼失家屋が発見され住居内に約 10 点の完形土器が残されていた。天神段遺跡では，中期前半の入来式を伴う住居跡

が検出されている。中期中頃になると竪穴住居跡等多くの遺構が検出された王子遺跡をはじめとして集落を形成する遺跡が増加している。山ノ口式土器を伴う十三塚遺跡・田原迫ノ上遺跡・牧山遺跡・永吉天神段遺跡・荒園遺跡・安良遺跡等で竪穴住居跡が検出されている。田原迫ノ上遺跡では，掘立柱建物や円形周溝・方形周溝も検出される。牧山遺跡では，青銅製の鑿も出土している。永吉天神段遺跡では，円形周溝墓を中心とした土坑墓群・掘立柱建物が検出され，鉄鏃を副葬した土坑墓も検出されている。後期の遺跡はほとんど見られず鹿屋市高付遺跡・鎮守ケ迫遺跡で高付式・松ノ尾式が出土している程度である。

**古墳時代**

大隅半島は，県内でも有数の古墳地帯で，前方後円墳17基，円墳304基が知られている。また，南九州特有の地下式横穴墓も数多く存在する。集落遺跡では，町田堀遺跡で中津野式を伴う住居跡が検出され，小牧遺跡では東原式を伴う大型の住居跡等が検出されている。永吉天神段遺跡・荒園遺跡・春日堀遺跡等でも竪穴住居跡が検出されている。荒園遺跡では，焼失家屋も見られた。志布志湾沿いには，横瀬古墳・唐仁古墳群・塚崎古墳群等の国指定史跡の高塚古墳や地下式横穴墓が多く存在するが，内陸部に高塚古墳は存在しない。代わって立小野堀遺跡では190基，町田堀遺跡では92基の地下式横穴墓が調査されている。また，立小野堀遺跡では，大型の鈴1個と小型の鈴4個がセットで副葬される地下式横穴墓が2例検出されている。また，愛媛県の市場南組窯産の初期須恵器の大甕も出土しており5世紀前半の最古段階の地下式横穴墓の可能性も考えられている。町田堀遺跡では，円形周溝や弧状周溝を伴う地下式横穴墓や切り合い関係にある地下式横穴墓が見られる。また，立小野堀遺跡・町田堀遺跡では，墓の造られていない空間で大量の土器破片が出土し，土器破砕を伴う祭祀が行われた可能性も考えられている。

**古代**

大隅半島では，古代の所産と思われる須恵器や土師器は出土しているが，遺構を伴う遺跡が少ないのが現状である。鹿屋市宮ノ脇遺跡では，青銅製の帯金具（丸鞆）が出土しており，有位者の存在が窺える。肝付町波見西遺跡では，掘立柱建物や土師器の坏や椀がまとまって大量に置かれた遺構が検出されている。肝付町の西山ノ上遺跡では，採集品ではあるが須恵器の風字硯が出土しており識字者がいたことが想定される。永吉天神段遺跡では，掘立柱建物や土坑が検出されている。荒園遺跡では，埋土中に開聞岳起源の紫コラ（ＡＣ 874 年）を含む片薬研堀が検出されている。春日堀遺跡では，掘立柱建物や竪穴建物・溝状遺構等が検出されている。溝状遺構の最下部からは土器や須恵器が多く出土し埋土中に紫コラを含んでいることが確認されている。天神段遺跡では，掘立柱建物・竪穴状遺構・土坑・炉跡・焼土跡等が検出され，土師器には，墨書土器・刻書土器・焼塩壺が含まれる。

**中世・近世**

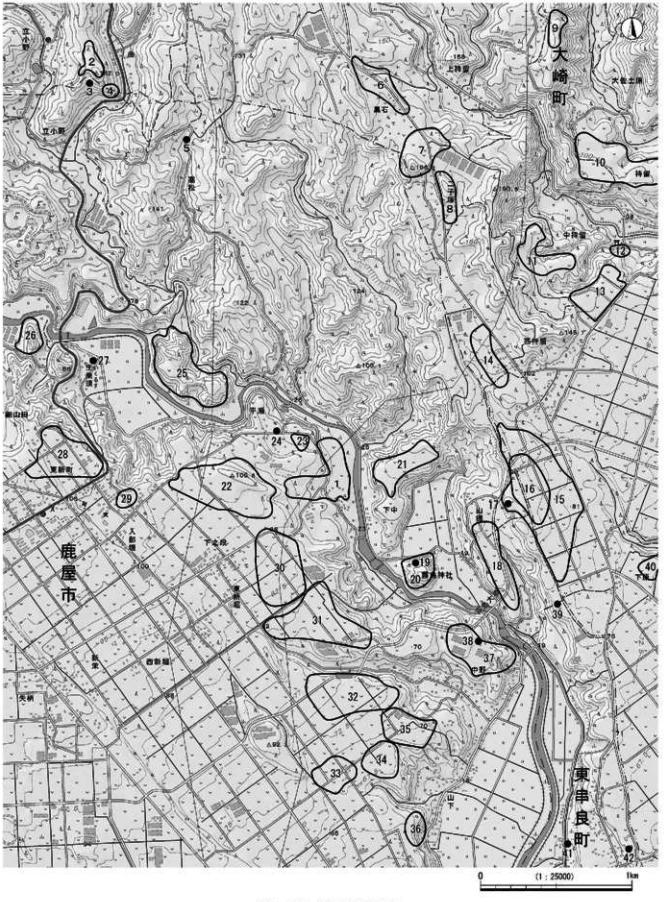
川久保遺跡の北側には，北原城跡があり，その他細山田城跡・霧島城跡にも近接している。城跡で調査が行われている鹿屋市稲村城跡では，土師器・青白磁・備前焼・東播系陶器等が出土している。天神段遺跡では，掘立柱建物跡・溝・古道・鍛冶遺構が検出され，土坑墓も検出されている。1号土坑墓は，青磁椀・白磁皿・青白磁小壺・和鋏・毛抜き・和鏡・銅銭・入れ子状態の滑石製石鍋と鉄製の紡水車等，豊富な副葬品を有するものである。小牧遺跡では，掘立柱建物跡・竪穴建物・溝状遺構等が検出され，青磁・白磁・土師器・東播系陶器等が出土している。永吉天神段遺跡では，掘立柱建物跡・土坑墓・大型土坑・火葬土坑が検出され，青磁・白磁・東播系陶器・滑石製石鍋・銅鏡等が出土している。

〈参考・引用文献〉


鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書は，鹿県埋文報，（公財）鹿児島県文化財センターは，（公財）鹿県埋文調査センター，公益財団法人鹿児島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書は，公財鹿県埋文調セ報に略すこととした。
鹿児島県教育委員会2005「二子塚Ａ遺跡」鹿県埋文報189
（公財）鹿県埋文調査センター2014・2015・2017「天神段遺跡１・２・３・４」
公財鹿県埋文調セ報告書３・６・18・19
（公財）鹿県埋文調査センター2016「荒園遺跡１」公財鹿県埋文調セ報12
（公財）鹿県埋文調査センター2018「見帰遺跡」公財鹿県埋文調セ報23
鹿児島県教育委員会2100「大隅地区埋蔵文化財分布調査報告書」鹿県埋文報
瀬戸口望1981「東黒土田遺跡」鹿児島考古15号
河口貞徳1982「鎌石橋遺跡」鹿児島考古16号
串良町教育委員会「益畑遺跡」串良町埋文報11
（公財）鹿県埋文調査センター2018「平良上Ｃ遺跡」公財鹿県埋文調セ報11
（公財）鹿県埋文調査センター2015・2016・2017・2018「永吉天神段遺跡１・２・３・４」公財鹿県埋文調セ報告書８・13・17・22
（公財）鹿県埋文調査センター2016「牧山遺跡１」公財鹿県埋文調セ報14
（公財）鹿県埋文調査センター2015・2016「田原迫之上遺跡１・２」公財鹿県埋文調セ報５・15
（公財）鹿県埋文調査センター2015・2017「町田堀遺跡１・２」公財鹿県埋文調セ報７・20
鹿児島県教育委員会1984「王子遺跡」鹿県埋文報34
鹿児島県教育委員会2010「石蔵・十三塚遺跡」鹿県立埋セ報164
鹿屋市教育委員会1984「高付遺跡」鹿屋市埋文報２
（公財）鹿県埋文調査センター2015・2016「田原迫之上遺跡１・２」公財鹿県埋文調セ報５・15
（公財）鹿県埋文調査センター2016「立小野堀遺跡１」公財鹿県埋文調セ報16
鹿屋市教育委員会1986宮の脇遺跡」鹿屋市埋文報４
高山町教育委員会1986「波見西遺跡」高山町埋文報３
串良町教育委員会1994「稲村城跡」串良町埋文報４
高山町教育委員会1997「高山郷土誌」

**表1－1　周辺遺跡一覧表**

| 番号 | 遺跡名 | 所 在 地 | 地形 | 時 代 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 川久保遺跡 | 鹿屋市串良町細山田川久保 | 河岸段丘 | 旧石器，縄文，弥生，古墳古代，中世，近世 | 本報告書<br>鹿公財（24），(31)，(37)，(38) |
| 2 | 遠見ヶ丘遺跡 | 曽於郡大崎町野方立小野 | 台地 | 中世 | |
| 3 | 立小野A・B遺跡 | 鹿屋市串良町細山田立小野 | 台地 | 縄文 | |
| 4 | 立小野遺跡 | 鹿屋市串良町細山田立小野 | 台地 | 縄文（後），弥生 | |
| 5 | 高松遺跡 | 鹿屋市串良町細山田高松 | 台地 | 弥生 | |
| 6 | 二子塚A遺跡 | 曽於郡大崎町野方二子塚 | 台地 | 旧石器，縄文（早・晩）弥生，古墳 | 平成11年度本調査鹿理（84） |
| 7 | 二子塚B遺跡 | 曽於郡大崎町持留二子塚 | 台地 | 縄文，弥生 | |
| 8 | 二子塚C遺跡 | 曽於郡大崎町持留二子塚 | 台地 | 弥生（中・後） | |
| 9 | 大佐土原遺跡 | 曽於郡大崎町野方大佐土原 | 山麓緩斜面 | 弥生（中） | |
| 10 | 佐土原遺跡 | 曽於郡大崎町野方4715-2 | 台地 | 縄文，古墳 | |
| 11 | 鈩山城跡 | 曽於郡大崎町持留 | 台地 | 弥生，古墳，中世 | 別称「山ノ城」，推定 |
| 12 | 川上神社遺跡 | 曽於郡大崎町持留中持留 | 舌状地 | 縄文（後） | |
| 13 | 持留牧遺跡 | 曽於郡大崎町持留牧・東尾ノ鼻 | 台地 | 縄文，古墳 | 平成9年度農政分布調査 |
| 14 | 茶ノ木遺跡 | 曽於郡大崎町持留1406-2 | 台地 | 古墳 | |
| 15 | 細山田段遺跡<br>（旧：京の塚遺跡） | 曽於郡大崎町持留細山田段 | 台地 | 縄文（早～晩） | 平成25～27年度本調査鹿公財（25），(35) |
| 16 | 細山田段遺跡 | 曽於郡大崎町下原鹿屋市串良町下中京の塚 | 台地 | 縄文（後・晩）弥生（前），古墳 | 平成8年度農政分布，平成 11年度農政分布で拡大 |
| 17 | 京の塚古墳 | 鹿屋市串良町下中京の塚 | 台地 | 古墳 | |
| 18 | 益畑遺跡 | 鹿屋市串良町細山田益畑 | 台地 | 縄文，弥生 | |
| 19 | ホンドンガマ遺跡 | 鹿屋市串良町細山田下中 | 洞窟 | 縄文 | シラス洞窟で崩壊しつつある |
| 20 | 諏訪城跡 | 鹿屋市串良町細山田下中 | 丘陵 | 中世 | |
| 21 | 小牧遺跡 | 鹿屋市串良町細山田小牧 | 台地 | 旧石器，縄文，弥生，古墳，古代，中世 | 鹿公財（26），(39)，(46) |
| 22 | 町田堀遺跡 | 鹿屋市串良町細山田アタゴ山 | 台地 | 弥生，古墳 | 平成25～28年度本調査鹿公財（7），(26) |
| 23 | 北原古墳群 | 鹿屋市串良町細山田北原 | 台地 | 古墳 | |
| 24 | 北原鳶地逆修古石塔群 | 鹿屋市串良町細山田北原 | 台地 | 中世（鎌倉末） | |
| 25 | 北原城跡 | 鹿屋市串良町細山田生栗須 | 丘陵 | 中世（南北朝） | |
| 26 | 細山田城跡 | 鹿屋市串良町細山田生栗須 | 丘陵 | 中世 | |
| 27 | 生栗巣遺跡 | 鹿屋市串良町細山田生栗須 | 台地 | 弥生 | |
| 28 | 牧山遺跡 | 鹿屋市串良町細山田牧山 | 台地 | 弥生，古墳 | 平成25～29年度本調査<br>鹿公財（14），(30)，(44) |
| 29 | 入部堀遺跡 | 鹿屋市串良町細山田入部堀 | 台地 | 弥生，古墳 | |
| 30 | 新堀遺跡 | 鹿屋市串良町細山田新堀 | 台地 | 縄文 | |
| 31 | 是ヶ迫遺跡 | 鹿屋市串良町細山田是ヶ迫 | 台地 | 縄文，弥生 | |
| 32 | 瓜々良毒遺跡 | 鹿屋市串良町有里瓜々良毒 | 台地 | 弥生 | 平成12年度本調査 |
| 33 | 熊ヶ鼻遺跡 | 鹿屋市串良町有里熊ヶ鼻 | 台地 | 縄文，弥生 | |
| 34 | 鈩瀬遺跡 | 鹿屋市串良町有里鈩瀬 | 台地 | 弥生 | |
| 35 | 永田堀遺跡 | 鹿屋市串良町有里永田堀 | 台地 | 弥生，古墳 | |
| 36 | 宮留古墳群 | 鹿屋市串良町有里 | 台地 | 古墳 | |
| 37 | 石塚遺跡 | 鹿屋市串良町有里石塚 | 台地 | 弥生 | |
| 38 | 石塚古墳 | 鹿屋市串良町有里石塚2169 | 台地 | 古墳 | |
| 39 | 牧内古墳 | 肝属郡東串良町岩弘 | 台地 | 古墳 | |
| 40 | 下原遺跡 | 曽於郡大崎町持留 | 台地 | 縄文（後），弥生，古墳 | |
| 41 | 岩弘上古石塔 | 肝属郡東串良町岩弘上共同墓地 | 台地 | 中世 | |
| 42 | 上市ノ園古墳群 | 肝属郡東串良町岩弘 | 台地 | 古墳 | |




第1－1図　周辺遺跡位置図

## 第３節　東九州自動車道関連の遺跡

東九州自動車道については，平成26年度に鹿屋串良ＪＣＴ～加治木ＪＣＴ間が開通している。現在，志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間で工事が行われている。この区間では，23遺跡が存在し，平成30年度までに20遺跡で本調査が行われている。ここでは，これらの遺跡の概要を第２～５表にまとめ記載する。詳細は，報告書等を参照して頂きたい。

**表1-2　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表①**

| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 発掘調査 | 整理・報告書作成作業 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代・時期 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 1 | 見帰 | 志布志市<br>志布志町<br>志布志<br>台地上<br>標高約70m | H28年度終了<br>※H25・30 年度に埋文センター調査（隣接地） | H30年度刊行<br>R２年度隣接地刊行 | 旧石器 | — | ナイフ形石器，細石刃，使用痕剥片，磨石，敲石，台石 |
| | | | | | 縄文早期 | 土坑，集石 | 吉田式，石坂式，押型文，下剥峯式，縄文系土器，石鏃，磨石，敲石，石槍 |
| | | | | | 縄文中期 | 落とし穴，土坑 | 石鏃，石皿 |
| | | | | | 縄文後期 | 溝状遺構 | 岩崎上層式，丸尾式，辛川式，納屋向タイプ，西平式，中岳Ⅱ式，石匙，石鏃，打製石斧，磨石，敲石，石錘 |
| | | | | | 弥生 | — | 突帯文，高付式 |
| | | | | | その他の時代 | 土坑，溝状遺構 | 縄文系土器，染付 |
| | | 旧石器時代から近世までの複合遺跡であり，主体となるのは縄文時代後期である。赤色顔料を塗布した台付皿形土器が出土し，溝状遺構から出土した丸尾式土器・西平式土器などの一括資料は後期後半の共伴関係をみる上で貴重である。 | | | | | |
| 2 | 宮ノ上 | 志布志市<br>志布志町<br>安楽<br>台地上<br>標高約45m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 3 | 安良 | 志布志市<br>志布志町<br>安楽<br>台地上<br>標高約30m | H28年度<br>H29年度<br>終了 | H30年度<br>R元年度<br>刊行 | 縄文早期 | 集石 | 前平式，小牧３Ａタイプ，轟Ａ式 |
| | | | | | 縄文中期 | — | 大平式，阿高式 |
| | | | | | 縄文後・晩期 | 土坑 | 丸尾式，西平系，組織痕土器，石鏃，スクレイパー，打製石斧，磨石，石錘，丸玉 |
| | | | | | 弥生中期 | 土坑 | 入来Ⅱ式，山ノ口Ⅱ式，磨製石鏃 |
| | | | | | 古墳時代 | 地下式横穴墓，溝状遺構 | 後貫式，須恵器，鉄鏃，鉄鎌 |
| | | | | | 古代～中世 | 掘立柱建物跡，竪穴建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面，礫集積遺構 | 土師器，須恵器，国産陶器，カムイヤキ，瓦器，輸入陶磁器，滑石製石鍋，鉄関連遺物，銭貨，炭化米規 |
| | | | | | 近世 | 土坑，帯状硬化面 | 縄摩焼，肥前系陶器，瀬戸系陶器，銭貨，鉄製品 |
| | | 縄文時代から近世までの複合遺跡であり，中世前半の炭化米規は県内最古の事例として注目される。 | | | | | |
| 4 | 永神松 | 志布志市<br>志布志町<br>安楽<br>安楽川左岸<br>標高約３m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 5 | 安楽小牧Ⅱ | 志布志市<br>志布志町<br>安楽<br>台地上<br>標高約50m | H27年度<br>H29年度<br>終了 | H30年度<br>R元年度<br>刊行 | 旧石器 | — | ナイフ形石器，細石刃核，細石刃 |
| | | | | | 縄文草創期 | 集石 | 土器片，黒曜石剥片，磨石，敲石，石皿 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石 | 加栗山式，札ノ元Ⅱ類，金圃Ⅱ式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，耳柱，石鏃，石匙，石錐，石槍，磨製石斧，敲石器，異形石器 |
| | | | | | 弥生 | — | 入来Ⅱ式 |
| | | | | | 古代～近世 | 溝状遺構，帯状硬化面 | 土師器，須恵器，青磁，縄摩焼，染付，土製品，鉄製品，寛永通宝 |
| | | 起伏のある地形に立地し，縄文時代早期を中心に旧石器時代，縄文時代草創期も出土した複合遺跡である。古墳群として遺跡登録されているが，これまでの調査では墳墓を含めた古墳は確認されていない。 | | | | | |

## 表1-3　東九州自動車道関連（志布志IC～鹿屋串良JCT間）遺跡一覧表②

| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 発掘調査 | 整理・報告書作成作業 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代・時期 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 6 | 西五 | 志布志市<br>有明町<br>野井倉<br>有地縄辺郡<br>標高約50m | H26年度<br>H27年度<br>終了<br>※志布志市教育委員会調査 | H29年度<br>刊行<br>※志布志市教育委員会刊行 | 旧石器 | — | 暗線型細石刃核，細石刃，剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 落とし穴，遺穴土坑，土坑，集石，磨石集積，配石遺構，石器製作跡 | 岩本式，前平式，吉風頭式，東九州系無文土器，加栗山式，小牧３Ａタイプ，吉田式，塞ノ上タイプ，札ノ元類似，倉園Ⅱ式，石坂式，中原式，下剥峯式，桑ノ丸式，仕タイプ，押型文，手向山式，塞ノ神式，石鏃，スクレイパー，石核，磨製石斧，石錘，磨石・敲石類，石皿，トロトロ石器，異形石器 |
| | | | | | 縄文前期以降 | 落とし穴 | |
| | | 旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代は，細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期前葉に該当する遺構や遺物が多く確認された。特に注目されるのは被熱破砕礫が多量に出土した点である。 | | | | | |
| 7 | 大代 | 志布志市<br>有明町<br>野井倉<br>有地縄辺郡<br>標高約40m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 8 | 大森 | 志布志市<br>有明町<br>野井倉<br>河岸段丘<br>標高約30m | H26年度<br>H30年度<br>終了 | R３年度<br>刊行 | 縄文早期 | 遺穴土坑，土坑，集石，土器集中 | 前平式，加栗山式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石錐，楕形石器，打製・磨製石斧，磨・敲石 |
| | | | | | 縄文中期 | — | 春日式，磨製石斧 |
| | | | | | 古代 | — | 須恵器 |
| | | | | | 中世 | 掘立柱建物跡，ピット列，ピット | 土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，常滑，備前，中国陶器 |
| | | | | | 時期不詳 | 土坑，不明遺構，溝状遺構 | — |
| | | 縄文時代早期と中世を中心とする遺跡である。遺構では縄文時代早期の遺穴土坑，土坑，集石，中世の掘立柱建物跡等が発見された。遺物は縄文時代早期の土器や石器を中心に，縄文時代中期から中世の遺物が出土している。また，鬼界カルデラ噴火による波状化現象（噴砂跡）が確認されている。 | | | | | |
| 9 | 屋地下 | 志布志市有明町野井倉田川右岸標高約５m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 10 | 春日堀 | 志布志市<br>有明町蓬原<br>河岸段丘<br>標高約30m | H26年度<br>H27年度<br>H28年度<br>H29年度<br>H30年度<br>終了 | H30年度<br>R元年度<br>（１）刊行<br>R２年度<br>R３年度<br>（２）刊行 | 縄文早期 | 竪穴建物跡，遺穴土坑，集石，土坑，土器集中，炭化物集中，落とし穴 | 岩本式，前平式，加栗山式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，中原式，塞ノ神式，石鏃，尖頭状石器，石錐，石匙，削器，掻器，石斧，磨製石斧，磨敲石類，石皿，環状石斧，トロトロ石器 |
| | | | | | 縄文後期 | 落とし穴，土坑 | 丸尾式，石器 |
| | | | | | 弥生 | 竪穴建物跡 | 山ノ口Ⅰ式 |
| | | | | | 弥生終末期～古墳前期 | 竪穴建物跡，土坑，遺物集中区 | 弥生終末期～古墳前期の土器，鉄鏃，敲石，磨敲石，砥石，台石，磨製石剣 |
| | | | | | 古墳終末期 | 竪穴建物跡，掘立柱建物跡，溝跡，遺物溜まり，地下式横穴墓，遺物集中区 | 須賀式鉄鏃類，甕，須恵器，鉄鏃，青銅製品，敲石，磨敲石，砥石，軽石製品，棒状石器 |
| | | | | | 古代 | 掘立柱建物跡，ピット列，焼土跡 | 土師器，須恵器，軽石製品，土製品 |
| | | | | | 中世 | 堀跡，道跡，ピット列，竪穴建物跡，土坑墓 | 土師器，常滑焼，白磁，青磁 |
| | | | | | 近世 | 溝跡，道跡，貝溜まり | |
| | | 縄文早期から中世を中心とする遺跡である。遺構は縄文時代早期の竪穴建物跡，遺穴土坑，集石，落とし穴，弥生時代の竪穴建物跡，古墳～飛鳥時代の竪穴建物跡（焼失住居跡含む），掘立柱建物跡，溝状遺構，中世の掘立柱建物跡，堀跡が検出された。遺物は縄文時代早期の土器，石器等をはじめ，弥生時代から中・近世の遺物が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う波状化現象（噴砂跡）の痕跡も確認されている。 | | | | | |
| 11 | 牧ノ上Ⅱ | 志布志市有明町野井倉地上<br>標高約47m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |

## 表1-4　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表③

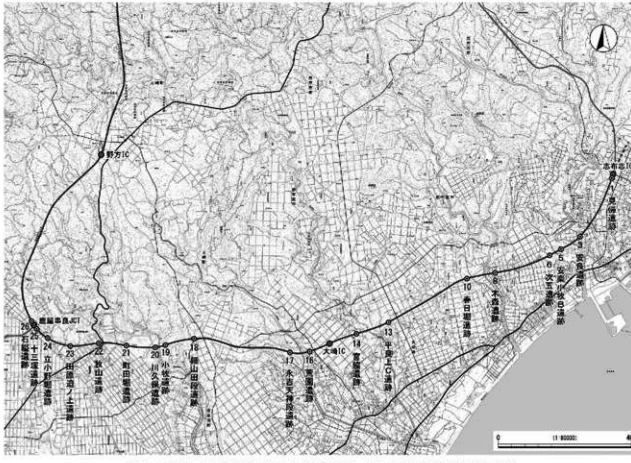
| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 発掘調査 | 整理・報告書作成作業 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代・時期 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 12 | 船底場 | 曽於郡<br>大崎町<br>恵辺<br>台地上<br>標高約50m | 文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 13 | 平良上Ｃ | 曽於郡<br>大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約40m | H26年度<br>H27年度<br>終了 | H27年度<br>H28年度<br>刊行 | 縄文早期 | 整穴住居跡，整穴遺構，遺穴土坑，土坑，集石，土器集中，チップ集中 | 岩本式，加栗山式，吉田式，石坂式，中原式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，石鏃，石匙，石錐，削器，掻器，楔形石器，打製・磨製石斧，磨石，敲石，凹石，礫石，石棒，石皿，線刻礫 |
| | | 縄文時代早期を中心とする遺跡である。遺構は整穴住居跡，遺穴土坑，集石，土坑が検出されている。遺物は，縄文時代早期の土器，石鏃，石匙，打製石斧，磨製石斧等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う波状化現象（噴砂跡）も確認されている。 | | | | | |
| 14 | 宮脇 | 曽於郡<br>大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約40m | H27年度<br>H28年度<br>終了 | H28年度<br>Ｒ元年度<br>刊行 | 旧石器 | 礫群 | ナイフ形石器，三稜尖頭器，台形石器，細石刃，細石刃核，スクレイパー，掻器，使用痕剥片，磨石，叩石 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，土坑 | 志風頃式，加栗山式，札ノ元窪貝，小牧３Ａタイプ，倉園Ⅱ式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，打製石鏃，石匙，石錐，磨製石斧，磨石，敲石，石皿，軽石製品 |
| | | | | | 中世～近世 | 井戸状遺構 | 青磁，備前焼，寛永通宝，石臼 |
| | | 旧石器時代・縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代では，石器製作に関連すると考えられる石核，フレーク，チップ等が出土している。縄文時代早期では，集石，土坑，土器集中，ピットと土器，石器等が出土している。鬼界カルデラ噴火に伴う波状化現象の噴砂跡も確認されている。 | | | | | |
| 15 | 金園場 | 曽於郡<br>大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約45m | 文化財課の試掘調査及び埋文センターの確認調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 16 | 荒園 | 曽於郡<br>大崎町<br>仮宿<br>台地縁辺部<br>標高約50m | H24年度<br>H25年度<br>H26年度<br>H30年度終了<br>※H24年度は埋文センター調査 | H28年度<br>（1）刊行<br>H30年度<br>Ｒ元年度<br>Ｒ２年度<br>Ｒ３年度<br>（2）刊行 | 旧石器 | ブロック | 細石刃，細石刃核 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石遺構，磨石集積遺構，素材剥片集積遺構，土器集中小所，土坑，ブロック | 前平式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，手向山式，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，轟Ａ式，耳粕，石鏃，石匙，錐石，石核，石錐，フレーク，チップ |
| | | | | | 縄文前期～晩期 | — | 轟Ｂ式，入佐式，石鏃，石斧，縄文，磨石 |
| | | | | | 弥生 | 整穴建物跡，土坑 | 吉ヶ崎式，山ノ口式，磨製石鏃未製品，礫石 |
| | | | | | 古墳 | 整穴建物跡 | 古式土師器，礫石，軽石製品 |
| | | | | | 古代以前 | 竪跡 | — |
| | | | | | 中世以降 | 掘立柱建物跡，溝状遺構，土坑 | 土師器，東播系須恵器，陶器，青磁，華南三彩 |
| | | 旧石器時代から中近世までの複合遺跡である。縄文時代早期では，40基の集石遺構が検出された。塞ノ神式，苦浜式土器がバリエーション豊かに出土し，石匙・石鏃などの石器も多数出土した。古墳時代では，布留模倣甕，宮崎平野産の土器のみを伴う整穴建物跡が検出された。検出された片薬研堀は埋土中に磨コラが堆積し，古代以前の片薬研堀としては県内で初例となる。 | | | | | |
| 17 | 永吉天神段 | 曽於郡<br>大崎町<br>永吉台地縁辺<br>及び河岸段丘<br>標高30～<br>50m | H24年度<br>H25年度<br>H26年度<br>H27年度終了<br>※H24年度は埋文センター調査 | H27年度<br>（1・第１地点）<br>刊行<br>H28年度<br>（2・第２地点１）<br>刊行<br>Ｈ29年度<br>（3・第２地点２）<br>刊行<br>Ｈ30年度<br>（4・第３地点）<br>刊行<br>Ｒ元年度<br>（5・第２地点３）<br>刊行 | 旧石器 | 礫群，ブロック | 尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，土器埋設遺構 | 前平式，加栗山式，吉田式，手向山式，下剥峯式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浜式，条痕文，石鏃，石匙，石斧，敲石，磨石，石皿 |
| | | | | | 縄文前期 | — | 曽畑式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 岩崎上層式，北久根山式，中岳Ⅱ式 |
| | | | | | 縄文晩期 | 整穴建物跡，落とし穴，土坑 | 入佐式，黒川式，刻目突帯文，管玉，打製石斧 |
| | | | | | 弥生 | 整穴建物跡，掘立柱建物跡，円形周溝墓，土坑墓群，土坑 | 入来式，山ノ口式，黒髪式，鉄鏃，磨製石鏃，管玉 |
| | | | | | 古墳 | 整穴建物跡，土坑 | 成川式，須恵器 |
| | | | | | 古代 | 掘立柱建物跡，土坑 | 須恵器，土師器 |
| | | | | | 中世 | 掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬土坑，土坑 | 白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼，湖州六花鏡，礫石，石塔，古銭 |
| | | | | | 近世 | 近世墓 | 備前焼，染付，寛永通宝，石臼 |
| | | | | | 時期不明 | 掘立柱建物跡 | — |
| | | 旧石器時代から近世までの遺跡である。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から，国内では最古級となる鉄鏃が出土した。中世では白磁，青磁，瓦質土器，東播系須恵器等が多量に出土した。また，地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も発見された。 | | | | | |

## 表1−5　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表④

| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 発掘調査 | 整理・報告書作成作業 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代・時期 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 18 | 鹿田遺跡 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>曽於郡<br>大崎町<br>細山田<br>台地上<br>標高約95m | H25年度<br>H26年度<br>H27年度<br>終了 | H26年度<br>H28年度<br>H30年度<br>R元年度<br>（1）刊行<br>R２年度<br>（2）刊行 | 縄文早期 | 集石，埋設土器 | 吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，中原式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浦式，石京西式，石鏃，石匙，磨・敲石，石錘 |
| | | | | | 縄文前・中期 | 土坑，土器集中 | 曽畑式，深浦式，大歳山式，鷹島式，船元式，石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石棒，炭化種実 |
| | | | | | 縄文後期 | 土坑 | 市川式，丸尾式，西平式，中岳Ⅱ式，石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，磨・敲石，打製石斧，磨製石斧，石皿 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 入佐式，黒川式 |
| | | | | | 弥生前期 | — | 高橋式 |
| | | | | | 古墳 | — | 成川式 |
| | | | | | 時期不明 | 溝状遺構・古道 | — |
| | 縄文時代前期から中期初頭を中心に，縄文時代早期から近世までを含む遺跡である。縄文中期では170基を超える土坑が検出されたほか，在地系土器の深浦式土器，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土し，当時の遠隔地交流の一端が明らかとなった。 | | | | | | |
| 19 | 小牧 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地上<br>標高約60m | H27年度<br>H28年度<br>H29年度<br>終了 | H30年度<br>R元年度<br>（1）刊行<br>R２年度<br>（2）刊行<br>R３年度<br>（3）刊行<br>R４年度<br>刊行 | 旧石器 | — | 撥先形尖頭器，ナイフ形石器，三稜尖頭器，細石刃 |
| | | | | | 縄文早期 | 竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，磨石集積 | 前平式，吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栫式，塞ノ神式，苦浦式，条痕文，石鏃，石匙，石錐，スクレーパー，块状耳飾，軽石製品，石斧，磨敲石，石皿，石錘 |
| | | | | | 縄文前・中期 | 土坑，集石，ピット | 曽畑式，深浦式，磨敲石 |
| | | | | | 縄文後期前半 | 竪穴建物跡，石皿立石遺構，埋設土器，土器集中，石斧集積遺構，集石，土坑 | 大平式，阿高式系，宮之迫式，福田Ⅱ式，稲荷式，松山式，丸尾式，中岳Ⅱ式，上加世田式石鏃，石匙，石錐，スクレーパー，石斧，磨敲石，石皿，礫石，石製品（他飾），石錘，軽石製品 |
| | | | | | 縄文晩期 | 土坑，集石，石斧集積 | 入佐式，黒川式，刻目突帯文，組織痕土器 |
| | | | | | 弥生 | 竪穴建物跡，土坑 | 入来式，山ノ口式，高付式，須久式系統，東海系壺，礫石 |
| | | | | | 古墳 | 竪穴建物跡，土坑，土器集中，礎集中，焼土集中域，ピット | 中津野式，東原式，辻柴原式，笹貫式，布留式系土師器初期須恵器，須恵器大甕，磨製石鏃，礫石，磨敲石台石，鉄製品，勾玉，管玉，白玉，輪の羽口土製紡錘車，土錘 |
| | | | | | 古代 | 掘立柱建物跡，焼土跡，溝状遺構，土坑，ピット | 土師器，須恵器，墨書土器，鉄器，土錘，焼塩土器，土製紡錘車 |
| | | | | | 中世以降 | 掘立柱建物跡，土坑，石組遺構，溝状遺構，杭列 | 土師器，東播系須恵器，白磁，青磁，墨書土器，石鍋，合子，輪羽口，刀子，鉄製紡錘車，煙管，古銭，鍛冶滓 |
| | 旧石器時代から近世までの遺跡である。縄文時代早期前半から中葉の集落，後期の石籠遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。また大型の花弁形竪穴建物跡を伴う古墳時代の集落からは熊本で製作された可能性をもつ布留模倣甕や宮崎平野産の須恵器が出土し，当時の交流の様子が明らかになった。古代・中世の掘立柱建物跡を伴う集落跡も発見されている。串良川流域に暮らすムヤ人の各時代の生活や土地利用の様子を考える上で重要な遺跡である。 | | | | | | |
| 20 | 月久保 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>河岸段丘<br>標高30～50m | H26年度<br>H27年度<br>H28年度<br>H29年度<br>H30年度<br>終了 | H27年度<br>H29年度<br>H30年度<br>（1・C地点）<br>刊行<br>R元年度<br>（2・B・D地点）<br>刊行<br>R２年度<br>（3・A地点）<br>刊行<br>（4・A地点）<br>刊行<br>R４年度<br>刊行 | 旧石器 | 礫群 | 剥片尖頭器，ナイフ形石器，敲原型細石刃核，台形石器，細石刃 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，連穴土坑，土坑 | 岩本式，前平式，志風頃式，加栗山式，吉田式，石坂式，下剥峯式，押型文，塞ノ神式，苦浦式，桑ノ丸式，耳栓，石鏃，磨石，敲石，砥石 |
| | | | | | 縄文前期 | 集石 | 西之薗式，轟式，曽畑式，磨製石斧，石鏃，磨石 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 宮之迫式，中岳式，動物形土製垂飾品 |
| | | | | | 縄文晩期 | 集石 | 入佐式，黒川式，刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生前期 | — | 高橋式 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡 | 山ノ口式，入来式 |
| | | | | | 古墳 | 竪穴建物跡，鍛冶関連建物跡，竪穴状遺構 | 東原式，布留式系土師器，辻柴原式，笹貫式，輪羽口，高坏脚転用輪羽口，鉄鏃，鉄斧，鉄滓，勾玉，管玉，ガラス小玉，製紡炉，棒状鍛 |
| | | | | | 古代 | 掘立柱建物跡，竪穴建物跡 | 須恵器，土師器，黒色土器，墨書土器，瓦器 |
| | | | | | 中世 | 掘立柱建物跡，溝状遺構，古道跡 | 青磁，白磁，瓦器椀 |
| | 旧石器時代から中世までの遺跡である。特に古墳時代では，集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺物を伴う遺構が発見されているほか，専用の輪の羽口も出土している。製鉄かも出土しており，古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。 | | | | | | |

## 表1−6　東九州自動車道関連（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）遺跡一覧表⑤

| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 発掘調査 | 整理・報告書作成作業 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代・時期 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 21 | 町田堀 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地縁辺部<br>標高約90m | H25年度<br>H26年度<br>H27年度<br>H28年度<br>終了 | H27年度<br>(1)刊行<br>H29年度<br>(2)刊行 | 縄文早期 | 集石 | 下剥峯式，平柿式 |
| | | | | | 縄文後期 | 竪穴建物跡，埋設土器，落とし穴，土坑，石斧集積遺構 | 中岳Ⅱ式，石刀，石鏃，打製・磨製石斧，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 黒川式，刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡 | 入佐式，山ノ口式，土製勾玉 |
| | | | | | 古　墳 | 竪穴建物跡，地下式横穴墓，円形周溝墓，溝状遺構 | 成川式，人骨，鉄剣，鉄鏃，刀子，ヤリ鉋，鳥形石器 |
| | | | | | 古　代 | 堆土跡，道跡 | 土師器，須恵器 |
| | | 縄文時代早期から古代までの遺跡である。古墳時代の地下式横穴墓が92基発見され，円形周溝を伴う例も初めて確認されている。立小野墓遺跡や下堀遺跡等と類似性が想定され，高屋湾と共存する志布志湾沿岸部の地下式横穴墓との比較が可能になり，大隅半島の古墳時代像解明に必須の遺跡である。このほか，縄文時代後期の竪穴建物跡から，幅原文を施す完全な石刀が出土している。 | | | | | |
| 22 | 牧山 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地縁辺部<br>標高約110m | H25年度<br>H26年度<br>H27年度<br>H28年度<br>H29年度<br>終了 | H28年度<br>(1)刊行<br>H30年度<br>R元年度<br>(2)刊行<br>R２年度<br>R３年度<br>(3)刊行 | 旧石器 | — | 剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 竪穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，石器製作跡 | 吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石匙，スクレイパー，磨石 |
| | | | | | 縄文前期 | 埋設土器（轟式） | 轟Ⅱ式，条痕文 |
| | | | | | 縄文後期 | 土坑，落とし穴状遺構，掘立柱建物跡，ピット，埋設土器，石器集中部 | 市来式，丸尾式，納開向式，納曽式，西平式，辛川Ⅱ式，太郎迫式，中岳Ⅱ式，打製・磨製石斧，磨敲石，剥片，石核，石匙，石冠 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 入佐式，黒川式，刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑 | 入来式，山ノ口式，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅製 |
| | | | | | 中・近世 | 古道跡 | 青磁，白磁，鉄摩擦 |
| | | 旧石器時代から中世にかけての遺跡である。特に，縄文時代後期の建物跡を構成していた柱穴群が環状に発見されており注目される。また，同時期のものと考えられる複数の埋設土器と石冠が１点出土している。弥生時代中期の青銅製鐸の出土も特筆される。 | | | | | |
| 23 | 田原迫ノ上 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地縁辺部<br>標高約120m | H22年度<br>H23年度<br>H24年度<br>H25年度<br>H26年度<br>H28年度<br>H30年度<br>終了<br>※H22～24は埋文センター調査 | H26年度<br>(1)刊行<br>H27年度<br>H28年度<br>(2)刊行<br>R元年度<br>R３年度<br>(3)刊行<br>※H23～24は埋文センター作業 | 縄文早期 | 竪穴建物跡，連穴土坑，集石，落とし穴，土坑，石器製作跡 | 前平式，吉田式，倉園Ⅰ式，石坂式，下剥峯式，辻タイプ，桑ノ丸式，中原式，押型文，手向山式，平柿式，塞ノ神式，石鏃，石匙，石錐，磨石，敲石，石皿，打製石斧 |
| | | | | | 縄文後期 | 落とし穴，礫集積 | 指宿式，市来式，石鏃，磨石 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 黒川式 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡，大型建物跡，掘立柱建物跡，円形・方形周溝 | 山ノ口式・中溝式，細田類文系櫛，土製勾玉，鉄鏃，磨製石鏃，石匙，砥石，敲石，台石 |
| | | | | | 古墳時代以降 | 溝状遺構，畝状遺構 | 土師器，鉄摩擦 |
| | | 縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした遺跡である。弥生時代中期では，ベッド状遺構を伴う方形・円形の大型竪穴建物跡，棟持柱をもつ掘立柱建物跡２棟を含む建物跡群，柱穴列や円形・方形の周溝などが検出され，大隅半島中央部における当該期の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。このほか，縄文時代早期の竪穴建物跡，連穴土坑などの遺構が多数発見されたことも注目される。 | | | | | |
| 24 | 立小野墓 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地縁辺部<br>標高約125m | H22年度<br>H23年度<br>H24年度<br>H26年度<br>H30年度終了<br>※H22～24は埋文センター調査 | H24～27年度<br>H28年度<br>(1)刊行<br>R３年度<br>(2)刊行<br>※H24は埋文センター作業 | 縄文前・中期 | — | 深浦式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 指宿式，市来式，西平式 |
| | | | | | 弥生中期 | — | 山ノ口式 |
| | | | | | 古　墳 | 地下式横穴墓，土坑墓，溝状遺構 | 成川式，須恵器，鉄器（刀・剣・槍・鉾・刀子・鏃等），青銅鈴，人骨 |
| | | | | | 時期不詳 | 溝状遺構 | — |
| | | 縄文代前期から古墳時代までの遺跡である。特筆すべきは，古墳時代の地下式横穴墓が約200基発見されたことである。玄室内には鉄鏃や鉄剣等の鉄器，青銅製鈴等の副葬品と人骨が多数残っていたほか，亀岡辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鈴をはじめ，多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は，南九州の古墳時代墓制の様相全体を解明していくよう貴重な資料である。 | | | | | |
| 25 | 十三塚 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地上<br>標高約40m | H20年度<br>H21年度<br>終了<br>※埋文センター調査 | H22年度<br>刊行<br>※埋文センター作業 | 縄文早期 | — | 石坂式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 岡縄文，市来式， |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 黒川式，三万田式 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑 | 山ノ口式，土製勾玉，打製・磨製石鏃，磨石，敲石，砥石，棒状敲具，鉄鏃 |
| | | | | | 古　墳 | — | 成川式 |
| | | | | | 中世～近世 | 道跡状遺構 | 加治木銭 |
| | | 弥生時代中期を中心とする遺跡である。花弁形・方形・円形を呈する竪穴建物跡が発見された。出土遺物等から，王子遺跡や前畑遺跡等と同時期の集落跡と考えられる。また，集石が竪穴建物跡内から発見されている。７号住居跡の埋土内から，松木薗遺跡や永吉天神段遺跡から出土した鉄鏃と類似する無茎の鉄鏃が出土した。 | | | | | |
| 26 | 石鎚 | 鹿屋市<br>串良町<br>細山田<br>台地上<br>標高約40m | H20年度<br>H21年度<br>終了<br>※埋文センター調査 | H22年度<br>刊行<br>※埋文センター作業 | 縄文早期 | 集石，土坑 | 岩本式，前平式，志風頃式，石坂式，平柿式，貝殻条痕文土器，打製石鏃，磨石，敲石 |
| | | | | | 弥生中期 | — | 山ノ口式，須玖式 |
| | | 縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡である。鎌石橋式土器１個体と轟Ａ式土器が２個体出土し，両型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。 | | | | | |




第1－2図　東九州自動車道関連（志布志IC～鹿屋串良JCT間）遺跡位置図

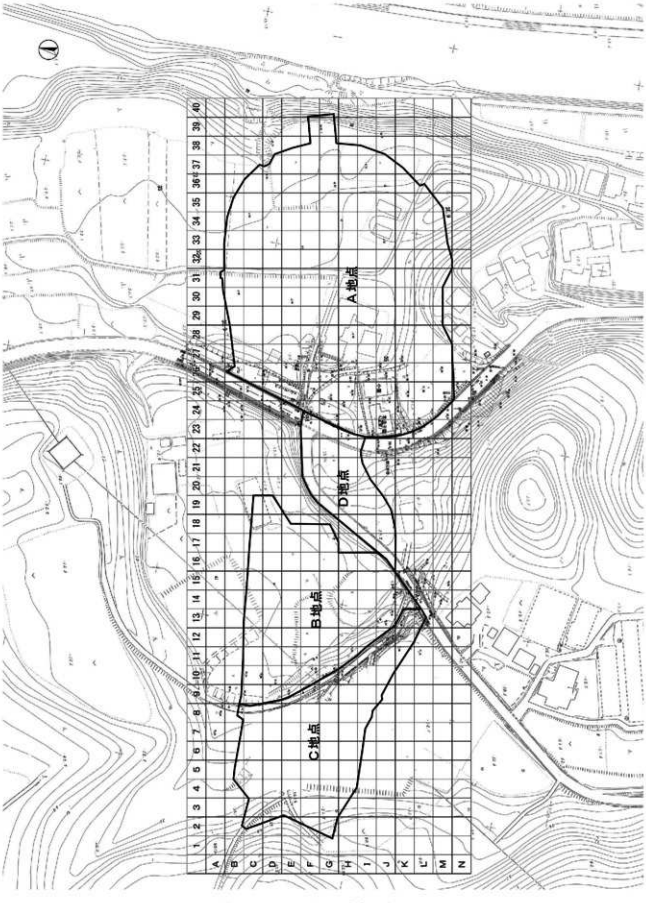
# 第Ⅲ章　調査の方法と層序

## 第１節　調査の方法

本節では，発掘調査の方法，遺構の認定方法，整理・報告書作成作業の方法，遺物・石材の分類基準の概要について述べる。

### １　発掘調査の方法

川久保遺跡の発掘調査は，平成26年度～平成30年度の５か年にわたり実施した。調査対象表面積は，27,327㎡，調査対象延面積は，96,403㎡である。Ａ地点は，平成26年度～平成29年度まで発掘調査を実施した。Ａ地点の調査対象表面積は，25,887㎡，調査対象延面積は，70,427㎡である。Ａ地点は，串良川右岸に隣接する笠野原台地の東側縁辺部の河岸段丘に位置し，調査地は，畑地，山林，宅地等に利用されていた。本遺跡の調査区割り（グリッド）は，大隅河川国道事務所の設置した道路建設用センターライン「ＳＴＡ154」と「ＳＴＡ155」を結ぶ延長線を基軸として，西側から東側に向かって１・２・３‥‥，北側から南側に向かってＡ・Ｂ・Ｃ‥‥とする10ｍ間隔で設定した。グリッドは，主に遺構や遺物の出土位置の管理に用い，基本測量や地形測量，遺物の取上げや遺構のポイント等は，国土座標第Ⅱ系を基準とする座標を用いた。本調査に当たっては，調査区内の雑木や雑草の伐採を行った後，文化財課による試掘調査と埋文センターが実施した確認調査の結果に基づき，重機で表土を除去した。表土掘削後は，10ｍグリッドを設定し，主にⅣ層以下を人力によって掘り下げた。出土した遺物については，必要に応じて出土状況の写真撮影を行った後，トータルステーションで出土位置を記録し，取り上げを実施した。まとまりのある遺物や遺構に伴う遺物については，縮尺10分の１で実測を行った。遺構については，検出状況の写真撮影を実施した後，人力により埋土の掘削を行い，調査の段階に応じて適宜，写真撮影を行った。また，遺構の規模に応じて縮尺10分の1,20分の１で実測を行った。遺物包含層間にあるⅤ層やⅦ層等の無遺物層は，重機で除去し，下層の遺物包含層を人力によって掘り下げる作業を繰り返した。なお，今回報告する縄文時代後期・晩期・弥生時代・古墳時代・近世はⅤa層のアカホヤ火山灰層より上位のⅣa層に相当する。調査中に生じた掘削土については，調査区に仮置きした他，大隅河川国道事務所から指定された調査区外へ搬出し，調査が終了した調査区については，重機により埋め




第1－3図 周辺地形及びグリッド配置図

戻し整地を行った。

### 2　遺構の認定方法

遺構の認定は，検出面，埋土の状況や色調，規模等を担当者で検討し総合的に判断したうえで行った。遺構の時期の判断は，検出面の層位，埋土の堆積状況や色調，遺構内遺物等を検討して行った。竪穴住居跡は，埋土形状，床面の状況や貼床の有無，焼土域や柱穴の有無，遺物の出土等を総合的に検討し判断した。方形，円形，楕円形等形状が異なるが，検出面，埋土状況，規模等を総合的に判断し区別した。掘立柱建物については，柱痕の有無やピットの間隔，埋土状況等を総合的に検討し判断した。時期は，それぞれのピットから出土する遺物で時期差が見られる場合，それぞれを検討して判断を行った。集石遺構や礫群は，礫の密集度，検出状況，掘り込みや被熱の有無等を総合的に判断して認定した。当遺跡では，礫群と集石遺構の区別について，薩摩火山灰のⅧ層を基準としてⅨ層以下を礫群，Ⅷ層以上を集石として名称を使い分けた。礫群の時期に関しては，検出面や周辺の遺物等を検討したうえで判断した。道路状遺構は，硬化面が筋状に見られる遺構で，硬化面に沿って一部に溝状遺構が伴っていた。時期判断は，遺構内遺物や埋土の状況等を検討して行った。

### 3　整理作業・報告書作成作業の方法

A地点では，概ね次のような作業手順により整理作業を進めた。遺物の水洗は，主として発掘作業現場で行った。石器については，超音波洗浄機を使用した。発掘調査現場では，乾燥後，主に土器の注記を実施した。注記後は，遺物カードと共に袋詰めを行い遺物台帳に必要事項を記入した。現場で水洗・注記作業を完了できなかった遺物については，埋文調査センターで実施した。注記作業は，注記用の機械と手作業で実施した。続いて遺物の一次選別を実施したが，遺物の総数が膨大であったため，古墳時代の遺物を中心に作業を実施した。土器の一次選別では，遺構ごとに大きく分類を行った。石器の一次選別では，器種分類と石材の分類を行った。石器の器種分類は，石器，礫に大きく分類した。礫については，大きさや加工，使用痕の有無，被熱の痕跡等を考慮して分類した。自然礫については，大きさや石材，被熱の痕跡の有無を台帳に記録して廃棄した。石材の分類については，肉眼的特徴による分類を基本とした。二次選別では，一次選別時より遺物の細かな観察に努めた。土器は，型式ごとに細分を行った。二次選別完了後は，それぞれの遺物の座標データの整理を実施した。座標は，グリッド配置図に準じた任意座標には変換せず，公共座標を利用した。接合作業はまず遺構ごとに行い，次に遺構を検出したグリッドから出土した遺物と実施した。実測遺物の選別では，遺構出土，包含層出土遺物の順で行った。遺物量が多いため実測が必要な遺物でも図化されていない遺物が存在する。実測や製図作業は業者に委託し，担当者が確認作業を行った。製図が完了した図面から業者に指示して図版レイアウトを作成した。遺構図，土層図等は，担当者が原図の修正を行い，受託者が製図，レイアウトを実施した。写真については，職員が撮影・選別し，レイアウトを行った。縄文時代後期・晩期・弥生時代・古墳時代・近世に関しては，文章執筆，編集作業を担当者の指導の下で支援調査員が実施した。出土遺物や記録の整理作業は，担当者の指導で受託業者が実施した。なお，製鉄関連遺構，遺物および総括の文章執筆は，愛媛大学村上恭通教授にご協力を頂いている。

### 4　土器の分類

縄文時代後期・晩期・弥生時代の土器については分類を本文中に記載している。古墳時代の土器の詳細は総括に記載した。掲載遺物番号は，縄文土器は縄１から，弥生土器は弥１から，古墳土器は１から，近世遺物は近１から始まる。

古墳時代の成川式甕は口縁部形態により，以下の４類に分類する。

甕Ａ類：口縁胴部境に稜を持ち，口縁部が大きく外反する
甕Ｂ類：口縁部がやや外反する
甕Ｃ類：口縁部が直立気味に立ち上がり，先端がやや外反する
甕Ｄ類：口縁部が内湾

### 5　石器の分類

本遺跡では、縄文時代早期に比定されるⅦｂ・Ⅶａ層～Ⅵ層，及び，縄文時代前期に比定されるⅤａ層から，多数の石器類が出土した。石器の分析を行うにあたっては、第７表及び第８表に示した石器分類表及び石材分類表に従って分類を行った。なお、出土した石器の器種及び点数等については、本文中にて報告する。縄文時代石器は１から始まり，古墳時代石器は石１から始まる。

### 4　鉄滓等の分類

鉄滓等の分類は，愛媛大学村上恭通教授の指導の下，中村有希・岩永が行った。掲載遺物番号は滓１から始まる。遺物番号は滓で統一しているが，内容は炉壁等が含まれている。

### 5　遺構内遺物出土状況

遺構内における遺物の出土状況に関しては，遺物出土状況図，遺物取上台帳記載事項，遺物カード記載事項，遺構カルテ記載内容，調査メモ等を基に床面出土遺物の判断を行っている。床面出土遺物と判断しているものは基本的に，出土状況と，遺物カード等に「床」「床着」「底

着」と記載されていることの２つを満たしている。

**６　土器の掲載サイズ**

縄文土器は 1/3，弥生土器は 1/4 で掲載している。古墳土器は基本的には 1/4 で掲載しているが，手づくね土器など一部の土器に関しては 1/3 で掲載している。

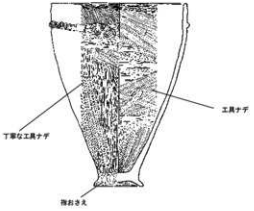
**７　土器の胎土**

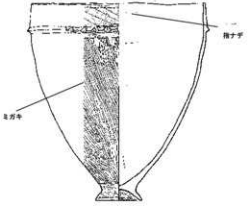
土器の胎土に含まれる混和材については以下の略称を用いている。

石：石英　長：長石　輝：輝石　雲：雲母　白：白色粒
黒：黒色粒　小：小礫

# 凡　例

本書で用いる古墳時代の土器についての基本的名称は以下の通りである。




本書で用いる近世以降の陶磁器についての基本的名称は以下の通りである。器種等の分類は、『四谷三丁目遺跡』別冊「江戸屋敷検出のやきもの分類」1991 新宿区四谷三丁目遺跡調査団を参考にした。

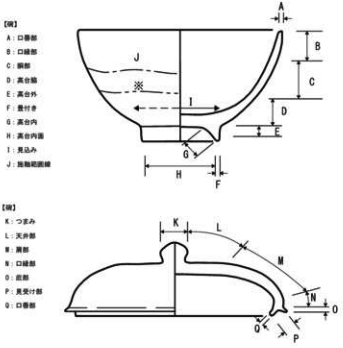


**表1−7　石器分類表**

| 器種 | | 分類 | | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 剥片石器 | 打製石鏃 | | | 素材に押圧剥離が施されて三角形状を呈するよう整形された石器。形状の違いにより細分した。 |
| | | 1 | | 全体の形状が正三角形を呈するもの。 |
| | | 2 | | 全体の形状が二等辺三角形を呈するもの。 |
| | | 3 | | 全体の形が１類・２類に合致しないもの。 |
| | 石匙 | | | 素材に二次加工が施されて刃部及び摘み部が作出された石器。摘み部と刃部の位置関係の違いにより細分した。 |
| | | 1 | | 縦長を呈するもの。 |
| | | 2 | | 横長を呈するもの。 |
| | 削器 | | | 剥片の側縁に，縁辺の長さの二分の一以上に連続的な調整によって刃部を作り出した石器。 |
| | 石錐 | | | 軸部と摘み状の頭部をもつ石器。 |
| | 横刃型石器 | | | 主要剥離面を残し縁辺部のみ剥離調整を行う石器。 |
| 礫石器 | 磨製石斧 | | | 礫や大型の剥片を素材とし，全面あるいは部分的に研磨が施されて刃部が作出されている石器。 |
| | 打製石斧 | | | 礫や大型の剥片を素材とし，素材に二次加工が施されて刃部及び着柄のための基部が作出されたもの。 |
| | | 1 | | 基部が最も狭くなり，抉りを持たず，刃部にかけて広がっていく形状を呈し，明確な柄の装着痕が確認できないもの。 |
| | | 2 | | いわゆる短冊形。基部や刃部が広がらず，全体的に幅に大きな差が見られないもの。 |
| | | 3 | | 幅狭な基部と幅広な刃部をもつものを基本とする。 |
| | | 3a | 3a | 基部の幅が刃部と比較して大きく狭くなるもの（逆三角形状） |
| | | 3b | 3b | 刃部の形状が丸みをもつもの |
| | | 3c | 3c | 刃部の先端の形状が鋭く尖るもの |
| | 擦切磨製石器 | | | 扁平な石材の表裏両面から溝状の切り込みを入れて石材を切り離す技法を用いてつくられた石器。 |
| | 石包丁 | | | 長方形または半月形の扁平な石器で，一方の長辺に刃がつき，中央に１～２個の穴がある。これにひもを通して指にかけ，稲の穂をつむのに用いる。 |
| | 礫器類 | | | 礫の一部に打撃を加え，簡単な加工を加えたのみの石器。石斧的なもの，片刃打割器的なもの，掻器的なもの，削器的なものなどがある。 |
| | 磨敲石類 | | | 主に円礫を素材とし，素材の一部に磨る・敲く作業によって生じたと思われる磨痕・敲打痕を持つ石器。 |
| | 石皿類 | | | 大礫を利用し，磨面・凹面を有する石器。磨石とセット関係にあり，木の実を磨り潰したりしたものと考えられる。 |
| | 軽石製品 | | | 軽石を素材とした石器。穿孔や凹み等加工痕が見られる。 |

**表1−8　石材分類表**

| 石材 | 分類 | 概　　要 |
|---|---|---|
| 黒曜石 | 1 | 光を通し，不純物を大量に含むもの。鹿児島市の三船，大口市の日東，五女木，錦江町の長谷等の原産地資料に類似する。 |
| | 2 | 飴色～黒色を基調とし，不純物をほとんど含まない良質のもの。えびの市の桑ノ木津留，大口市の上青木の原産地資料や自然面が磨りガラス状を呈する霧島系の資料に類似する。 |
| | 3 | 黒色で不純物を全く含まない良質のもの。佐賀県伊万里市腰岳産の資料に類似するが，一部長崎県佐世保市針尾島周辺で産出する黒色系の物も含まれる。 |
| | 4 | 青灰色で不純物の少ないもの。針尾中町や長崎県佐世保市東浜，淀姫等西北九州の原産地資料に類似するが，原産地不明の一群も含まる。 |
| | 5 | 不純物の少ない黒色の黒曜石。まれに白色の不純物を含む。霧島山系と思われる。 |
| | 6 | 灰～灰白色を基調とする黒曜石で，大分県姫島の原産地資料に類似するもの。 |
| | 7 | 上記以外のその他のもの。 |
| 安山岩 | 1a | 黒色を呈し，砂質感が強い。斜長石が殆ど含まれない。西北九州産であると考えられる。 |
| | 1b | 1aが風化したもの。 |
| | 2 | 斜長石が殆ど含まれず，珪質の光沢が見られる。西北九州産と思われる。 |
| | 3a | 上牛鼻産と考えられる。斜長石が密に含まれる。黒色もしくは青灰色を呈し，光沢感が強い。風化していない，もしくは，弱い風化が見られる。 |
| | 3b | 2に類似するが，風化が強い。 |
| | 4 | 上記以外の一般的な安山岩や，その他のもの。 |
| 凝灰岩 | | 火山灰や火山砂などが堆積し，凝固したもの。親指大の礫を含む凝灰角礫岩を含む。 |
| 閃緑岩 | | 深成岩の一種で，閃緑岩は無色鉱物として白い斜長石，　有色鉱物として黒～黒緑色の輝石類（頑火輝石・普通輝石），普通角閃石どがモザイク状に集合している |
| 斑レイ岩 | | 深成岩の一種で，有色鉱物の角閃石や輝石を多く含み，岩石全体が黒っぽい |
| 蛇紋岩等 | | 主に蛇紋石から成り，表面に蛇のような文様が見られるもの。ぬめっとした肌触りを有し，光沢がある。 |
| 頁岩 | 1 | 風化が顕著で，白色もしくは乳白色を呈するもの。 |
| | 2 | 風化が見られる。層状剥離や白筋が見られるものが多い。 |
| | 3 | 2に類似するが，風化がない，もしくは弱いもの。 |
| | 4 | 漆黒色を呈するもの。粒子が細かい。 |
| | 5 | 風化が全くない。光沢があり，黒色・黄橙色・白色・乳白色・青灰色などを呈する。珪質の頁岩。 |
| | 6 | 粘板岩に類似したもの。薄茶色を呈し剥離が強い。シルト質の頁岩。 |
| | 7 | 硬質頁岩の一種。長石が粒状に多量に含まれるものも含む。青灰～灰白色を呈する。 |
| | 8 | 上記以外のその他のもの。 |
| 砂岩 | 1 | 粒子の粗いもの。 |
| | 2 | 粒子の細かいもの。 |
| 粘板岩 | | 極微小な砂粒（泥粒）が集合して固まった堆積岩の一種。頁岩に似て層状を成すが，青灰色～茶黄色を呈する。 |
| ホルンフェルス | | 硬質化が著しく，鉱物が相異なって帯状もしくは斑状をなすもの。ただし，硬質化（もしくは，硅質化）した頁岩は本類に含めず，頁岩に分類した。 |
| めのう系 | | めのう・玉髄・石英・タンパク石・鉄石英・水晶・石英斑岩などを総称して，本類に含めた。 |
| チャート | | 珪酸を含み光沢感を有する。 |

## 第２節　層序

Ａ地点では，後世の宅地や畑地の造成による削平のためＢ～Ｄ地点で確認された基本層序のⅡ・Ⅲ層が認められずⅣ層～ⅩⅣ層までを確認した。Ⅳ層は，主に古墳時代の遺物包含層で，大きくａ・ｂの２層に分層した。Ａ地点西側の谷部では，Ⅳａ層が非常に厚く堆積しており，この部分のみⅣａ層をさらに６層に分層している。Ⅴ層は，アカホヤ火山灰層とアカホヤ火山灰層に挟まれる形で堆積する噴砂シラス層で，アカホヤ関連の層をａ～ｃ，噴砂シラス関連の層をｘ・ｙに分層した。Ⅴ層の堆積状況としては，鬼界カルデラの爆発で幸屋降下軽石のⅤｃ層が堆積し，その後アカホヤ火山灰層のⅤｂ層が降り積もり，直後に液状化が発生してシラスを含んだ砂（噴砂）が下層から噴出している。噴砂は，比重の重い小礫層であるⅤｙ層が沈み，上層にⅤｘ層である砂が堆積している。さらにⅤｂ層が上部に堆積してシラス層を挟んだ状態となっている。その後，アカホヤの二次堆積層であるⅤａ層が堆積する状況であった。Ⅵ・Ⅶ層は縄文時代早期の遺物包含層で，Ⅶ層はａ・ｂの２層に分層されている。Ⅷ層は，桜島起源の薩摩火山灰である。ａは火山灰層で，ｂは軽石が点在する層である。Ⅸ層は，細石器文化期の遺物包含層でａ～ｃの３層に分層している。Ⅹ層はナイフ形石器文化期の遺物包含層で，ⅩⅠ層は無遺物層である。ⅩⅡ・ⅩⅢ層は，ナイフ形石器文化期の遺物包含層である。ⅩⅣ層は，無遺物層の二次シラス堆積層である。

| 層名 | 色調・土質 | 層厚（cm） |
|---|---|---|
| Ⅰ層 | 暗褐色土 | 20～40 |
| Ⅳａ層 | 明褐色土 | 20～30 |
| Ⅳｂ層 | 明黄褐色土 | 5 |
| Ⅴａ層 | 淡黄褐色土 | 10～30 |
| Ⅴｂ層 | 黄褐色火山灰土 | 10～30 |
| Ⅴｘ層 | 灰白色砂 | 30～120 |
| Ⅴｙ層 | 黄灰白色砂 | 10～20 |
| Ⅴｂ層 | 黄褐色火山灰土 | 10～20 |
| Ⅴｃ層 | 黄褐色軽石 | 5 |
| Ⅵ層 | 暗褐色土 | 20～30 |
| Ⅶａ層 | 黒褐色土 | 10～30 |
| Ⅶｂ層 | 黒色土 | 20～30 |
| Ⅷａ層 | 淡黄褐色火山灰土 | 20～40 |
| Ⅷｂ層 | 淡黄褐色軽石 | 5 |
| Ⅸａ層 | 暗褐色粘質土 | 10 |
| Ⅸｂ層 | 黒褐色粘質土 | 20 |
| Ⅸｃ層 | 暗茶褐色粘質土 | 5 |
| Ⅹ層 | にぶい黄褐色粘質土 | 15 |
| ⅩⅠ層 | 明黄褐色砂質土 | 10～100 |
| ⅩⅡ層 | 暗褐色礫質土 | 30 |
| ⅩⅢ層 | 黄褐色砂質土 | 15 |
| ⅩⅣ層 | 明黄褐色砂質土 | 100～ |

Ⅴ層（アカホヤ）　Ⅷ層（桜島）

第１－４図　標準土層図

Ⅰ　層：表土である。旧耕作土，造成土を含む。場所により分層できる。

Ⅳａ層：縄文時代晩期から古墳時代の遺物包含層である。

Ⅳｂ層：池田降下軽石を含んだ層である。縄文時代晩期から古墳時代の遺物包含層である。

Ⅴａ層：アカホヤ火山灰を基本とする二次堆積の腐植土である。縄文時代前期の遺物を少量包含する。

Ⅴｂ層：アカホヤ火山灰一次堆積層である。幸屋降下軽石が点在する。無遺物層である。

Ⅴｘ層：噴砂シラスの砂層である。無遺物層である。

Ⅴｙ層：噴砂シラスの小礫層である。噴砂シラスに含まれた小礫が比重により沈んだ層である。無遺物層である。

Ⅴｃ層：幸屋降下軽石層である。ブロック状に堆積している。無遺物層である。

Ⅵ　層：縄文時代早期を主体とする遺物包含層である。

Ⅶａ層：縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅶｂ層：硬質である。縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅷａ層：薩摩火山灰層（Ｐ14）である。無遺物層である。

Ⅷｂ層：薩摩火山灰の軽石が点在する。無遺物層である。

Ⅸａ層：細石器文化期から縄文時代草創期の遺物包含層である。

Ⅸｂ層：細石器文化期から縄文時代草創期の遺物包含層である。

Ⅸｃ層：細石器文化期から縄文時代草創期の遺物包含層である。

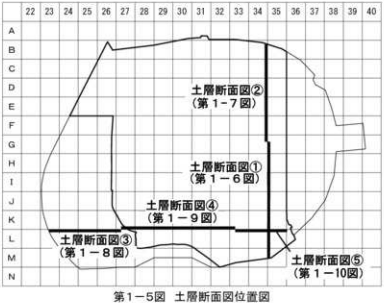
Ⅹ　層：ナイフ形石器文化期の遺物包含層である。

ⅩⅠ層：二次シラスの再堆積層である。

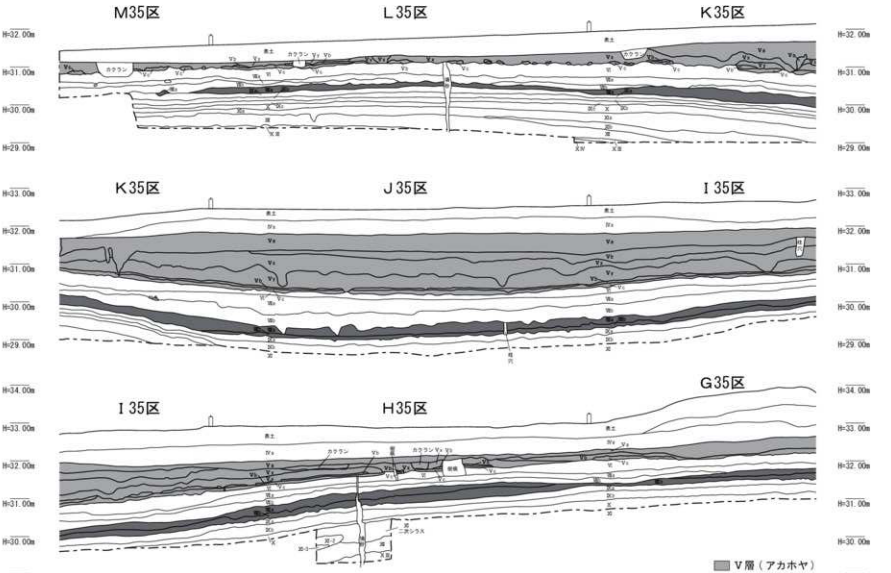
ⅩⅡ層：ナイフ形石器文化期の遺物包含層である。

ⅩⅡ層：ナイフ形石器文化期の遺物包含層である。

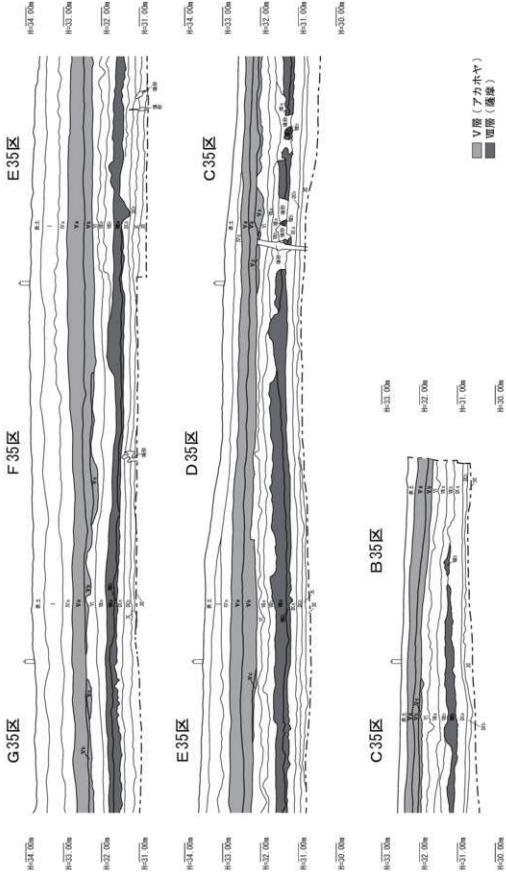
ⅩⅣ層：二次シラス堆積層である。無遺物層である。



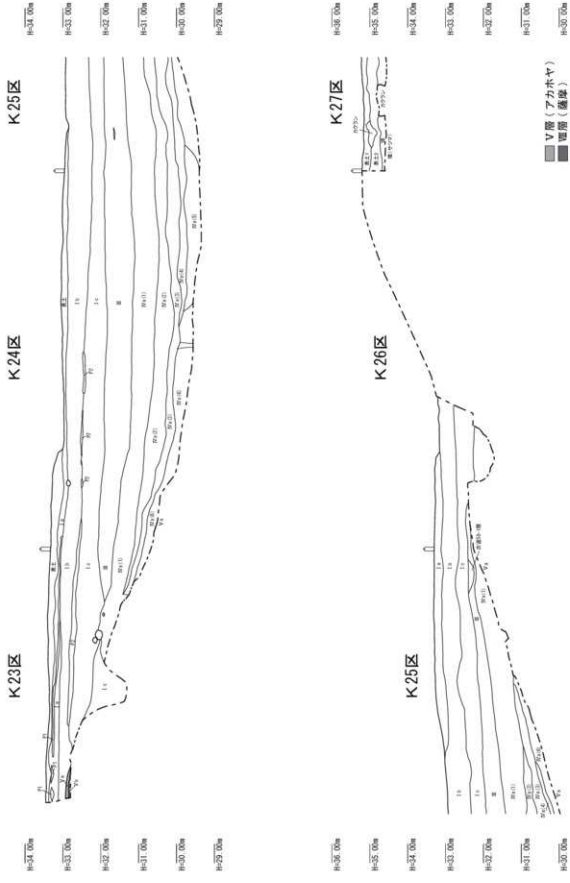

第１－５図　土層断面図位置図


M35区
L35区
K35区
K35区
J35区
I35区
I35区
H35区
G35区
H=32.00m
H=31.00m
H=30.00m
H=29.00m
H=33.00m
H=34.00m
カクラン
表土
Ⅴ層（アカホヤ）
Ⅷ層（薩摩）

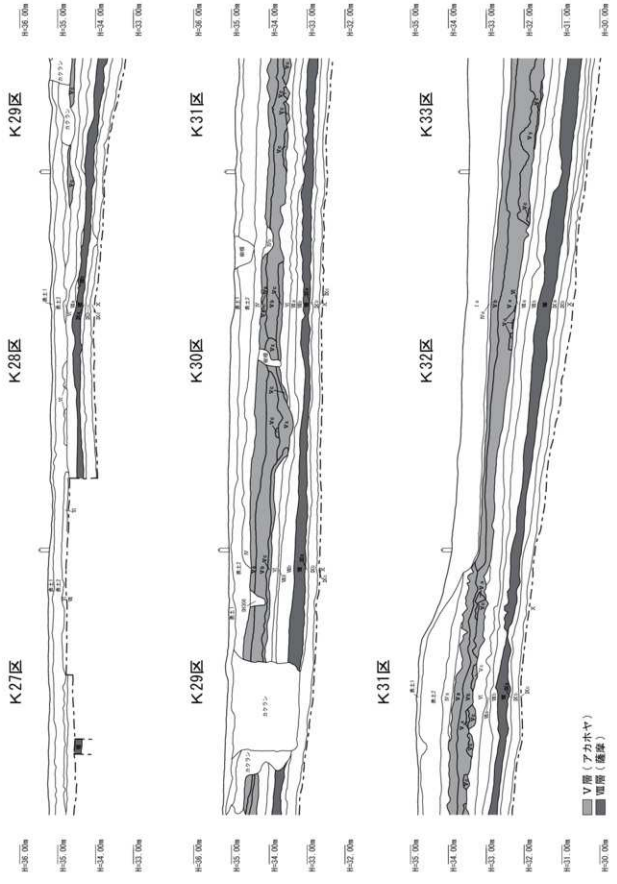
第1－6図 土層断面図(1)


G35区
F 35区
E 35区
E 35区
D 35区
C 35区
C35区
B35区
H=34.00m
H=33.00m
H=32.00m
H=31.00m
H=30.00m
V層（アカホヤ）
Ⅲ層（縄文）

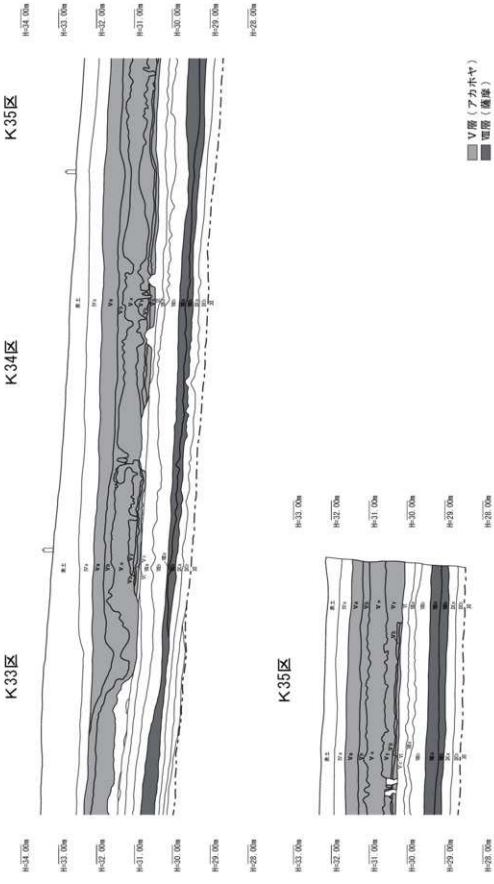
第1－7図　土層断面図②




第1－8図 土層断面図③


K27区
K28区
K29区
K29区
K30区
K31区
K31区
K32区
K33区
H=36.00m
H=35.00m
H=34.00m
H=33.00m
H=32.00m
H=31.00m
H=30.00m
Ⅴ層（アカホヤ）
Ⅵ層（薩摩）

第1－9図 土層断面図④




第1－10図 土層断面図⑤

# 第Ⅳ章　調査の成果

## 第１節　縄文時代後期・晩期・弥生時代の成果

縄文時代後期・晩期に関しては，明確な遺構は検出されていない。また，縄文時代後期の土器の多くは遺跡の西側に位置する谷部から出土しており，縄文時代後期の遺跡の本体は川久保遺跡よりも西側の台地側にあると考えられるが，川久保遺跡Ｂ・Ｄ地点では縄文時代後期の遺物はほとんど確認されていない。縄文時代晩期の土器はＡ地点の平地部，谷部から出土している。石器に関しては Ⅳ層出土の石器を縄文時代後期・晩期の石器として掲載している。弥生時代は竪穴建物跡が１基検出されている。

### １　縄文時代後期・晩期の土器（第１－13図～第１－21図）

縄文時代後期・晩期の土器については，以下の１～５類に分類している。

１類：宮ノ迫式土器ほか
２類：中岳Ⅱ式土器
３類：入佐式土器
４類：黒川式土器
　４a類：粗製土器
　４b類：精製土器
５類：組織痕土器

#### １類土器（縄１～縄39）

縄１～縄３は口唇部直下に押引状の貝殻刺突を横位に施し，その下位には凹線で文様を施している。

縄４～縄８は口唇部直下に緩位の凹線を連続して施し，口唇部には刻みを施している。

縄９～縄16は口唇部または，口唇部直下に凹点を連続して施し，その下位には横位の凹線を施している。

縄17～縄20は凹線により文様を施すものである。縄19は口唇部に粘土を貼り付け肥厚させ，２条の凹線を施している。

縄21は口縁部内面に浅い段をもち，外面には沈線で文様を施している。口縁は波状を呈するとみられる。

縄22～縄37はⅠ類土器の胴部である。縄22～縄25は幅広の凹線で文様を施し，外面の文様の影響で内面が隆起するものである。縄28は２条の平行沈線で波状の文様を施している。縄22～縄25，縄28は縄文中期まで遡る可能性がある土器であり縄22～縄25は阿高式土器，縄28は大平式土器と考えられる。縄29は２条の凹線の間に貝殻刺突を施す疑似縄文である。

縄38～縄39はⅠ類土器の底部である。縄38は若干の上げ底を呈し，底面に圧痕はみられない。縄39は平底を呈し，底面に網代編みの圧痕がみられる。

#### ２類土器（縄40～縄51）

縄40～縄51は肥厚させた口縁部に２条の凹線または沈線を施す深鉢の一群である。

縄40は口縁部が内傾し，頸部は強くくびれ，肩部はやや張り出す。口縁部と肩部に２条の沈線を施し，その直下に三日月文を連続して施している。外面は縦方向のミガキを施している。波頂部はやや肥厚させ，単体の凹点を施している。

縄41は口縁部が直行し，頸部が強くくびれ，肩部はやや張り出す。口縁部を肥厚させている。

縄42は口縁部がやや外反し，頸部のくびれは弱い。口縁部内面は浅い段をもち，外面には２条の凹線を施し，凹線間の隆起が強い。

縄43は肥厚した口縁が内傾し，外面には２条の沈線を施している。

縄44は丸みを帯びるように肥厚した口縁部が外反し，頸部はややくびれる。口縁部内面は平坦で，外面には２条の沈線を施している。

縄45は口縁部が直行し，頸部が弱くくびれる。口縁部には２条の凹線を施している。外面及び内面口縁部付近にミガキ調整を施している。

縄46は口縁部が外傾し，頸部はくびれない。口縁端部には２条の凹線を施している。口縁部内面には明瞭な稜がある。

縄47は口縁部が直行し頸部がやや強くくびれる。口縁には２条の凹線を施している。内外面とも丁寧なミガキを施し，器壁を薄く仕上げる。

縄48は口縁部が外反し，口縁から頸部にかけては直線的に伸び「く」の字形に屈曲する。口唇端部は尖り，口縁外面には凹線を１条施している。

縄49は口縁部が外反する。口縁の内面には浅い段があり，外面には２条の凹線と単体の凹点を施している。

縄50・縄51は口縁部が直行し，外面に凹線を３条施しており，後述する３類へのつながりが見られる土器である。

#### ３類土器（縄52～縄56）

縄52～縄55は，幅広の文様帯を持つ口縁部が外反する深鉢である。

縄52は３㎝ほどの文様帯に５条の沈線を施し，外面は丁寧なミガキ，内面はナデ調整を行う。

縄53は４㎝ほどの文様帯に３条の沈線を施す。

縄54は４㎝ほどの文様帯に４条の沈線を施す。文様帯の稜が明確である。

縄55は2cmほどの文様帯に2条の沈線を施す。

縄56は無文の口縁部が外反する。

**4類土器（縄57～縄128）**

縄57～縄92は器面内外に貝殻条痕やナデなどの調整を施すⅣa類の粗製深鉢である。破片がほとんどであり，今回は主に口縁部を掲載する。

縄57～縄65は肥厚しない口縁部が外反する器形である。内外面とも横ナデによる調整を施している。縄57～縄61は口唇部を丸く，縄62～縄65は口唇部を平坦に仕上げている。

縄66～縄70は口縁部が直行または内湾する器形である。縄67・縄68は器壁を薄く仕上げている。

縄71～縄89は口縁部外面に突帯を施す。縄71は外面はナデ調整，内面はミガキを施す。縄90は，胴部に刻み目をもつ突帯を有する。

縄93～縄122は器壁内外面ともに丁寧なミガキを施すⅣb類の精製土器である。

縄93～縄96は口縁端部が短く直立し，頸部が強く屈曲する器形である。縄95・縄96は口縁部内外面に沈線が施され，玉縁状口縁を呈している。

縄97～縄99は同じく玉縁状口縁であるが，頸部までが短い。縄99は胴部が丸く膨らむ。

縄100は口縁にリボン状突起を有する。

縄101～縄103は口縁部が外反し，頸部が弱く屈曲する器形である。胴部の膨らみは弱い。

縄104～縄113は，口縁部が外反し胴部で屈曲する器形である。縄104～縄107は，口唇部が外に開く。縄109・縄110は胴部の屈曲部に1条の沈線を施す。

縄114～縄119は，口縁部が外反し，ほぼ屈曲せずに胴部から底部に至る器形である。縄114は口縁部にリボン状突起が付き，その左右にヒレ状突起が付く。縄115～縄117は口縁部と胴部に1条ずつ沈線を施す。縄118・縄119は胴部に突帯を有し，縄118は無刻みであり，縄119は刻み目をもつ。

縄120は口縁部が内傾する器形である。

縄121は縦方向の突起を有する。

縄122は，口縁部外面に浅い段を持つ鉢である。器壁は薄く仕上げ，外面はナデ，内面は貝殻条痕による調整を施す。

縄123は外反する口縁をもつ粗製土器である。外面には曲線による文様を描く。

縄124は粗製土器の胴部である。外面には菱形状の文様を描く。

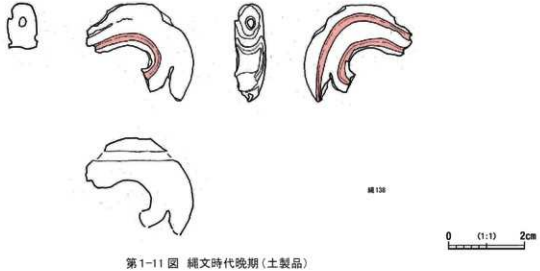
縄125～縄128は精製土器の底部である。9～10.5cm程度の底径で，胴部へは外に大きく開くように立ち上がる。縄126は底径4.5cmほどであり薄く仕上げる。内外面ともにミガキを施し，外面には数条の沈線を施す。縄128は7.5cm程度の狭い底径で厚みがあり，胴部へはゆるやかに膨らむように立ち上がる。

**5類土器（縄129～縄137）**

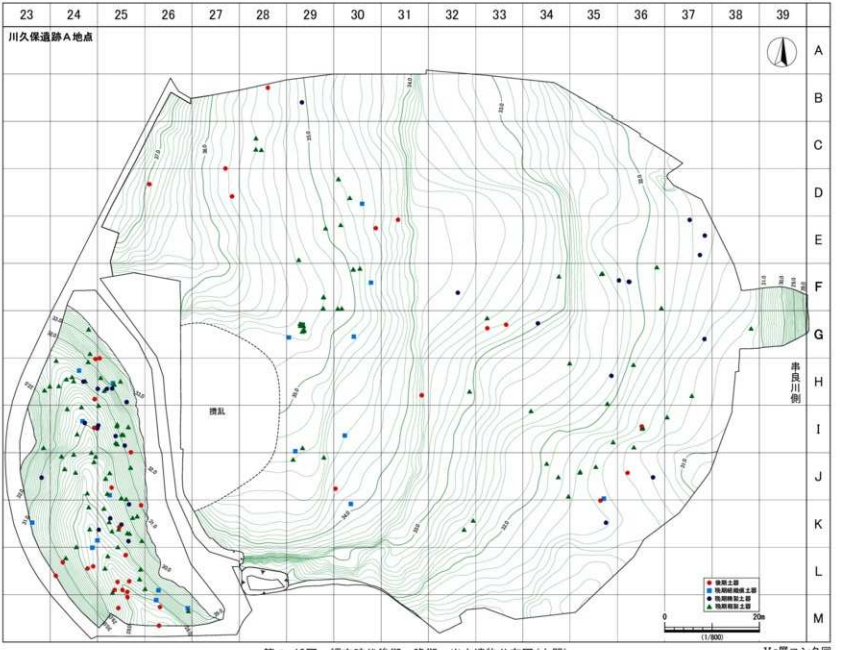
縄129～縄137は組織痕が残る土器である。

**土製品（第1-11図）**

縄138は土製品である。C・D27・28区の境界部分でⅣa層から出土しており，周辺からは縄文時代晩期土器のみが出土している。部分的に欠損が見られる。孔の長さが約1.3cmの焼成前穿孔が1か所確認できる。両面および側面に沈線文が2条施されているが，上位の沈線文の施される範囲は表裏面で異なる。沈線部分，穿孔部分，下面に赤色顔料が塗布されており，本来は全面に赤色顔料が塗布されていた可能性が考えられる。その形状から動物などをモチーフとしている可能性が考えられるが，ここでは仮称「動物型土製垂飾品」として掲載する。



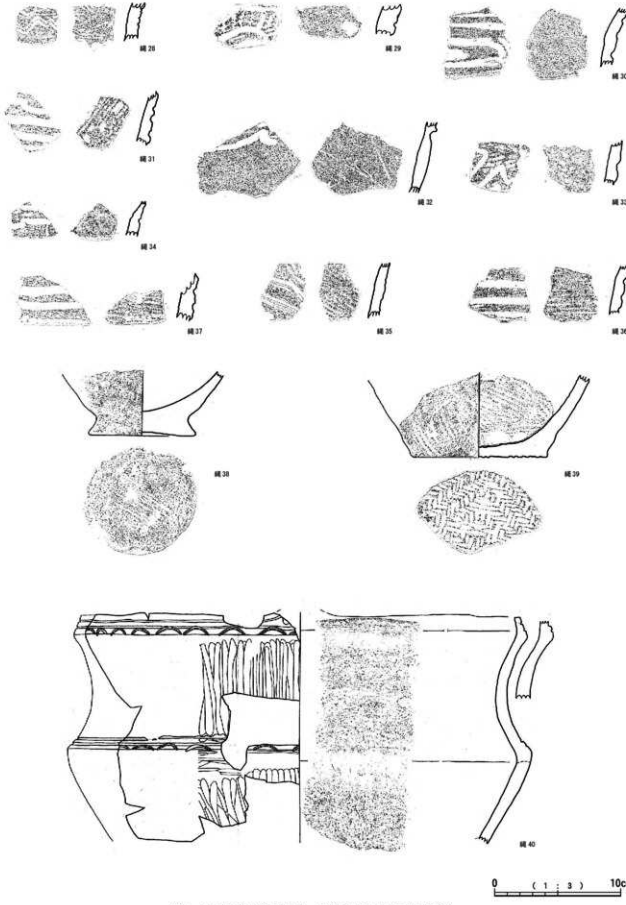

第1-11図 縄文時代晩期（土製品）



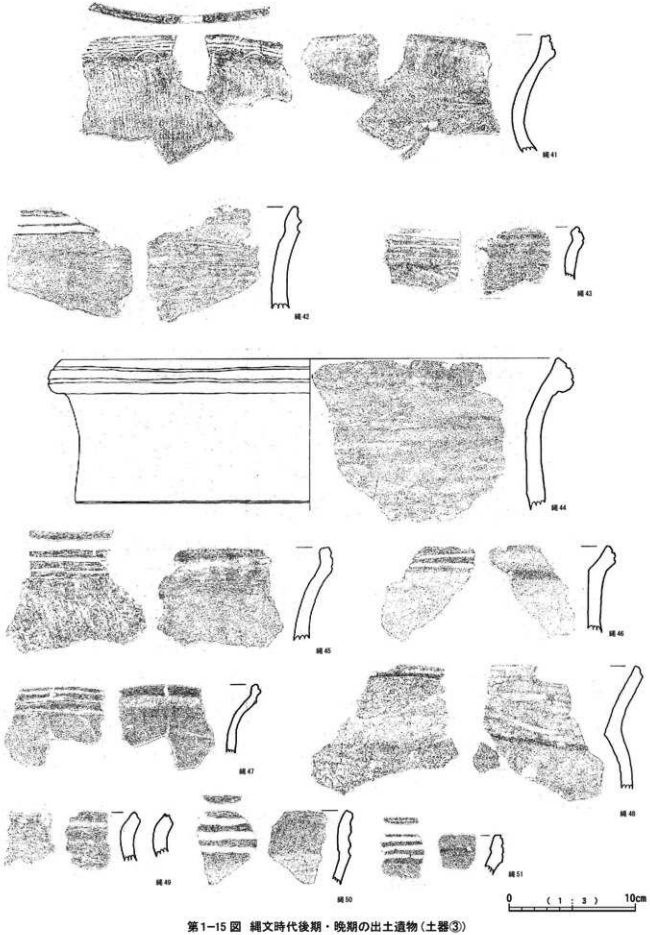

第１-12図　縄文時代後期・晩期　出土遺物分布図(土器)

Ⅴa層コンタ図

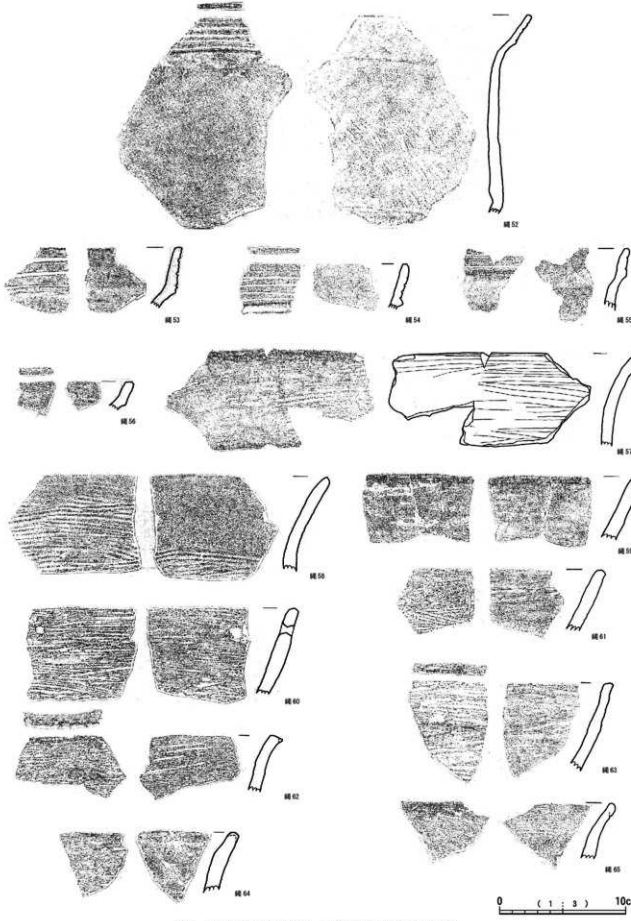
第1−13図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器①）



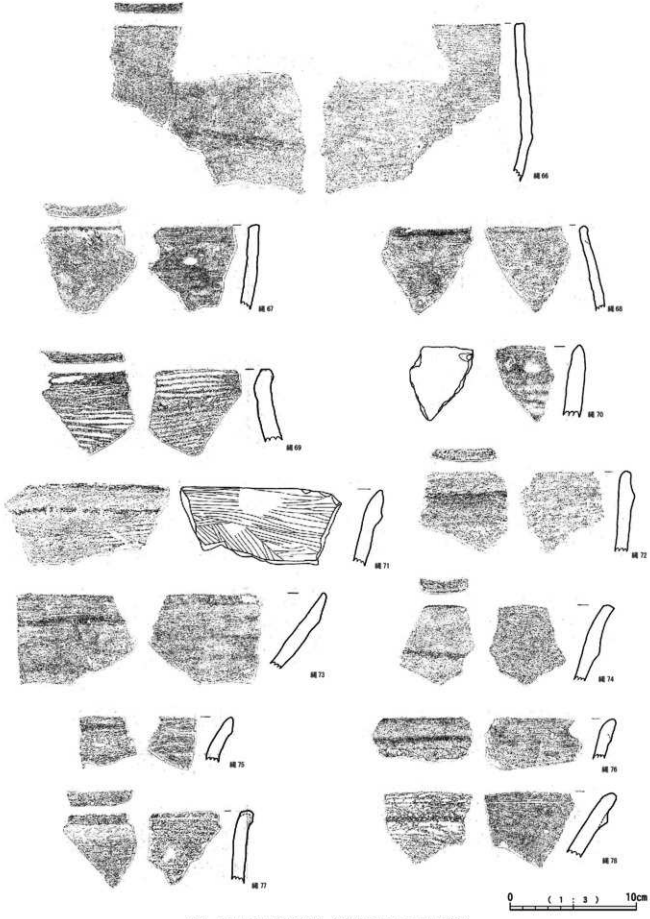

第1-14図 縄文時代後期・晩期の出土遺物(土器②)



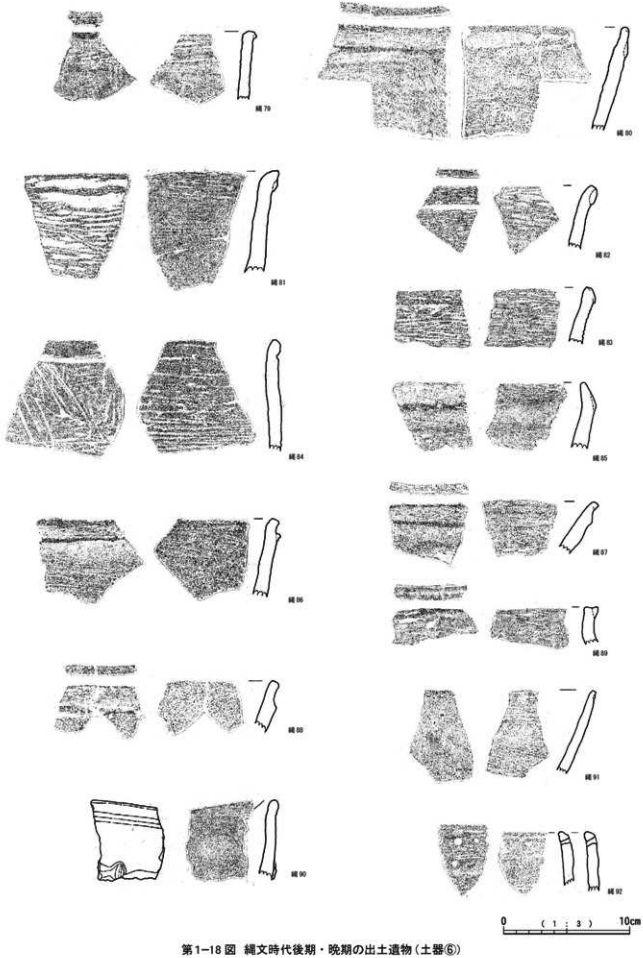

第1−15 図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器③）



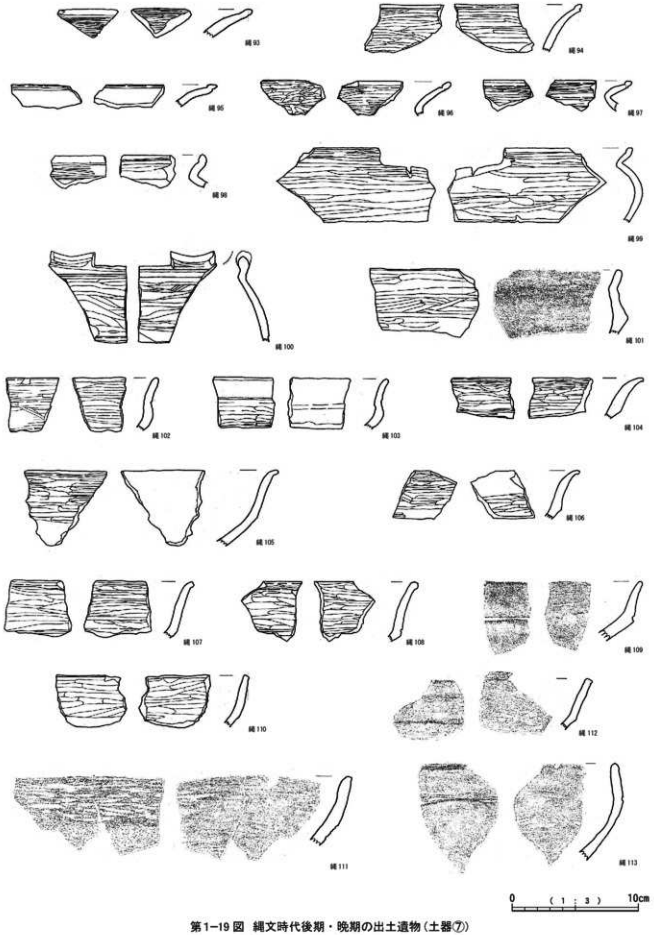

第1−16図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器④）



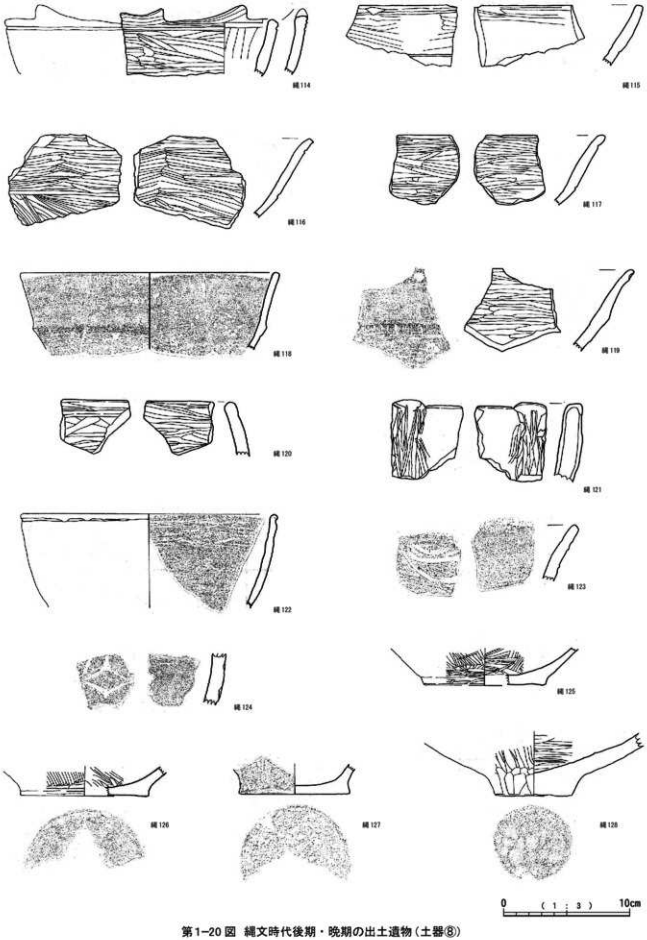

第1−17図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑤）



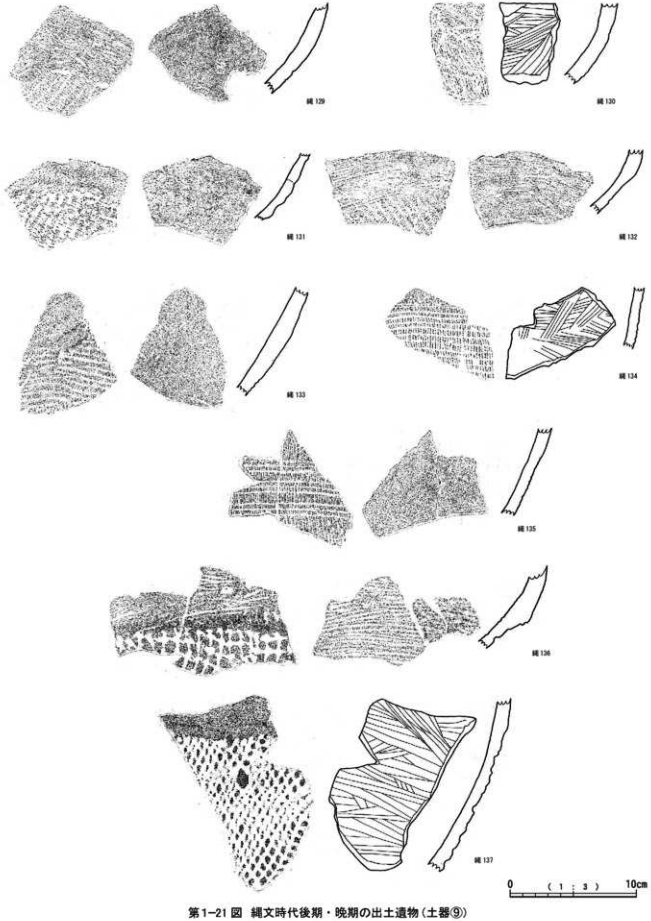

第1-18図 縄文時代後期・晩期の出土遺物(土器⑥)




第1−19図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑦）




第1-20図 縄文時代後期・晩期の出土遺物(土器⑧)




第1−21図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（土器⑨）

## 2　縄文時代後期・晩期の石器（第１-23 図～第１-39 図）

### 打製石鏃（１～31）

全体的に基部の抉りが全長の 1/5 以下と浅いものが多い傾向にある。

形状より以下のように大別して報告する。

１類：全体の形状が正三角形を呈するもの

２類：全体の形状が二等辺三角形を呈するもの

３類：全体の形状が１類・２類に合致しないもの

１～６は１類の打製石鏃である。全長約１cm～1.5cm と小振りで，脚部先端は丸みを帯びている。１は表裏両面に，２・６は裏面に主要剥離面を残している。側縁の剥離調整は細かく施されている。３は側縁が直線的で，刃部先端は１・２に比べ鋭くなっている。石材は１・２・４～６が安山岩製で，３が黒曜石製である。

７～19 は２類の打製石鏃である。７・８は脚部先端を欠損している。８は正面の右側縁が，右脚部上位で内側に屈曲し，左側縁は内側にやや弯曲している。裏面中央に平坦な剥離面を残している。13・14 は基部の抉りが全長の 1/18 以下と特に浅いものである。13 は側縁が直線的で，先端部が鋭く尖っている。14 は表面の左右側縁下位に，５mm幅程の剥離がみられる。15 は先端部及び両脚部先端を欠損している。16・18 は片側の脚部を欠損している。残存する脚部先端は，尖っている。16 は左側縁の中程上位で５mm幅程の剥離がみられる。先端部は鋭く尖っている。17 は右脚部を欠損している。18・19 は全長が３cm大と大振りであるが，厚みは 0.3cmであり，他と同程度である。19 は側縁部の凸凹が目立つ。石材は７～９・14～17 が安山岩製，10～13・18・19 が黒曜石製である。

20～31 は３類の打製石鏃である。20～23 は全長 1.4cm以下とやや小振りで側縁が弯曲または屈折し，基部の抉りが弧を描く形状を呈する。20 は側縁部が下位で内側に屈折し，基部より上位で最大幅となる。裏面に平坦な剥離面を残している。23 は横長で両側縁が上位で内側に屈折し，先端部に至っている。　24～29 は縦長で，側縁部が弯曲または屈折するものである。24 は刃部先端がやや突出し，基部の抉りは弧を描く形状を呈している。25 は側縁が上位と下位で内側に屈曲し，角を形成している。26～28 は基部の抉りが浅く，水平に近いものである。　26 は剥片素材の縁辺の一部を刃部とし，先端部の形状は丸みを帯びている。27・28 は両側縁が基部付近で左右に突出している。28 は中程でも左右に突出し，先端部も突出する。29 は両脚部先端を欠損し，正面左側縁はカーブを描きながら，先端部及び基部に至っている。石材は 20・29・30 が黒曜石製，21～24・26～28・31 が安山岩製，25 がチャート製である。

### 石錐（32）

32 は，両面より細かい剥離調整が施し錐部を作っている。錐部の先端部は鋭く尖っている。左右上端部には節理面が残る。石材は頁岩製である。

### 石匙（33～42）

形状より以下のように大別して報告する。

１類：縦長を呈するもの

２類：横長を呈するもの

33～38 は１類の石匙である。33・34 は，つまみ部と刃部境界の抉りが不明瞭なものである。33 は打点がつまみ部にある縦長の剥片を用い，表面には原礫面，裏面には主要剥離面を残している。剥離調整は縁辺のみ施されている。34 は打点が刃部側にある縦長の剥片を用い，刃部は幅広の形状を呈している。表面に主要剥離面を残し，側縁部及び刃部先端部の剥離調整は表裏両面で施されている。35～38 はつまみ部と刃部境界の抉りが明瞭なものである。35 は打点が刃部左側縁にある横長の剥片を用い，刃部は長方形の形状を呈している。表裏両面に主要剥離面を残し，表面右側縁部は裏面より，左側縁部は表面より剥離調整が施されている。裏面のつまみ部に節理面が残る。36～38 は打点がつまみ部にある剥片を用いている。36 はつまみ部と刃部境界より刃部先端に向かい窄まり，つまみ部の幅は刃部幅とほぼ同じ形状を呈している。刃部表面に主要剥離面を残し，裏面には節理面を残している。側縁部の調整は左側縁部のみ表裏両面より施されている。37 は刃部が幅広の形状を呈している。表面に節理面を，裏面に主要剥離面を残している。つまみ部及び刃部先端部の剥離調整は表裏両面で施されている。38 はつまみ部の剥離調整が表裏両面より施されているが，刃部は剥片素材を活かし簡易な調整である。表裏両面に主要剥離面を残し，表面には原礫面も残している。石材は 33・34・36・37 が安山岩製で，35 がチャート製，38 が頁岩製である。

39～42 は２類の石匙である。39 は表裏両面に主要剥離面を残し，刃部の細かい剥離調整は主に表面に施されている。刃部右端を欠損しているが，刃部左端は鋭利に突出している。40・41 は打点がつまみ部にある剥片を用い，表裏両面に主要剥離面を残している。40 は剥片素材を活かし，主に表面より簡易な刃部調整のみを施す。41 は打点が刃部にある剥片を用いている。つまみ部の剥離調整は表裏両面で，刃部の調整は主に裏面に施されている。42 は，つまみ部と刃部境界の抉りが不明瞭なものである。刃部の剥離調整は，表裏両面で行われている。

石材は 39 が黒曜石製で，40・42 が安山岩製，41 がホルンフェルス製である。

**削器(43・44)**

43は横長の剥片を用い，表裏両面に主要剥離面を残している。刃部の剥離調整は，正面左側を中心に表裏両面より施されている。44は上面と右側縁に原礫面を残す縦長の剥片を用いている。刃部の剥離調整は，表裏両面より施されている。摩耗部及び擦痕は，目視では確認出来なかった。石材は43が頁岩製で，44が安山岩製である。

**横刃型石器(45～55)**

全体的に主要剥離面を残し，縁辺部のみ剥離調整が施されている。45は原礫面を表面にし，下縁部に表裏両面より剥離調整を施し刃部を形成している。46は表面が一部の原礫面を残し磨面となっている。左上縁部を除き，表裏両面より剥離調整を施し刃部が形成されている。下縁部及び右上縁部は摩耗している。47は表面に原礫面を残し，下縁部と右側縁部に刃部が形成されている。48・49は薄い横長の剥片を用いている。48は下縁部に49は上縁部と下縁部に刃部が形成されているが，共に摩耗している。50は右側面に原礫面を残し，その原礫面以外に刃部形成がなされている。刃部の摩耗は少ない。51は裏面に原礫面を残し，表面左下縁部に刃部が形成されている。刃部の摩耗は少ない。52～55は，下縁部に刃部が形成されており，刃部の摩耗は少ない。53は右側縁部断面が折り取られたように平坦になっている。石材はすべて頁岩製である。

**打製石斧(56～79)**

打製石斧は，その形状から以下の5分類に分けて作業を行った。

1類：基部が最も狭くなり，抉りをもたず，刃部にかけて広がっていく形状を呈し，明確な柄の装着痕が確認できないもの。

2類：いわゆる短冊形，基部や刃部が広がらず，全体的に幅に大きな差が見られないもの。

3類：幅狭な基部と幅広な刃部をもつものを基本とする。

3a類：基部の幅が刃部と比較して大きく狭くなるもの(逆三角形状)

3b類：刃部の形状が丸みをもつもの

3c類：刃部の先端の形状が鋭く尖るもの

川久保遺跡では1類の打製石斧は確認できなかった。2～3類は全て柄の装着が想定される打製石斧であり，抉りもしくは基部の両側の同じ位置に摩滅が確認できるものである。56・57は2類の打製石斧である。いわゆる短冊形ではないが，台形状を呈し，基部と刃部の幅に大きな差がないものである。58～60は3a類の打製石斧である。60は刃部の先端が広く欠損している。61～72は3b類の打製石斧である。61～70のように全体的に長さの短いものが多いのが特徴である。73～79は3c類の打製石斧である。73・79は基部と刃部の幅にあまり差が見られず，刃部の先端が尖る。

**磨製石斧(80～85)**

80・81は頭部に至るまで各面がよく研磨されている。

80は猴のような形を呈し，左右側面を平坦に仕上げている。刃部左側が片減りし，やや摩耗している。82は刃部右端を欠損している。残存する刃部に刃毀れと思われる剥離痕が見られ，頭部と左側縁にも剥離痕が見られる。83・84は刃部を残し欠損している。83は左右側縁に敲打痕が残り，刃部は摩耗している。84の刃部は，摩耗及び刃毀れもあまり見られない。85は右側縁中程上位に剥離痕がみられ窪んでいる。刃部は，微細な刃毀れと摩耗が見られる。石材は80・81・84・85が頁岩製で，82が蛇紋岩製，83が閃緑岩もしくは斑レイ岩製である。

**擦切磨製石器(86・87)**

86・87は器種を特定できないが，剥片素材を研磨後擦切り切断した石器である。石包丁や砥石を作成する過程のものと思われる。86は右側面が長軸方向に研磨され，平坦になっている。擦切り切断されたかは確認できないが，石材や厚み及び表裏の加工の状況より関連があるものとしてここに掲載した。87は下部が切断されているが切断面に加工の痕跡は見られない。表裏両面の平坦部がよく研磨され，断面で見るとV字状の溝が表裏位置をずらして長軸方向に見られる。V字状の溝の側面には，擦られた痕跡が見られ，直線を意識し切断する目的で施されたものと思われる。左側縁は剥離痕が摩耗しており石斧等からの転用も考えられる。石材は粘板岩に類似した頁岩製である。

**石包丁(88・89)**

88は長方形の石包丁で，裏面に主要剥離面を残している。左上端と下端部は摩耗が著しいが右側縁から右上端にかけては剥離痕跡がみられ，他の縁辺に比べ摩耗は少ない。他の機種への転用も考えられる。89は表裏両面がよく研磨されている。刃部の研ぎ幅は表面が長く，裏面は表面の1/4以下で形成されている。中程より上位に2か所穿孔が施されている。刃部はやや摩耗している。石材は88が硬質頁岩製で，89が粘板岩に類似する頁岩製である。

**軽石製品(90・91)**

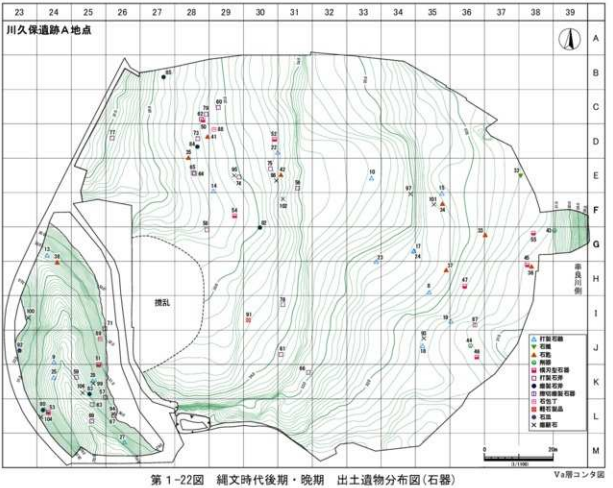
90は表面右中程と裏面に擦られたような加工痕があり，裏面は平坦になっている。表面下位と中程及び裏面中程に敲打痕が見られる。91は左右側面が擦られて平坦面に仕上げられている。

**石皿(92)**

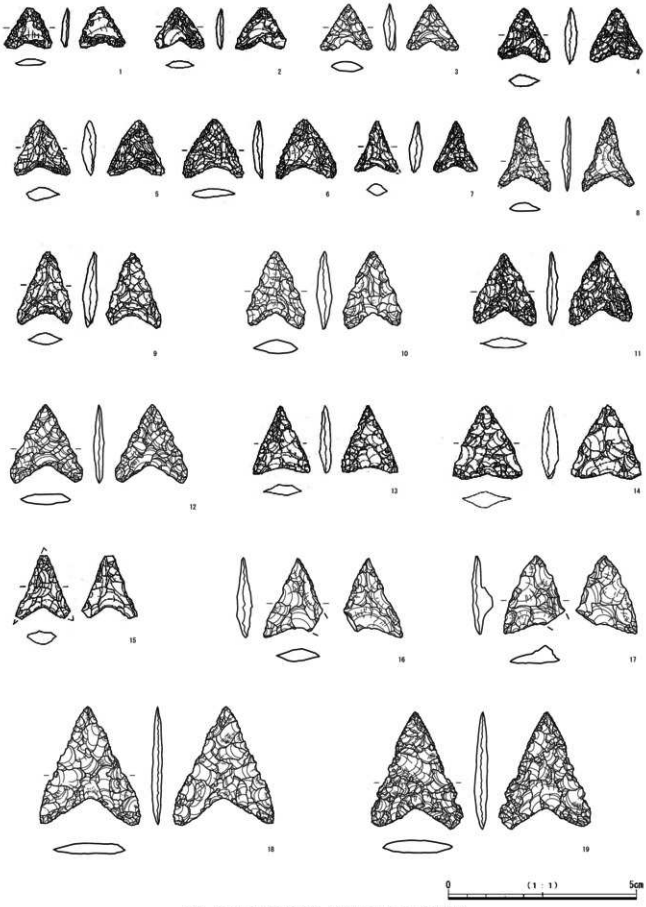
92は表面に凹みのある石皿である。全形の1/5程を欠損しており，石材は安山岩製である。

**磨敲石(93～106)**

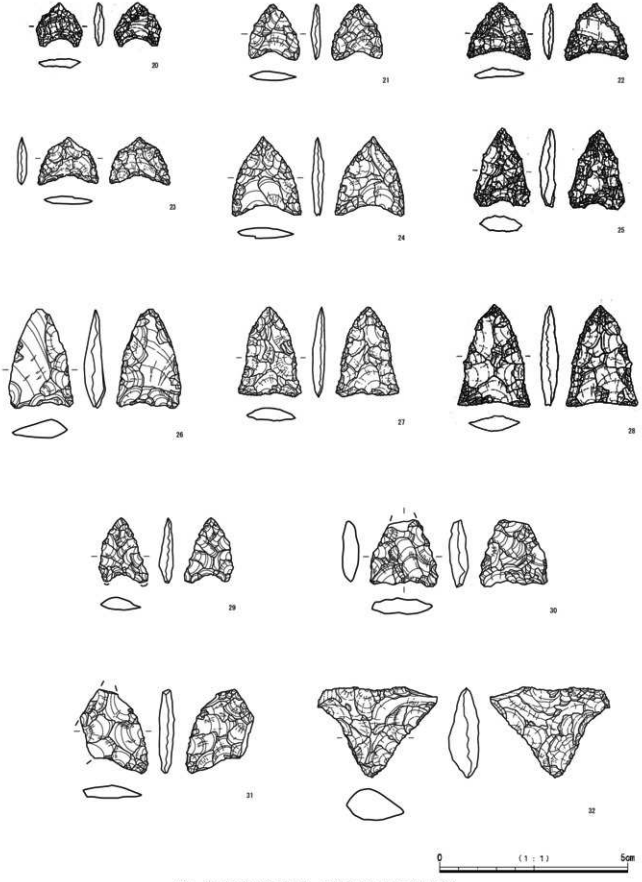
93～106は磨敲石である。全てに擦痕と敲打痕が確認できる。



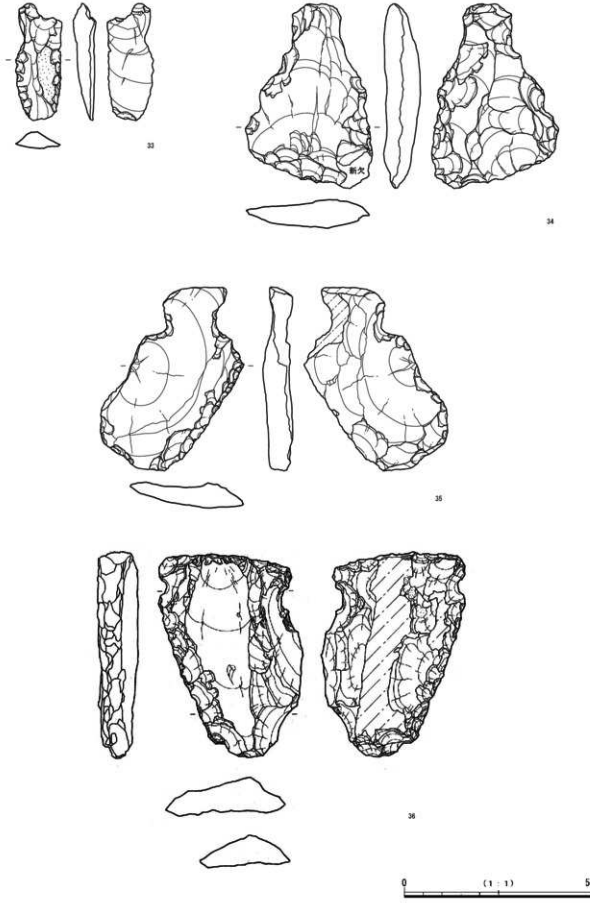

第1-22図　縄文時代後期・晩期　出土遺物分布図(石器)



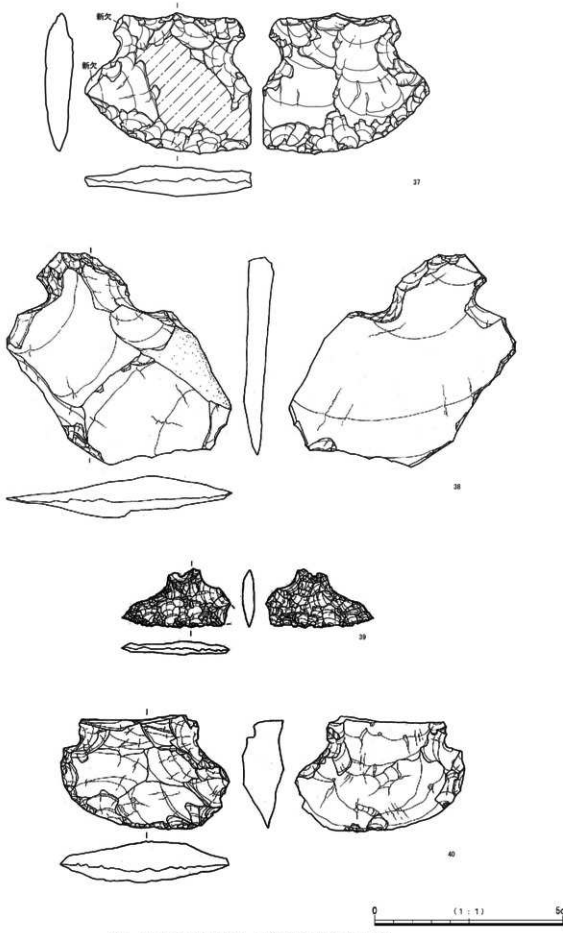

第1−23図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器①）



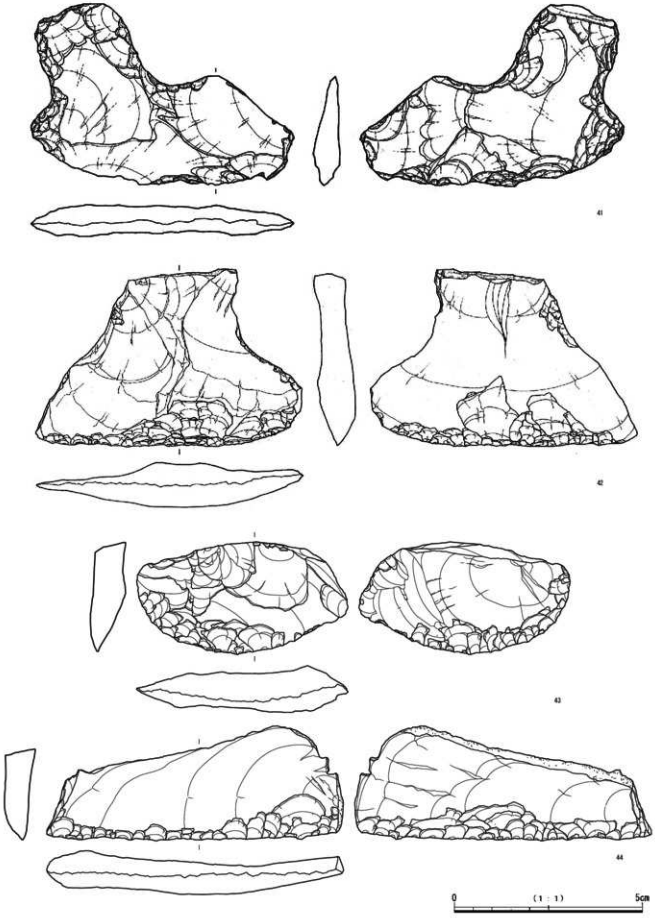

第1-24図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器②）



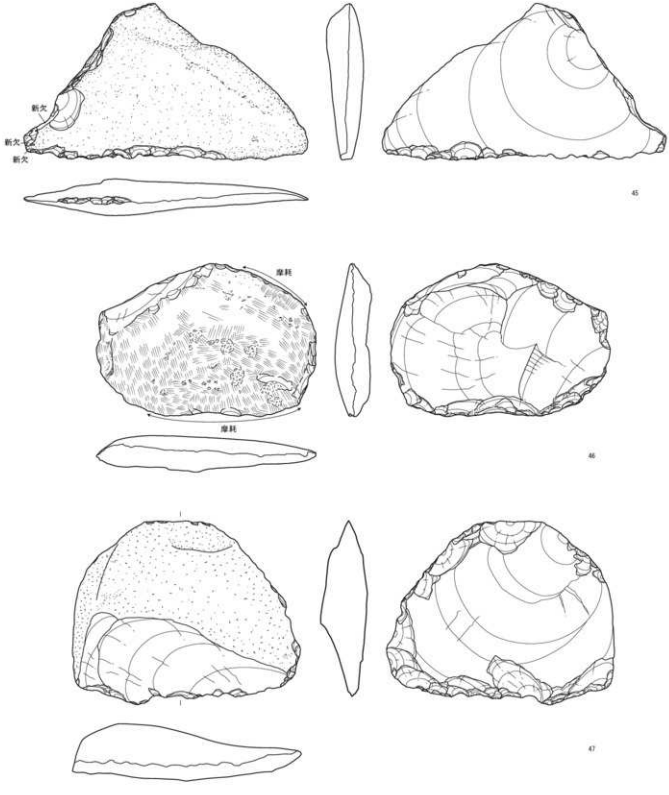

第1−25 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器③）



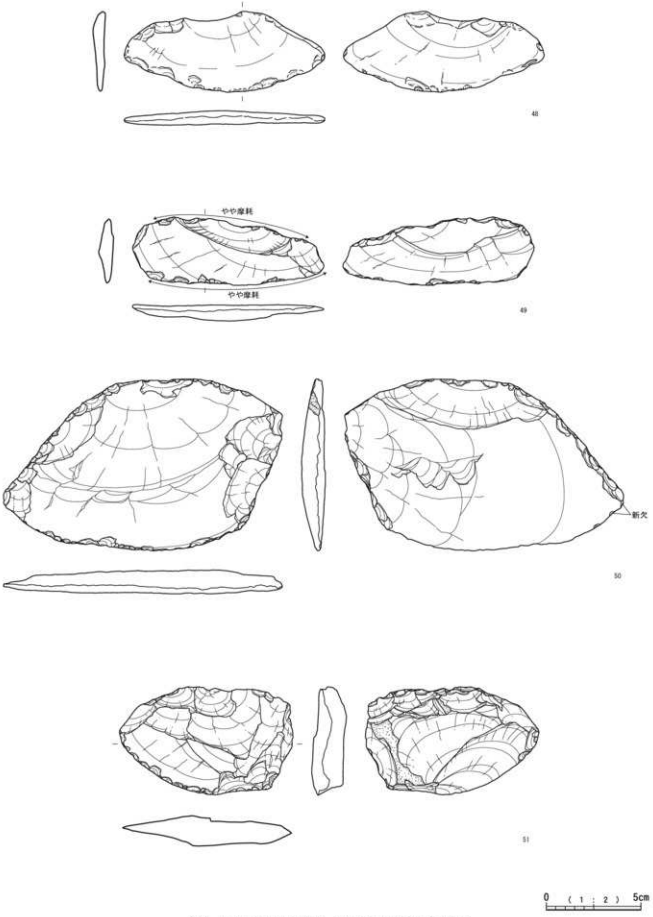

第1–26 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器④）



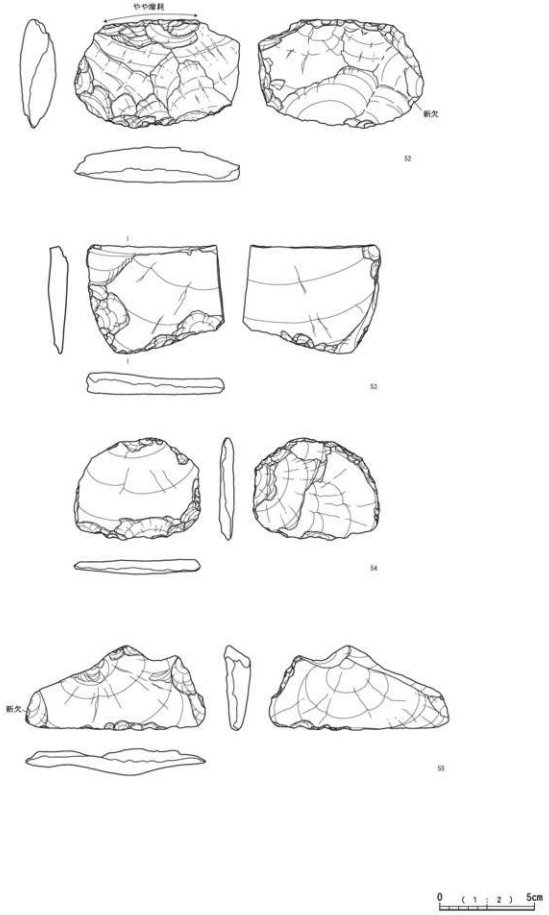

第1−27 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑤）



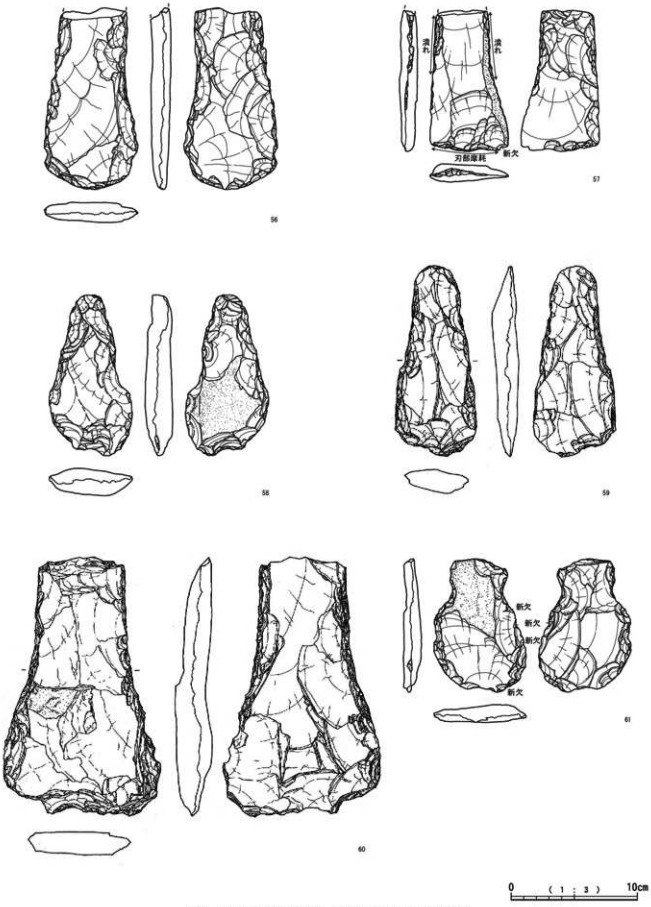

第1–28 図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑥）



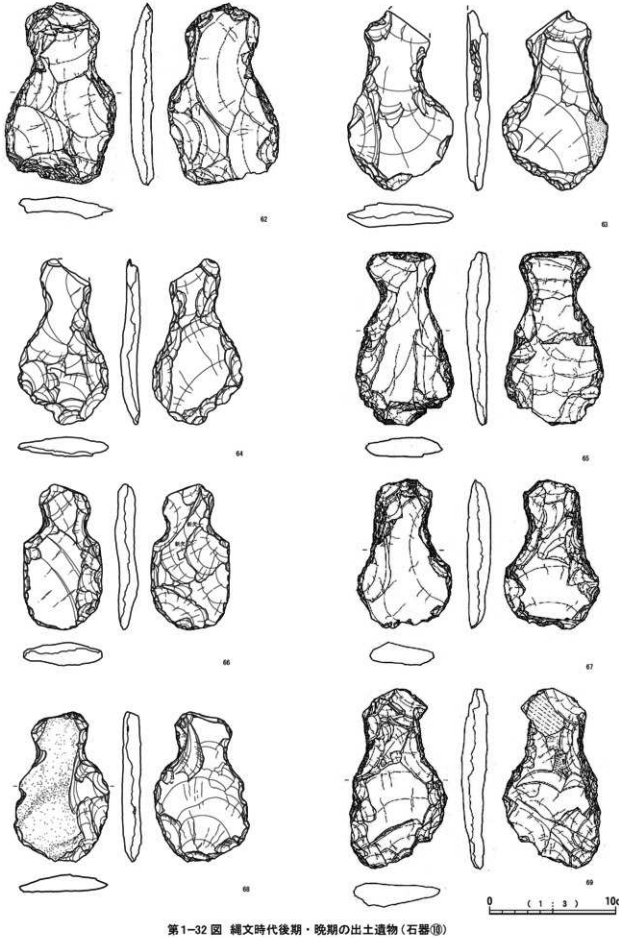

第1−29 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑦）



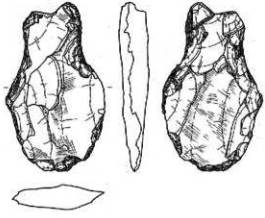

第1-30図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑧）

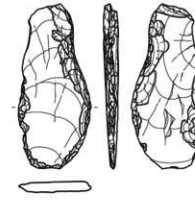


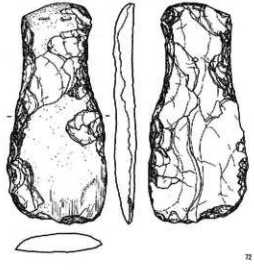

第1−31図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑨）

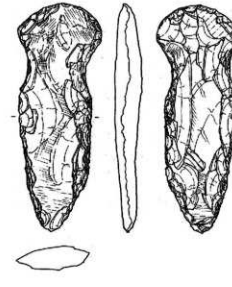


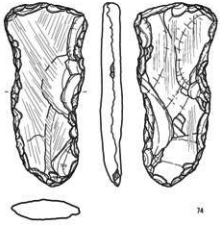

第1-32 図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑱）

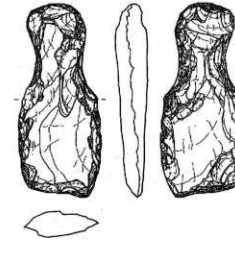


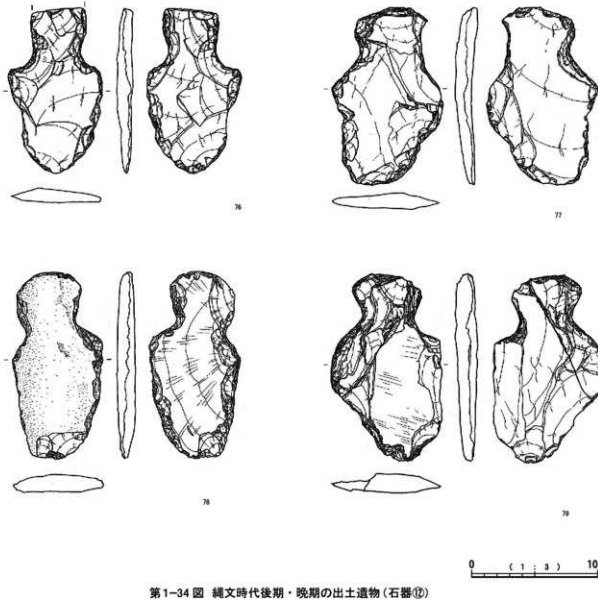



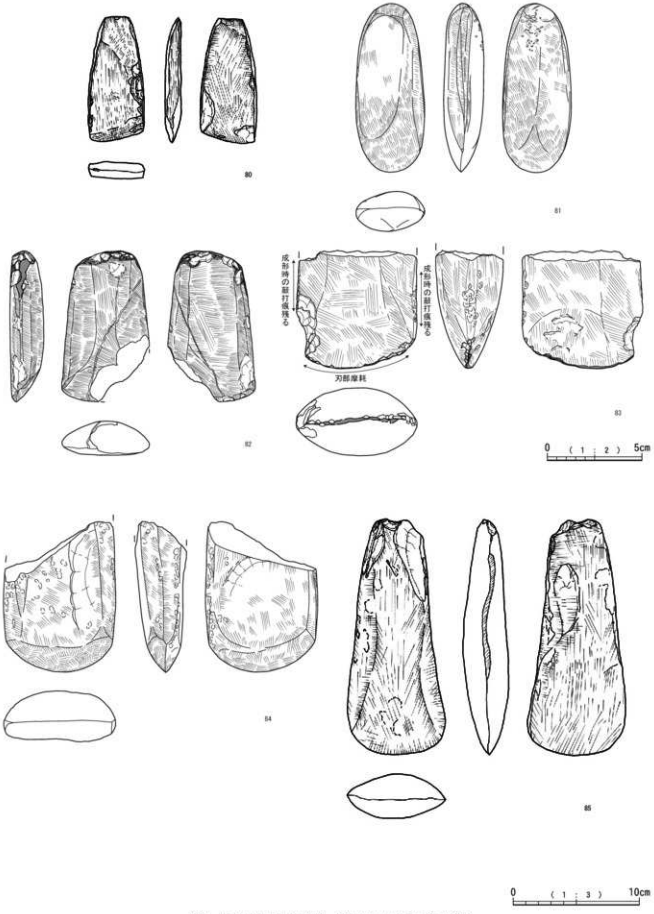




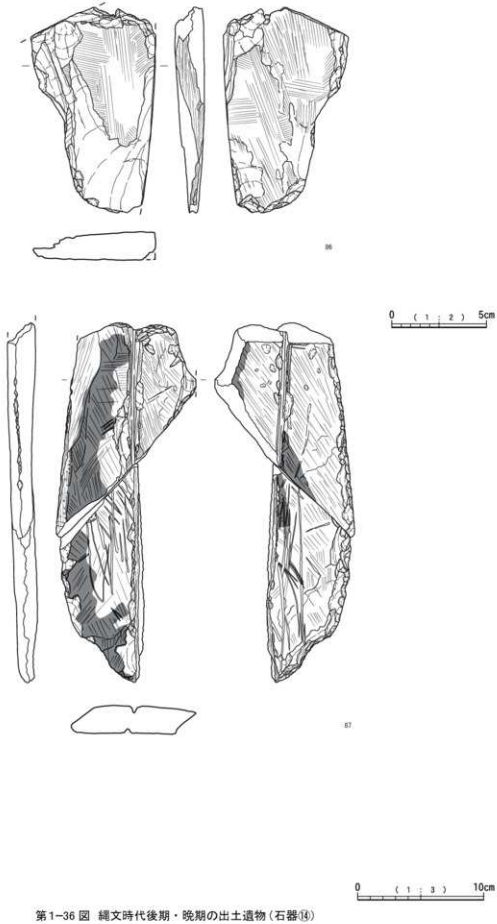
第1−33 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑪）



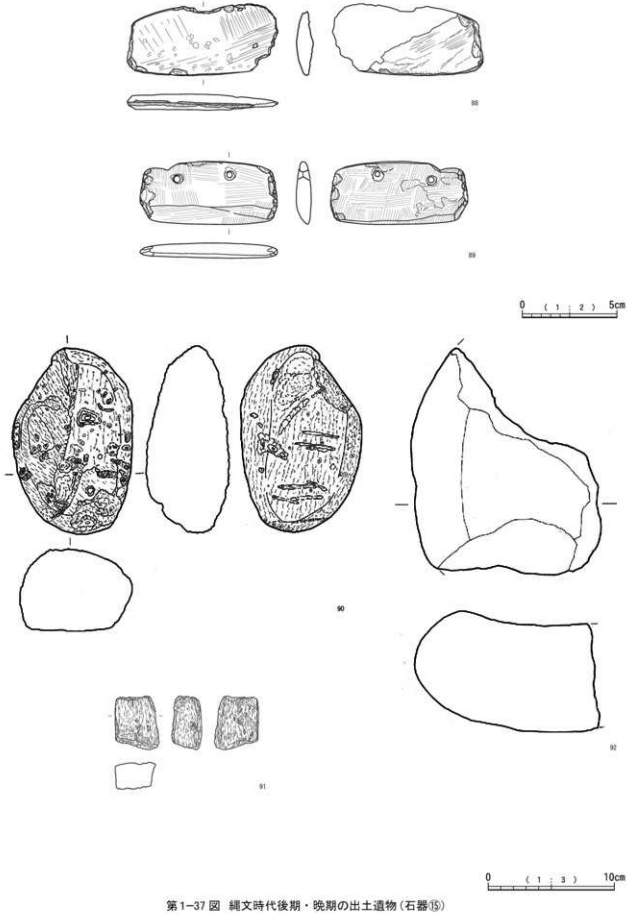

第1−34図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑫）



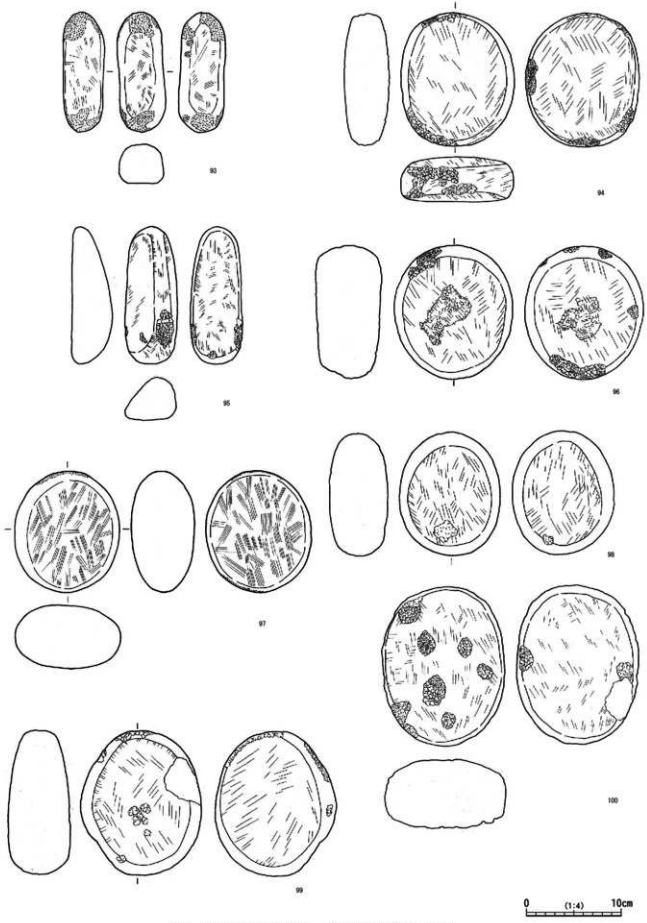

第1−35図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑬）



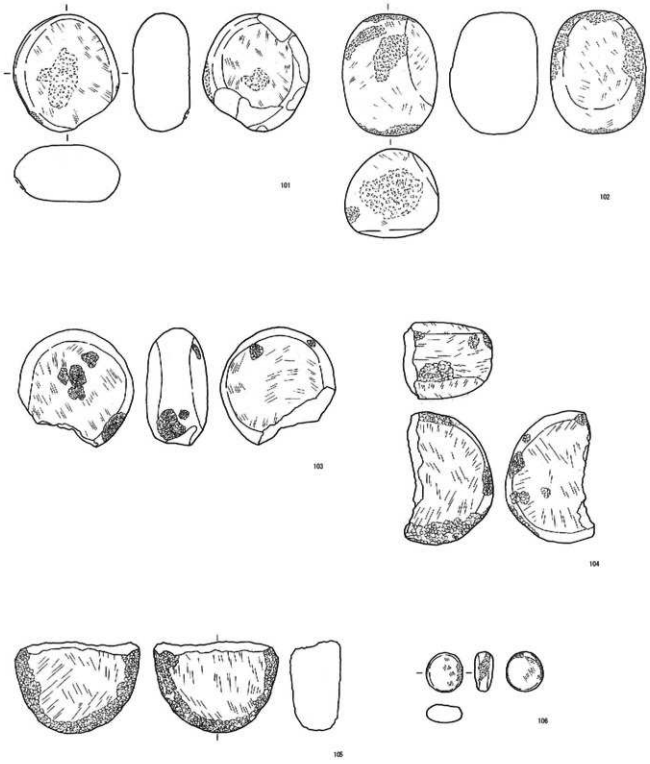

第1−36図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑭）




第1−37図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑮）




第1−38図 縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑯）




第1−39 図　縄文時代後期・晩期の出土遺物（石器⑰）

### 3　弥生時代遺構（第１－40図）

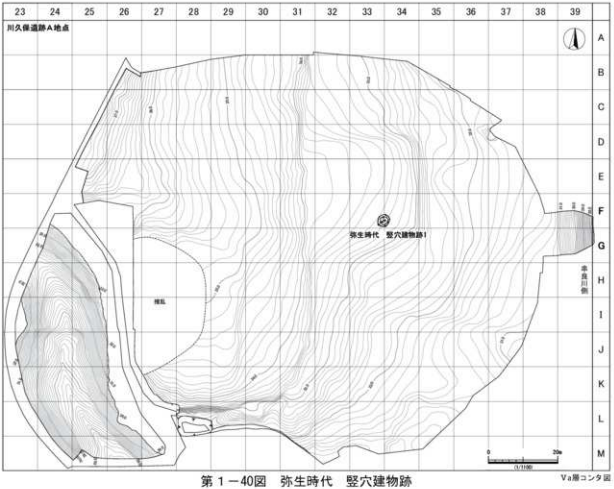
弥生時代の遺構は竪穴建物跡が１基検出されている。

**竪穴建物跡１号（第１－41図）**

竪穴建物跡１号はＦ33・34区でＶa層から検出されている。南西側がやや角張るが，直径約3.4ｍの円形を呈す。検出面から底面までの深さは約26cmで，底面から約８cmの厚さで貼床が形成されている。貼床面が形成されるのは中心部の約2.2ｍの円形の範囲内で，その外側は底面が１段高くなっており，そのまま床面となっている。遺構の中心部には南北に長い楕円形状に硬化面が広がっている。焼土や炭化物集中は検出されていない。柱穴は遺構内に13基検出されている。遺構北西部の床面から弥生時代の大型の土器片が１点のみ出土している。

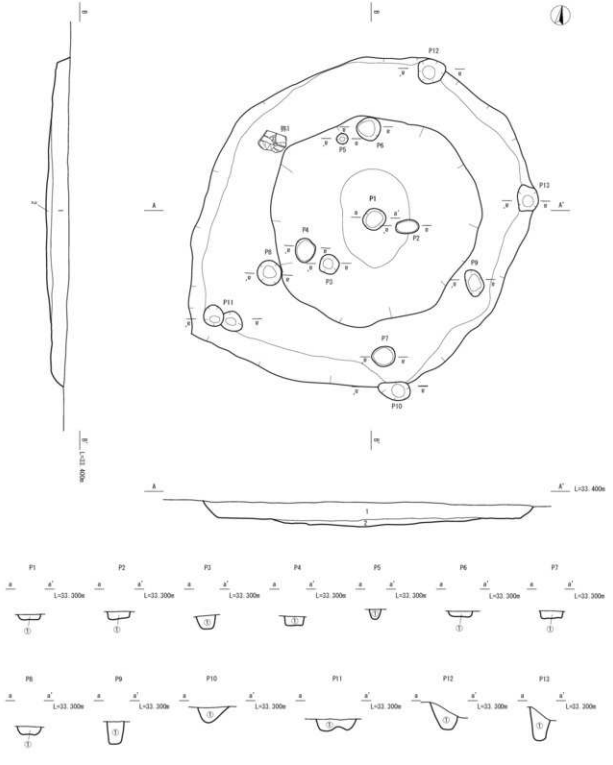
### 4　弥生時代遺物（第１－42図）

弥１は口縁部に複数の突帯を貼り付ける甕である。口径31.6cmを測る。口縁部は断面三角形状を呈し，口唇部はわずかに凹むが平坦に整形されている。口縁部に２条，胴部に３条の幅の細い突帯が貼り付けられている。突帯は断面三角形状を呈し，細かな刻目が施されている。突帯で区画された中には，縦位やわらび手状の突帯が施されている。これらの突帯も幅が細く，細かな刻目が施されている。内外面ともに丁寧な器面調整が施されており，外面は口縁部上位および突帯貼り付け部分に横方向の工具ナデが，口縁部から胴部には斜め方向の短い長さの工具ナデが施されている。内面口縁部上端は横方向の工具ナデが，口縁部は斜め方向の工具ナデが施されている。胴部は工具ナデを施した後に丁寧な指ナデにより，工具痕をナデ消している。口縁部の形状から弥生時代中期，突帯の貼り付け方からは弥生時代前期の特徴が確認できるため，弥生時代前期から中期初頭の土器と考えられる。




第１－40図　弥生時代　竪穴建物跡

Va層コンタ図

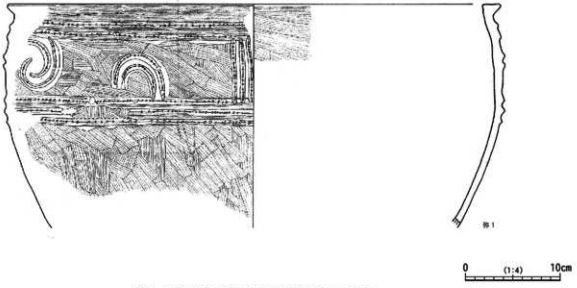



1　黒褐色土。ややしまりあり。約1～5mm程度の軽石を全体的に含む。
2　灰褐色土。中心部に近づくにつれ非常に硬くしまりあり。黄色・黄色・灰色ブロックが混じる。
　　1mm程度の小粒・軽石を含む。この建物の貼床であると考える。

柱穴埋土
① 暗灰色土。しまりは埋土1と同程度にある。黄色ブロックを含む。

0　1m
(1/40)

第１－41図　弥生時代竪穴建物跡１号




第1-42 図　弥生時代竪穴建物跡1号出土遺物

## 表1－9－1　縄文時代後期・晩期の石器　観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 器種 | 石材 | 出土区 | 層位 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重量（g） | 取上番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23－1 | 1 | 打製石鏃1 | 安山岩1a | F35 | 一括 | 1.00 | 1.10 | 0.20 | 0.20 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 2 | 打製石鏃1 | 安山岩1b | | 一括 | 1.10 | 1.20 | 0.20 | 0.20 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 3 | 打製石鏃1 | 黒曜石5 | G34・35 | 一括 | 1.20 | 1.40 | 0.30 | 0.30 | — | 中世遺構内 |
| | 4 | 打製石鏃1 | 安山岩1a | | 一括 | 1.30 | 1.20 | 0.30 | 0.30 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 5 | 打製石鏃1 | 安山岩1a | | 一括 | 1.50 | 1.50 | 0.30 | 0.40 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 6 | 打製石鏃1 | 安山岩1b | H・I34・35 | 一括 | 1.50 | 1.50 | 0.20 | 0.40 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 7 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | | 一括 | (1.30) | (1.20) | 0.30 | 0.20 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 8 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | H35 | 4a | (1.90) | (1.40) | 0.20 | 0.30 | 5297 | |
| | 9 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | J24 | 4a | 2.00 | 1.40 | 0.30 | 0.60 | 42750 | |
| | 10 | 打製石鏃2 | 黒曜石4 | E33 | 4a | 2.00 | 1.50 | 0.30 | 0.80 | 18068 | |
| | 11 | 打製石鏃2 | 黒曜石7 | H・I32・33 | 一括 | 1.80 | 1.60 | 0.30 | 0.60 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 12 | 打製石鏃2 | 黒曜石4 | I35 | 一括 | 2.10 | 1.90 | 0.30 | 0.70 | — | 表土 |
| | 13 | 打製石鏃2 | 黒曜石5 | G24 | 4a | 1.70 | 1.40 | 0.30 | 0.40 | 34146 | |
| | 14 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | E29 | 4a | 2.00 | 1.80 | 0.40 | 0.90 | 52646 | |
| | 15 | 打製石鏃2 | 安山岩1a | E35 | 4b | (1.66) | (1.46) | 0.36 | 0.50 | 25997 | |
| | 16 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | G34・35 | 一括 | (2.10) | (1.50) | 0.30 | 0.80 | — | 中世遺構内 |
| | 17 | 打製石鏃2 | 安山岩1b | G34 | 一括 | (2.10) | (1.60) | 0.40 | 0.80 | 16748 | 中世遺構内 |
| | 18 | 打製石鏃2 | 黒曜石4 | J35 | 4a | (3.10) | (2.70) | 0.30 | 1.70 | 9388 | |
| | 19 | 打製石鏃2 | 黒曜石7 | I35 | 4a | 3.10 | 2.40 | 0.30 | 1.70 | 8058 | |
| 23－2 | 20 | 打製石鏃3 | 黒曜石3 | F35 | — | 1.10 | 1.20 | 0.25 | 0.30 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 21 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | G32 | 4a | 1.50 | 1.30 | 0.20 | 0.50 | — | 土器集中3 |
| | 22 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | D36 | 4a | 2.00 | 2.50 | 0.40 | 0.40 | 59143 | |
| | 23 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | H33 | 4a | 1.20 | 1.60 | 0.20 | 0.40 | 42723 | |
| | 24 | 打製石鏃3 | 安山岩1a | G34 | 一括 | 2.10 | 1.80 | 0.30 | 0.80 | 16757 | 中世遺構内 |
| | 25 | 打製石鏃3 | チャート | K24 | 4a | 2.00 | 1.40 | 0.60 | 0.90 | 38364 | |
| | 26 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | G34 | 一括 | 2.60 | 1.70 | 0.40 | 1.80 | 一括 | 中世遺構内 |
| | 27 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | M26 | 4a | 2.40 | 1.70 | 0.30 | 1.20 | 46385 | |
| | 28 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | K25 | 4a | 2.50 | 1.80 | 0.40 | 1.50 | 43954 | |
| | 29 | 打製石鏃3 | 黒曜石6 | C33 | 一括 | (1.70) | (1.30) | 0.30 | 0.60 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 30 | 打製石鏃3 | 黒曜石4 | I・J34・I35 | 一括 | 1.80 | 1.80 | 0.40 | 1.30 | — | 集石 |
| | 31 | 打製石鏃3 | 安山岩1b | G34・35 | 一括 | 2.20 | 1.80 | 0.30 | 1.40 | — | 中世遺構内 |
| | 32 | 石錐 | 頁岩8 | E38 | 4a | 2.50 | 2.80 | 0.80 | 3.70 | 1209 | |
| 23－3 | 33 | 石匙1 | 安山岩1a | G37 | 一括 | 3.10 | 1.20 | 0.60 | 1.70 | 3518 | 中世遺構内 |
| | 34 | 石匙1 | 安山岩3a | F35 | 4a | 4.90 | 3.40 | 1.00 | 12.20 | 4569 | |
| | 35 | 石匙1 | チャート | E28 | 4a | 4.80 | 3.80 | 0.80 | 10.90 | 52636 | |
| | 36 | 石匙1 | 安山岩3a | G38 | 4a | 5.40 | 3.80 | 0.90 | 22.20 | 3670 | |
| 23－4 | 37 | 石匙1 | 安山岩3a | H35 | 4a | 3.70 | 4.40 | 0.80 | 13.20 | 4387 | |
| | 38 | 石匙1 | 頁岩2 | H24 | 4a | 5.20 | 5.10 | 0.70 | 20.30 | 33745 | |

## 表1－9－2　縄文時代後期・晩期の石器　観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 器　種 | 石　材 | 出土区 | 層　位 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重量（g） | 取上番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1-26 | 39 | 石匙2 | 黒曜石7 | I・J35 | 一括 | 1.50 | 2.70 | 0.30 | 1.20 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 40 | 石匙2 | 安山岩3a | 調査区A | 表土 | 2.90 | 4.40 | 1.10 | 13.90 | 一括 | |
| 1-27 | 41 | 石匙2 | ホルンフェルス | D28 | 4a | 4.90 | 6.90 | 0.75 | 25.60 | 58622 | |
| | 42 | 石匙2 | 安山岩1a | E31 | 4a | 4.80 | 7.10 | 1.12 | 26.80 | 51028 | |
| | 43 | 削器2 | 頁岩8 | G39 | 4a | 3.00 | 5.60 | 1.20 | 19.30 | 2390 | |
| | 44 | 削器1 | 安山岩1b | J36 | 4a | 3.00 | 7.80 | 1.20 | 22.10 | 8160 | |
| 1-28 | 45 | 横刃型石器 | 頁岩1 | G38 | 5a | 8.30 | 15.00 | 1.90 | 181.80 | 5222 | |
| | 46 | 横刃型石器 | 頁岩2 | J36 | 5a | 8.10 | 11.60 | 1.90 | 210.00 | 8499 | |
| | 47 | 横刃型石器 | 頁岩2 | H36 | 4a | 11.40 | 11.50 | 2.90 | 320.00 | 5013 | |
| 1-29 | 48 | 横刃型石器 | 頁岩1 | B33 | 一括 | 4.30 | 10.60 | 0.70 | 35.00 | — | 中世遺構内 |
| | 49 | 横刃型石器 | 頁岩1 | B32・33 | 一括 | 3.60 | 10.10 | 0.90 | 28.40 | — | 中世遺構内 |
| | 50 | 横刃型石器 | 頁岩1 | C28 | 4a | 9.10 | 14.70 | 1.30 | 172.50 | 55247 | |
| | 51 | 横刃型石器 | 頁岩3 | J25 | 4a | 5.70 | 9.20 | 1.80 | 100.30 | 28811 | |
| 1-30 | 52 | 横刃型石器 | 頁岩3 | B30 | 4a | 5.70 | 8.70 | 1.90 | 109.00 | 56242 | |
| | 53 | 横刃型石器 | 頁岩3 | L24 | 4a | 5.80 | 7.30 | 1.20 | 60.40 | 47480 | |
| | 54 | 横刃型石器 | 頁岩3 | F29 | 4a | 5.40 | 6.70 | 0.80 | 37.20 | 54138 | |
| | 55 | 横刃型石器 | 頁岩2 | G38 | 4a | 4.50 | 9.50 | 1.40 | 42.80 | 2298 | |
| 1-31 | 56 | 打製石斧2 | 頁岩2 | E31 | 4a | 14.40 | 7.40 | 1.60 | 230.00 | 57006 | |
| | 57 | 打製石斧2 | 頁岩1 | K25 | 5a | 11.20 | 6.20 | 1.40 | 120.60 | 52365 | |
| | 58 | 打製石斧3a | 頁岩2 | G29 | 一括 | 12.80 | 6.60 | 2.20 | 200.00 | 97211 | 古墳時代遺構内 |
| | 59 | 打製石斧3a | 頁岩2 | K25 | 4a | 13.20 | 5.50 | 1.80 | 131.10 | 39660 | |
| | 60 | 打製石斧3a | 頁岩3 | C29 | 4 | 18.30 | 11.10 | 2.40 | 498.30 | 57225 | |
| | 61 | 打製石斧3b | 頁岩2 | I31 | 5a | 10.60 | 7.30 | 1.40 | 105.00 | 95161 | |
| 1-32 | 62 | 打製石斧3b | 頁岩1 | C28 | 4a | 12.80 | 7.30 | 1.50 | 150.50 | 56591 | |
| | 63 | 打製石斧3b | 頁岩2 | L25 | 4a | 14.20 | 8.40 | 1.90 | 220.00 | 46941 | |
| | 64 | 打製石斧3b | 頁岩1 | E28 | 4a | 13.10 | 7.10 | 1.50 | 120.60 | 53392 | |
| | 65 | 打製石斧3b | 粘板岩 | E28 | 4a | 12.20 | 6.50 | 1.60 | 175.60 | 53803 | |
| | 66 | 打製石斧3b | 頁岩1 | K31 | 4a | 11.60 | 6.20 | 1.70 | 134.70 | 83720 | |
| | 67 | 打製石斧3b | 頁岩3 | L26 | 4a | 10.20 | 6.60 | 1.70 | 101.60 | 45321 | |
| | 68 | 打製石斧3b | 頁岩1 | J・K33 | 一括 | 11.90 | 7.50 | 1.40 | 148.50 | — | 中世遺構内 |
| | 69 | 打製石斧3b | 頁岩3 | L25 | 4a | 12.10 | 6.90 | 1.60 | 140.00 | 48242 | |
| 1-33 | 70 | 打製石斧3b | 頁岩3 | H～J32・33 | 一括 | 11.90 | 6.90 | 2.00 | 154.10 | — | 表土 |
| | 71 | 打製石斧3b | 頁岩2 | I25 | 4a | 5.70 | 13.10 | 1.20 | 97.80 | 37380 | |
| | 72 | 打製石斧3b | 頁岩2 | J32 | 一括 | 11.80 | 5.20 | 1.10 | 207.40 | — | 表土 |
| | 73 | 打製石斧3c | 頁岩3 | D28 | 4a | 16.10 | 5.20 | 1.90 | 1850.00 | 51400 | |
| | 74 | 打製石斧3c | 頁岩1 | E29 | 4a | 5.50 | 14.50 | 1.60 | 196.80 | 53443 | |
| | 75 | 打製石斧3c | 頁岩1 | E30 | 4a | 13.60 | 5.80 | 2.20 | 185.40 | 51570 | |

## 表1－9－3　縄文時代後期・晩期の石器　観察表

| 図版番号 | 掲載番号 | 器種 | 石材 | 出土区 | 層位 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重量（g） | 取上番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1/34 | 76 | 打製石斧3c | 頁岩1 | J・K32・33 | 一括 | 11.60 | 6.50 | 1.10 | 82.70 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 77 | 打製石斧3c | 頁岩2 | D26 | 4 | 12.50 | 7.80 | 1.20 | 122.60 | 25309 | |
| | 78 | 打製石斧3c | 頁岩2 | I31 | 5a | 13.20 | 6.30 | 1.30 | 142.00 | 110252 | |
| | 79 | 打製石斧3c | 頁岩2 | C28 | 4a | 13.20 | 7.80 | 1.50 | 155.40 | 55243 | |
| 1/35 | 80 | 磨製石斧 | 頁岩2 | L24 | 4a | 3.10 | 1.20 | 0.80 | 25.70 | 43189 | |
| | 81 | 磨製石斧 | 頁岩4 | | 一括 | 8.90 | 3.60 | 2.10 | 100.60 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 82 | 磨製石斧 | 蛇紋岩 | G30 | 4a | 8.00 | 4.60 | 1.80 | 99.80 | 55160 | |
| | 83 | 磨製石斧 | 閃緑岩・斑レイ岩 | K25 | 4a | 6.30 | 6.90 | 3.60 | 210.00 | 49533 | |
| | 84 | 磨製石斧 | 頁岩1 | D28 | 4a | 8.00 | 6.00 | 2.70 | 163.40 | 58130 | |
| | 85 | 磨製石斧 | 頁岩2 | R27 | 4a | 12.30 | 5.90 | 2.30 | 173.30 | 58439 | |
| 1/36 | 86 | 擦切磨製石器 | 頁岩7 | | 一括 | 10.80 | 6.60 | 1.50 | 125.50 | — | 古墳時代遺構内 |
| | 87 | 擦切磨製石器 | 頁岩7 | I36 | 4 | 19.00 | 7.40 | 1.40 | 172.30 | 6331 | |
| 1/37 | 88 | 石包丁 | 頁岩7 | D29 | 4 | 3.30 | 7.30 | 0.80 | 31.40 | 49906 | |
| | 89 | 石包丁 | 頁岩7 | J25 | 4a | 3.80 | 7.90 | 0.90 | 34.20 | 34969 | |
| | 90 | 軽石製品 | 軽石 | K30 | 一括 | 14.80 | 9.50 | 6.50 | 170.00 | - | 中世遺構内 |
| | 91 | 軽石製品 | 軽石 | I30 | 一括 | 4.30 | 3.50 | 2.10 | 12.90 | 80383 | 中世遺構内 |
| | 92 | 石皿 | 安山岩4 | J23 | 4a | (18.00) | (14.10) | 8.50 | 2567.00 | 44905 | |
| 1/38 | 93 | 磨敲石 | 砂岩 | J35 | 4a | (9.40) | (3.75) | 3.10 | 180.00 | 9360 | |
| | 94 | 磨敲石 | 花崗岩 | L26 | 4a | (10.50) | (8.85) | 3.55 | 544.00 | 45085 | |
| | 95 | 磨敲石 | 砂岩 | E29 | 4a | (10.90) | (4.10) | 3.40 | 182.00 | 56625 | |
| | 96 | 磨敲石 | 凝灰岩 | L33 | 表土 | (10.55) | (9.30) | 5.20 | 990.00 | - | |
| | 97 | 磨敲石 | 安山岩 | F34 | 4a | (9.50) | (8.30) | 5.00 | 580.00 | 651 | |
| | 98 | 磨敲石 | 凝灰岩 | E30 | 4a | (9.70) | (7.95) | 4.60 | 568.00 | 56187 | |
| | 99 | 磨敲石 | 凝灰岩 | K25 | 4a | (11.40) | (9.50) | 5.00 | 781.00 | 46360 | |
| | 100 | 磨敲石 | 凝灰岩 | I23 | 4a | (12.60) | (9.65) | 5.55 | 840.00 | 33334 | |
| 1/39 | 101 | 磨敲石 | 砂岩 | E34 | 4a | (9.35) | (8.40) | 4.50 | 460.00 | 4481 | |
| | 102 | 磨敲石 | 砂岩 | F31 | 4a | (9.60) | (7.50) | 6.90 | 800.00 | 54279 | |
| | 103 | 磨敲石 | 凝灰岩 | N16 | 4a | (9.25) | (9.10) | 4.80 | 467.00 | 40173 | |
| | 104 | 磨敲石 | 凝灰岩 | L24 | 4a | (10.55) | (7.05) | 6.10 | 649.00 | 42340 | |
| | 105 | 磨敲石 | 花崗岩 | K32 | 表土 | (7.15) | (9.90) | 4.00 | 449.00 | - | |
| | 106 | 磨敲石 | 砂岩 | K25 | 4a | (3.90) | (2.80) | 1.85 | 16.20 | 43257 | |

公益財団法人　鹿児島県文化振興財団　埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（53）
東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 川久保遺跡５　Ａ地点

## 縄文時代後期・晩期・弥生編（第１分冊）

発 行 年 月　2023年３月
編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人　鹿児島県文化振興財団　埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-70-0574　FAX 0995-70-0576
印　　刷　測上印刷株式会社
〒891-0122　鹿児島市南栄３丁目１-６
TEL 099-268-1002　FAX 099-266-3423